

**I-O DATA**

**PC98-NX及びDOS/V&PC-9821シリーズ用  
CardBus / 16bit両用  
Duo SCSI PCカード**

**CBSC II**

**取扱説明書**

19804-03

## 【ご注意】



- 1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
- 2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
- 3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、株式会社アイ・オー・データ機器サポートセンターまでご連絡ください。
- 4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
- 5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す場合には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
- 6) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
- 7) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
- 8) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
- 9) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関する設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込みでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 10) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
- 11) お客様は、本製品を一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
- 12) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
- 13) お客様は、本製品または、その使用权を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft, Windows, WindowsNT, MS, MS-DOSは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。


# 安全上のご注意


このたびは、弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお  
使いいただくための注意事項を記載しています。  
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。


## ■警告及び注意事項


 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。


## ■絵記号の意味


 この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。  
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)  「発火注意」を表す絵表示

 この記号は禁止の行為を告げるものです。  
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)  「分解禁止」を表す絵表示

 この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。  
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)  「電源プラグを抜く」を表す絵表示

## 警告



厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。



分解禁止

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因になります。

修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。



電源プラグ  
を抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源がある場合は、電源を切ってコンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



発火注意

本製品の取り扱いには、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。火災や故障の原因になります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因となります。



禁止

本製品を濡らしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、雨天・降雪中、海岸・水辺での使用は火災・感電・故障の原因となります。

## 注意



注意

本製品を使用中に誤った操作をしてデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

故障に備えて定期的にバックアップをお取りください。



禁止

本製品は以下のような場所(環境)で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

- 振動や衝撃の加わる場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気やホコリが多い場所
- 温湿度差の激しい場所
- 熱の発生する物の近く(ストーブ、ヒータなど)
- 強い磁力電波の発生する物の近く  
(磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など)
- 水気が多い場所(台所、浴室など)
- 傾いた場所
- 本製品に通風孔がある場合は、その通風孔をふさぐような場所
- 腐食性ガス雰囲気中(CI<sub>2</sub>、H<sub>2</sub>S、NH<sub>3</sub>、SO<sub>2</sub>、NO<sub>x</sub>など)
- 静電気の影響の強い場所
- 保温性・保湿性の高い(ジュータン・カーペット・スポンジ・ダンボール箱・発砲スチロールなど)場所



禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

- 落としたり、衝撃を加えない
- 本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- 重いものを上にのせない
- そばで飲食・喫煙などをしない
- 本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない



厳守

アクセラランプがある製品では、アクセラランプ点灯中に電源を切ったり、パソコンをリセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

## ■はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。



## 本書をご覧になるにあたって ●

### ● 呼び方

呼び方	意味
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Operating System およびMicrosoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemの総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating Systemの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows Me/98/95	Windows Me, Windows 98およびWindows 95の総称
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Version 4.0 Operating System
Windows 3.1	Microsoft® Windows® Version 3.1 Operating System
Windows	Windows Me/98/95, Windows XP, Windows 2000, Windows NT 4.0およびWindows 3.1の総称

## ● ハードウェア構成

本書では以下のような構成を想定して説明しています。構成の相違点を確認しながら読み進めてください。

### PC98-NXシリーズ及びDOS/Vマシンの場合

《ドライブ構成》

A：フロッピーディスクドライブ3.5インチ (1.44M/バイト/720K/バイト)

C：ハードディスクドライブ

ご使用になるOSがインストール済みで起動可能であること。

D：CD-ROMドライブ



### PC-9821シリーズの場合

《ドライブ構成》

A：ハードディスクドライブ

ご使用になるOSがインストール済みで起動可能であること。

B：ハードディスクドライブ

C：フロッピーディスクドライブ3.5インチ

D：CD-ROMドライブ



# もくじ

安全上のご注意 .....	i
はじめに .....	iv
もくじ .....	vi

## 第1章 ご使用になる前に

特徴 .....	2
箱の中には .....	4
各部の名称 .....	6
動作環境 .....	7
制限事項 .....	9
取り扱い及び使用上の注意 .....	12
実行用ディスクを作ろう .....	13

## 第2章 Windows XPでご使用の場合

使用するモードを決定する .....	16
インストール .....	17
インストール終了後の確認 .....	20
SCSI機器の設定・フォーマット .....	23
取り外す場合の注意事項 .....	24
困った時には .....	28



### 第3章 Windows 2000でご使用の場合

使用するモードを決定する.....	32
インストール.....	33
インストール終了後の確認.....	38
SCSI機器の設定・フォーマット.....	40
取り外す場合の注意事項.....	41
Windows 2000自体をインストールするには.....	45
困った時には.....	57

### 第4章 Windows Me/98/95でご使用の場合

使用するモードを決定する.....	62
インストール.....	64
パソコンとの接続.....	67
インストール終了後の確認.....	73
SCSI機器の設定・フォーマット.....	81
取り外す場合の注意事項.....	93
DOS上からWindows Me/98/95 をインストールするには.....	97
CBSC IIの詳細設定.....	106
インストールした情報を削除するには.....	117
困った時には.....	119

## 第5章 Windows NT 4.0でご使用の場合

パソコンとの接続 .....	142
インストール .....	145
インストール終了後の確認 .....	147
RESEDITについて .....	149
DOS上からWindows NT 4.0 をインストールするには .....	152
困った時には .....	153

## 第6章 Windows 3.1、MS-DOSでご使用の場合

設定の前に .....	156
インストール .....	157
パソコンとの接続 .....	163
CBSC II ドライバの組み込み例 .....	167
各SCSI機器ドライバについて .....	172
Windows 3.1用ASPIドライバ .....	174
SCSI機器使用時の注意事項 .....	175
SCSI機器のフォーマット .....	176
デバイスドライバについて .....	178
ユーティリティソフトウェア .....	184
困った時には .....	191

## ふろく

用語解説.....	194
ハードウェア仕様.....	195

サポートセンターへのお問い合わせ.....	196
サポートソフトのバージョンアップ.....	197
保証について.....	198
修理について.....	199

# 1 ご使用になる前に



## 特徴

**2** ページ

本製品の特徴について説明します。



## 箱の中には

**4** ページ

箱の中にどんな物が入っているか確認します。



## 各部の名称

**6** ページ

本製品の各部の名称を確認します。



## 動作環境

**7** ページ

対応機種や対応OSについて説明します。



## 制限事項

**9** ページ

できないこと、してはいけないことを説明します。



## 取り扱い及び使用上の注意

**12** ページ

ご使用上の注意を説明します。



## 実行用ディスクを作ろう

**13** ページ

サポートソフトディスクのバックアップディスクを作成します。

# 特徴

## ● 16bitとCardBus対応32bitの2つのモードに対応可能

16bitカード動作とCardBus対応32bitカード動作の両モードが、カード上のモード切り替えスイッチにより対応可能となりました。



参考

「CardBusモード」ではバスマスタ転送方式による32bitデータ転送の高速転送を行います。「16bitモード」ではUltraSMIT転送方式による16bit高速転送を行います。

## ● PCカードTYPE II 規格に準拠

## ● パソコンとの転送は、最高132Mバイト/sec<sup>\*1</sup>

パソコンとの転送は32bitデータバス、33MHzバスクロック、バスマスタ転送方式により最高132Mバイト/secの転送が可能です。

## ● Ultra SCSI対応により同期転送で最高20Mバイト/secを実現<sup>\*1</sup>

Ultra SCSI対応により、SCSI機器との転送は同期転送で最高20Mバイト/secを実現しました。

## ● 16ビットモードにおいても高速転送(SCSI-2, 10Mバイト/sec)が可能<sup>\*1</sup>

UltraSMIT転送方式により、16ビットモードにおいても高速転送(SCSI-2, 10Mバイト/sec)が可能です。

## ● Windows Me/98/95での割り込みの空きがない環境でも動作可能 (ドライバのポーリングモード使用時)

● **HOT PLUG(活線挿抜<sup>※1</sup>)に対応**

パソコンが動作中であっても、PCカードの挿入や抜き取りが可能。

● **デバイスドライバのインストール/アンインストールが簡単**

独自のセットアップユーティリティ（Windows Me/98/95用）により、ドライバのインストール/アンインストールが簡単に行えます。

● **メッセージボックスにより、トラブルシューティングが容易**

サポートソフトのメッセージボックス表示機能（Windows Me/98/95のみ）により、トラブルシューティング（SCSIバス上のターミネータパワーの状態、割り込み信号の検出等）が容易。

● **CD-ROM未搭載のサブノートパソコンでもCBSC II に接続したCD-ROMドライブからOSの再インストールが可能。<sup>※3</sup>**

添付の「CBSC II Windows 98/95再セットアップガイド」を参照の上、作業を行ってください。

※1 各転送速度は理論値です。ご使用のパソコン、PCカードスロットコントローラ、接続しているSCSI機器によっては、最高の速度が実現できない場合があります。

※2 一定の操作手順や確認が必要となります。各OS毎の【取り外す場合の注意事項】を参照してください。

Windows 3.1、Windows NT 4.0、MS-DOSはHOT PLUGに対応していません。

※3 フロッピーディスクドライブから起動してOSのインストールを行う場合のみ可能です。CD-ROMドライブからの起動はできません。

**ユーザー登録は済ませましたか？**

「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。

# 箱の中には

箱の中には以下のものが入っています。ご確認ください。

## 〈CBSC II〉

内容物	個数	備考
CBSC II カード	1 枚	
CBSC II サポートソフト	1 枚	3.5インチ2HD (1.44M/バイト)
SCSIケーブル	1 本	専用25ピン ⇔D-subハ-7ピ ッチ50ピン
アクティブターミネータ	1 個	D-subハ-7ピ ッチ50ピン
CBSC II 取扱説明書	1 冊	本書
CBSC II Windows 98/95 再セットアップガイド	1 冊	
Verシール	1 枚	
ハードウェア保証書	1 枚	
ハードウェアシリアルNo. シール	1 枚	
ユーザー登録カード	1 枚	

## 〈CBSC II A〉

内容物	個数	備考
CBSC II カード	1 枚	
CBSC II サポートソフト	1 枚	3.5インチ2HD (1.44M/バイト)
SCSIケーブル	1 本	専用25ピン ⇔D-sub25ピン(50cm)
アクティブターミネータ	1 個	D-subハ-7ピ ッチ50ピン
CBSC II 取扱説明書	1 冊	本書
CBSC II Windows 98/95 再セットアップガイド	1 冊	
Verシール	1 枚	
ハードウェア保証書	1 枚	
ハードウェアシリアルNo. シール	1 枚	
ユーザー登録カード	1 枚	

## 〈CBSC II F〉

内容物	個数	備考
CBSC II カード	1 枚	
CBSC II サポートソフト	1 枚	3.5 インチ2HD (1.44M/バイト)
SCSI ケーブル	1 本	専用25ピン⇔ アソフェーラル7ピ ッチ50ピン (50cm)
アクティブターミネータ	1 個	D-subハ-7ピ ッチ50ピン
CBSC II 取扱説明書	1 冊	本書
CBSC II Windows 98/95 再セットアップガイド	1 冊	
Verシール	1 枚	
ハードウェア保証書	1 枚	
ハードウェアシリアルNo. シール	1 枚	
ユーザー登録カード	1 枚	

万が一、不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

お願い：箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

## ■ オプション品

添付のSCSIケーブルがご使用のSCSI機器のコネクタと適合しない場合には、以下の《オプション品》をご利用ください。

なお、その他の市販品のケーブルはご使用いただけませんので、ご了承ください。

型番	長さ	タイプ
CBSC II -H50	50cm	専用25ピン⇔アソフェーラル7ピ ッチ50ピン
CBSC II -A50-L <sup>※</sup>	75cm	専用25ピン⇔D-subハ-7ピ ッチ50ピン
CBSC II -A25-L <sup>※</sup>	75cm	専用25ピン⇔D-sub25ピン
CBSC II -F50-L <sup>※</sup>	75cm	専用25ピン⇔アソフェーラル7ピ ッチ50ピン
A50-A50-S	30cm	D-subハ-7ピ ッチ50ピン⇔D-subハ-7ピ ッチ50ピン SCSIケーブル
A50-A50-SS	10cm	D-subハ-7ピ ッチ50ピン⇔D-subハ-7ピ ッチ50ピン SCSIケーブル
H50-H50-S	30cm	アソフェーラル7ピ ッチ50ピン⇔アソフェーラル7ピ ッチ50ピン SCSIケーブル
A50-H50-S	30cm	D-subハ-7ピ ッチ50ピン⇔アソフェーラル7ピ ッチ50ピン SCSIケーブル

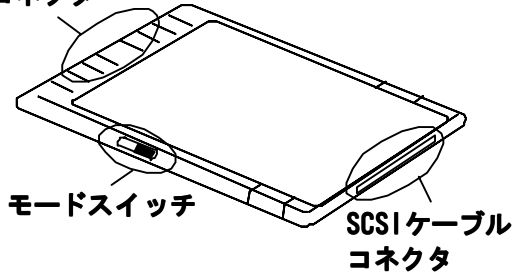
※ デイジーチェーン接続にはご使用いただけません。



# 各部の名称

## CBSC II

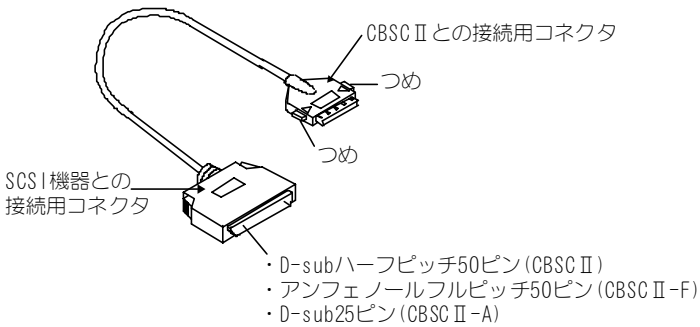
68ピンコネクタ



モードスイッチ

SCSIケーブルコネクタ

## SCSIケーブル(CBSC II とSCSI機器との接続用)



# 動作環境

ご使用の機種や環境を再度ご確認ください。

## ■ 動作モード (CBSC II のモードスイッチで切り替え)

CardBusモード	PCカード規格Type II 準拠のCardBusスロット (32bit) を装備し、Windows XP/2000/Me/98/95※がインストールされたマシンで動作できるモード ※Windows 95の場合、OSR2 Ver4. 00. 950 B以降がインストールされたマシン
16bitモード	PCカード規格Type II 準拠のCardBusスロット (32bit) または、PCカードスロット (16bit) を装備したマシンで動作できるモード

## ■ 対応機種

NEC PC98-NX シリーズ	CardBusモードで使用できます。※ (ただし、mobio NXシリーズでは、CardBusモードで使用できません。)
DOS/Vマシン	CPU i386SX以上 (弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っています。)
NEC PC-9821 シリーズ	<b>《CardBusモードで使用できる機種》</b> ※ PC-9821Nr15, Nr150, Nr166, Nr233, Nw133, Nw150, Nr266, Nr300  <b>《CardBusモードで使用できない機種》</b> PC-9821Np, Ns, Nd, Nd2, Ne2, Ne3, Nm, Nf, Nx, Nb7, Nb10, Na7, Na9, Na12, Na13, Na15, Nr12, Nr13, La7, La10, La13, Ld, Lt, Lt2, Ls12, Ls13, Ls150

※ 使用するOSによっては、CardBusモードでの使用はできません。



**注意!**

NEC PC-9821シリーズのWindows 98/95環境にてCBSC IIを16bitモードで使用する場合、「98NOTEメニュー」で「16Mバイトシステム空間」の設定が「使用する」になっていないとCBSC IIの性能はフルに発揮できません。

## ■ 対応OS

NEC PC98-NX シリーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語Windows XP</li> <li>・ 日本語Windows Me</li> <li>・ 日本語Windows 95</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語Windows 2000</li> <li>・ 日本語Windows 98<sup>※3</sup></li> <li>・ 日本語Windows NT 4.0<sup>※2</sup></li> </ul>
DOS/Vマシン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語Windows XP</li> <li>・ 日本語Windows Me</li> <li>・ 日本語Windows 95<sup>※1</sup></li> <li>・ 日本語Windows 3.1及びMS-DOS(PC DOS)<sup>※2</sup> (MS-DOS Ver6.2/V(PC DOS VerJ6.1/V)以降)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語Windows 2000</li> <li>・ 日本語Windows 98<sup>※3</sup></li> <li>・ 日本語Windows NT 4.0<sup>※2</sup></li> </ul>
NEC PC-9821 シリーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語Windows 2000</li> <li>・ 日本語Windows 95<sup>※1</sup></li> <li>・ 日本語Windows 3.1及びMS-DOS<sup>※2</sup> (MS-DOS Ver6.2以降)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語Windows 98<sup>※3</sup></li> <li>・ 日本語Windows NT 4.0<sup>※2</sup></li> </ul>

※1 Windows 95で「CardBusモード」が動作できるのは、OSR2 (Ver4.00.950 B/4.00.950 C) 以降です。

※2 Windows NT 4.0, Windows 3.1, MS-DOS(PC DOS)で使用する場合は、16bitモード動作のみとなります。

※3 Second Edition含む。



**注意!**

Windows 3.1, MS-DOS(PC DOS)環境では、PCカードドライバ(ソケットサービス/カードサービス[リリース2.0以上])が必要です。

例) IBM Play At Will 2.0, SystemSoft CardSoft 3.1  
Phoenix PCM puls 3.0

DOS/Vマシンの場合は、標準でPCカードドライバが添付されていない場合がありますので各パソコンメーカーへご確認ください。

PCカードドライバが添付されていないパソコンでは、本製品をWindows 3.1, MS-DOS(PC DOS)環境ではご使用いただけません。また、フロッピーディスクドライブ起動でご使用いただくこともできません。

# 制限事項

- **Windows 95 OSR2バージョンでは、CardBus SCSIカードのサスペンド・レジュームをサポートしていない為、CBSC IIをPCカードスロットに挿入したままサスペンド・レジュームから復帰すると、SCSI機器が認識されなくなります。**この場合、CBSC IIを挿入し直すことで正常な状態となります。
- **CBSC IIに接続された機器からのシステムの起動（ブート）はできません。**
- **CBSC IIに接続されたドライブへのOSをインストールすることはできません。**
- **CBSC II及び添付ドライバは、HOT PLUG（活線挿抜）※に対応していますが、（Windows 3.1、Windows NT 4.0、MS-DOS上では対応できません。）SCSI機器にアクセス中はカードを抜かないでください。**  
※「HOT PLUG（活線挿抜）」とは、OSの起動中にSCSI PCカードを抜いても、再挿入すると再び使用可能な状態になる機能のことです。
- **CBSC IIに接続されたハードディスクやMOに対してFDISKコマンドによるフォーマットはできません。**また、DISK-BIOS（INT 13hなど）を直接呼び出して動作するソフトによる操作もできません。各機器に添付のソフトウェアフォーマッタをご使用ください。  
（NEC PC-9821シリーズでは、MS-DOS上で98B BIOS互換ドライバを使用することにより、DISK-BIOSを呼び出すソフトが動作可能です。）
- **CBSC IIに接続されたCD-ROMドライブで音楽CDを再生する場合、その音声はパソコン本体の内蔵スピーカからは出力されません。CD-ROMドライブのライン出力またはヘッドフォン端子から出力されます。**
- **CBSC IIに接続されたハードディスクやMOに対してWindowsのスワップファイルを設定しないでください。**
- **CBSC IIに複数のSCSI機器を接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5mを超えないようにしてください。**また、接続する機器にもよりますが**接続台数はできるだけ2台を超えないようにしてください。**

## 制限事項

- 2台目、および2台目以降のSCSI機器を接続する場合は、30cm以下のハイインピーダンスケーブルをご利用ください。
- CBSC II を装着しているときは、他のSCSIインターフェイスとの併用はできません。
- CBSC II を複数枚同時に併用することはできません。
- Windows 2000、Windows NT 4.0上で使用する際、ASPIマネージャが必要となるSCSI機器は、本製品に接続してご使用いただくことはできません。
- 変換コネクタは使用できない場合があります。
- CardBus PCカードは**複数枚同時に使用できない**場合があります。その場合、CBSC II カードを16bitモードに切り替えて使用するか、もしくは他のCardBus PCカードと同時に使用しないようにしてください。
- **CardBus PCカードと16bit PCカードを同時にご使用になる場合**、PCカードスロットにCardBus PCカードと16bit PCカードを同時に挿入したまま、Windows 98/95を起動すると、Windows 98/95が起動中に止まってしまう場合があります。その場合、**CardBus PCカード1枚のみをPCカードスロットに挿入した状態でWindows 98/95を起動し、Windows 98/95の起動完了後に16bit PCカードをPCカードスロットに挿入**するようにしてください。

例:CBSC II (CardBusモード) と16bit PCカードの場合

CBSC II (CardBusモード) をPCカードスロットに挿入して、Windows 98/95を起動してください。

Windows 98/95が起動完了後、16bit PCカードをPCカードスロットに挿入してお使いください。

● **内蔵ハードディスクのセクタサイズによる制限**

**(PC-9800シリーズのWindows 3.1 (MS-DOS)上で98BIOS互換ドライバ[SCF\_BIOS.SYS]使用時のみ)**

内蔵ハードディスクに容量65~128M/バイトのドライブが割り当てられていない場合、外付けのハードディスクや5インチM0ディスクに容量65~128M/バイトのドライブを割り当てることはできません。これは外付けSCSI機器のセクタサイズ (MS-DOSが管理する論理セクタサイズ) が内蔵ハードディスクのセクタサイズよりも大きくならないようにするためです。例えば、内蔵ハードディスクに2,048/バイトのセクタサイズを持つドライブがない場合、外付けにも2,048/バイトのセクタサイズを持つドライブは割り当てられないということです。

外付けドライブの容量	セクタサイズ
ハードディスク1~64M/バイト	1,024/バイト
ハードディスク65~128M/バイト	2,048/バイト
ハードディスク129M/バイト以上	256/バイト、または512/バイト
5インチM0ディスク	1,024/バイト

- OSを再インストールする際、CD-ROMドライブから起動してOSをインストールする機種の場合、本製品を使用して再インストールすることはできません。

# 取り扱い及び使用上の注意

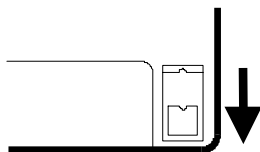
- 本製品は非常に精密にできておりますので、以下の注意事項を守ってお使いください。
  - ・コネクタ部分に金属を差し込まないでください。
  - ・CBSC II を使用する場合には、必ず周辺機器を接続し、周辺機器の電源を先に入れてからパソコンを起動してください。
  - ・パソコン本体にカードを装着して移動する場合、添付のケーブルは必ずカードから取り外してください。
  - ・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
  - ・モータなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してご利用ください。
- 本製品の修理は弊社サポートセンターにご依頼ください。

# 実行用ディスクを作ろう

本製品に添付されているサポートソフトウェアディスク（以下サポートソフト）は必ずバックアップディスクを作成し、実行用ディスクとしてご使用ください。

**1 フォーマット済みの空きフロッピーディスクを用意します。**  
空きフロッピーディスクは「3.5インチ2HD：1.44Mバイト」を用意します。

**2 サポートソフトを書き込み禁止にします。**



**3 ディスクのコピーを行います。**  
[マイコンピュータ]の[3.5インチ FD]を右クリックし[ディスクのコピー]を選択します。



**4 メッセージにしたがって、バックアップを取ります。**  
サポートソフトと空きフロッピーディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。



**注意！**

サポートソフトを破損した場合の修理は有料です。必ず本手順を行い、サポートソフトは大切に保管しましょう。（弊社ホームページよりダウンロードすることもできます。197 ページ【オンライン】参照）



# MEMO

# 2 Windows XPで ご使用の場合



## 使用するモードを決定する **16**ページ

CardBusモードか、16bitモードかを選択します。



## インストール **17**ページ

ドライバをインストールします。



## インストール終了後の確認 **20**ページ

インストールが正しく完了したことを確認します。



## SCSI機器の設定・フォーマット **23**ページ

SCSI機器をフォーマットします。



## 取り外す場合の注意事項 **24**ページ

Windows使用中に、本製品を取り外す場合の方法を説明します。



## 困った時には **28**ページ

ご使用中に、トラブルがあった場合にご参照ください。

## 使用するモードを決定する

本製品には**CardBusモード**と**16bitモード**の2つのモードがあります。

パソコンが、CardBus PCカードに対応しているPCカードスロットを搭載している機種では、本PCカードを「CardBus モード」で使用できます。

CardBus PCカードに対応していない場合は、本PCカードを「16bit モード」でご使用ください。（出荷時設定は、CardBusモードになっています。67ページをご参照の上、設定してください。）

パソコンが、CardBus PC カードに対応しているかどうかについてはパソコン本体の取扱説明書またはパソコンメーカーにご確認ください。



### 注意

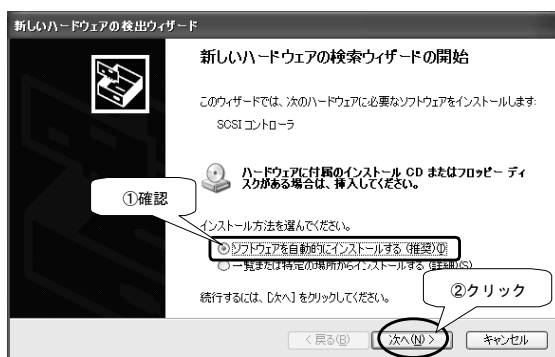
FMV-5133 NU5/Wは、ハード的にCardBus対応機種ではないので、「CardBusモード」では使用できません。**16bitモード**でご使用ください。

# インストール

ここでは、Windows XPでCBSC IIを使用するための手順を説明します。

※ コンピュータの管理者アカウントでログオンした状態で行ってください。

- 1 「CBSC II サポートソフト」をフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 2 モードを決定します。  
【使用するモードを決定する】（16ページ）参照。
- 3 本PCカードに機器を接続し、接続した機器の電源を入れます。  
【パソコンとの接続】（67ページ）参照。
- 4 本PCカードをPCカードスロットに挿入します。
- 5 [ソフトウェアを自動的に...]が選択されていることを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。  
自動で下の画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



## 注意

手順5の画面がでない場合は、本PCカードをしっかりと挿しこんでいるか、また、裏表に間違いがないか確認してください。

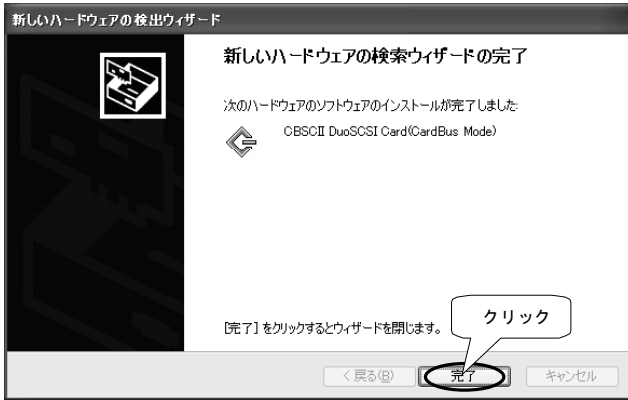
## 6 [CBSC II DuoSCSI Card (CardBus Mode) ---a:¥win2000]を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



## 7 [続行] ボタンをクリックします。



## 8 [完了]ボタンをクリックします。



**以上でインストールは終了です。**

次ページ【インストール終了後の確認】にお進みください。

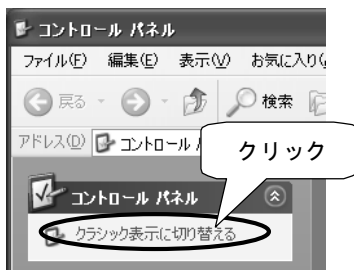
# インストール終了後の確認

ここではCBSC IIがWindows XPで正常に認識されているかどうかの確認とCBSC IIに接続しているSCSI機器の確認及び設定方法について説明します。

下記の確認が正常であれば、CBSC IIが使用できます。

**1** [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

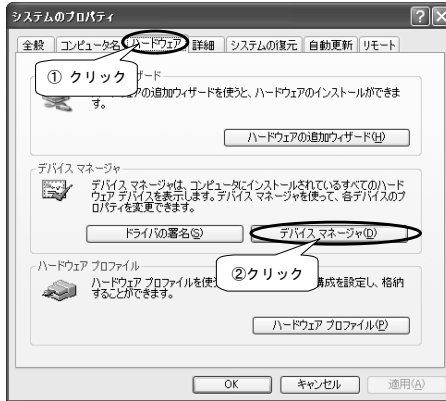
**2** [クラシック表示に切り替える]をクリックします。



**3** [システム]アイコンをダブルクリックします。



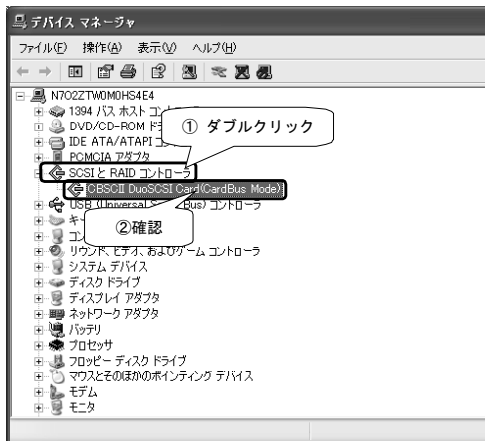
#### 4 [ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。



#### 5 [表示]→[デバイス (種類別)]をクリックします。

#### 6 [SCSI と RAID コントローラ]をダブルクリックし、下に [CBSC II DuoSCSI Card(CardBus Mode)]が表示されることを確認します。

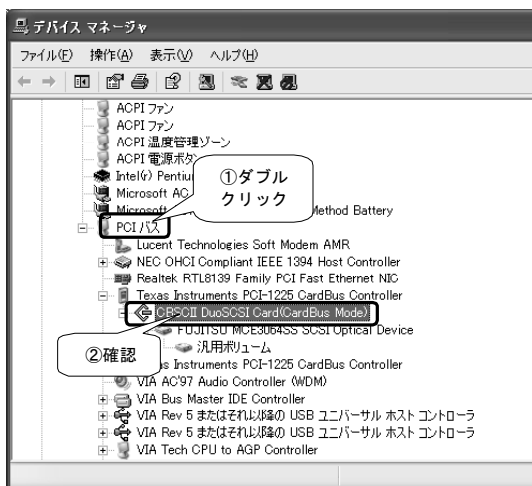
表示されていれば正常です。





**7** [表示]→[デバイス（接続別）]をクリックします。

**8** [PCIバス]をダブルクリックし、[CBSC II DuoSCSI Card(CardBus Mode)]の表示があることを確認します。  
表示されていれば正常です。



## SCSI機器の設定・フォーマット

Windows XP上でハードディスクをフォーマットする場合は、「ディスクの管理」を使用します。

（「ディスクの管理」は[スタート]→[コントロールパネル]→コントロールパネル左側の[クラシック表示に切り替える]をクリック→[管理ツール]→[コンピュータの管理]で[ディスクの管理]を選択します。）

「ディスクの管理」の詳細は、オンラインヘルプ、もしくはWindows XPの取扱説明書をご覧ください。

# 取り外す場合の注意事項



**警告!**

- ・ SCSI機器にアクセス中のCBSC IIの抜き差しは絶対に行わないでください。  
ディスクの内容が破壊される恐れがあります。
- ・ パソコンにCBSC IIが挿入されたままの状態でのケーブルの取り付け及び取り外しは行わないでください。
- ・ SCSI機器の電源は、CBSC IIをPCカードスロットから取り出した後か、パソコン本体の電源をOFFにした後で、OFFにしてください。

Windows XPを使用中でもCBSC IIを取り外すことができます。

ただし、PCカードの動作を終了せずにCBSC IIをPCカードスロットから取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

CBSC IIをPCカードスロットから取り外す際には、次ページの「**1** CBSC IIの取り外し方法—その1」または「**2** CBSC IIの取り外し方法—その2」(26ページ)の手順に従って行ってください。

## 1 CBSC II の取り外し方法—その 1

- 1 タスクバーの [取り外し] アイコンをクリックします。

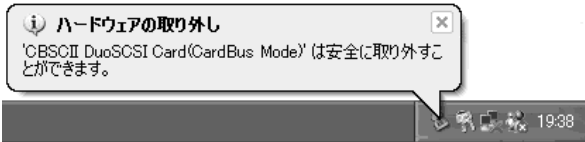


- 2 表示された [～を安全に取り外します] をクリックします。

～の中には本PCカードと本PCカードに接続されている機器が表示されます。



- 3 以下の表示がでることを確認します。



- 4 本PCカードをPCカードスロットから取り出します。

## 2 CBSC II の取り外し方法—その2

- 1 タスクバーの [取り外し] アイコンをダブルクリックします。  
⇒ 「ハードウェアの安全な取り外し」が開きます。

ダブルクリック



- 2 [CBSC II DuoSCSI Card (CardBus Mode)] を選択し、[停止] ボタンをクリックします。



- 3** [CBSC II DuoSCSI Card (CardBus Mode)]を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



- 4** 本PCカードをPCカードスロットから取り出します。

## 困った時には (Windows XP)

### Windows XP上でCBSC IIのドライブに“！”マークがついている

**原因1** 付属のケーブルを使用していない。

**対処** 付属のケーブルを使用してください。

付属のケーブル以外を使用すると配線が異なるため、正常に認識されず、カード自体を壊してしまう場合もありますので、ご注意ください。

**原因2** 変換アダプタを使用している。

**対処** 変換アダプタは使用しないでください。

変換アダプタを使用せずに直結できるSCSI機器をはさんでデジチェーン接続してください。

または、別売の弊社オプションケーブルをご利用ください。

**原因3** SCSI機器側に問題がある場合があります。

**対処** 他にSCSI機器がある場合はそのSCSI機器を接続して確認してみてください。

**原因4** パソコン環境に問題がある場合があります。

**対処** 他にCBSC IIが使用可能な環境がある場合は、そちらにCBSC IIを接続して確認してみてください。

### CBSC IIに接続されたハードディスクのドライブアイコンが[マイコンピュータ]に表示されない

**原因1** 表示されていないだけの場合があります。

**対処** [マイコンピュータ]をダブルクリック→[表示]メニューから[最新の情報に更新]を実行してください。

**原因2** フォーマット形式が不正または未フォーマットです。

**対処** 【SCSI機器の設定・フォーマット】(23ページ)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。

**原因3** CBSC II及びSCSI機器が正常に認識されていません。

**対処** ケーブル等の接続を確認してください。

## CBSC II に接続されたリムーバブルディスク (リムーバブルハードディスク等) のドライブアイコンが[マイコンピュータ]に表示されない

**原因1** 表示されていないだけの場合があります。

**対処** [マイコンピュータ]をダブルクリック→[表示]メニューから[最新の情報に更新]を実行してください。

**原因2** ディスクが入っていないか、認識されていない可能性があります。

**対処** 以下の手順で、ドライブ名の予約を行ってください。次回起動時にドライブアイコンを表示させることができます。

- ① [スタート]→[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]タブを順にクリック
- ② [ディスクドライブ]をダブルクリック→接続しているドライブをクリックして[プロパティ]ボタンをクリック
- ③ [設定]タブでドライブ名の予約を行ってください。

**原因3** フォーマット形式が不正または未フォーマットです。

**対処** 【SCSI機器の設定・フォーマット】(23ページ)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。

## 2台以上のSCSI機器を使用した時に、SCSIエラーが発生したり、パソコンがハングアップする。

**対処1** 2台目以降に使用するSCSIケーブルは、長さ30cm以下のケーブル (弊社製別売オプションA50-A50-S, H50-H50-SまたはA50-H50-S等) を使用してください。

**対処2** Ultra SCSIハードディスクをご使用の場合は、2台目以降に接続してください。また接続ケーブルも長さ30cm以下のケーブルを使用してください。

## ハードディスクが使用できない

**原因** フォーマット形式が不正または未フォーマットです。

**対処** 【SCSI機器の設定・フォーマット】(23ページ)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。



# MEMO

# 3 Windows 2000で ご使用の場合



## 使用するモードを決定する **32**ページ

CardBusモードか、16bitモードかを選択します。



## インストール **33**ページ

ドライバをインストールします。



## インストール終了後の確認 **38**ページ

インストールが正しく完了したことを確認します。



## SCSI機器の設定・フォーマット **40**ページ

SCSI機器をフォーマットします。



## 取り外す場合の注意事項 **41**ページ

Windows使用中に、本製品を取り外す場合の方法を説明します。



## Windows 2000自体を インストールするには **45**ページ

本PCカードを使ってWindows 2000をインストールする方法です。



## 困った時には **57**ページ

ご使用中に、トラブルがあった場合にご参照ください。

## 使用するモードを決定する

本製品には**CardBusモード**と**16bitモード**の2つのモードがあります。

パソコンが、CardBus PCカードに対応しているPCカードスロットを搭載している機種では、本PCカードを「CardBusモード」で使用できます。

CardBus PCカードに対応していない場合は、本PCカードを「16bitモード」でご使用ください。（出荷時設定は、CardBusモードになっています。67ページをご参照の上、設定してください。）

パソコンが、CardBus PCカードに対応しているかどうかについてはパソコン本体の取扱説明書またはパソコンメーカーにご確認ください。



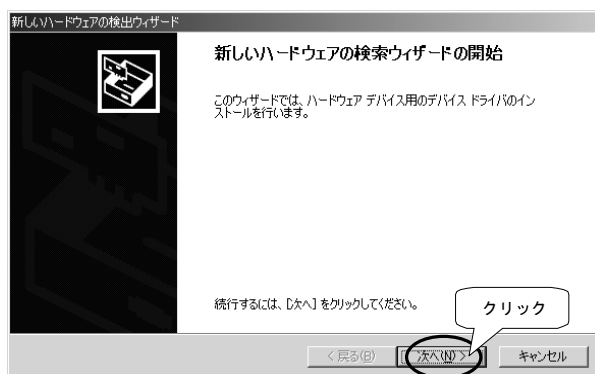
### 注意

FMV-5133 NU5/Wは、ハード的にCardBus対応機種ではないので、「CardBusモード」では使用できません。**16bitモード**でご使用ください。

# インストール

ここでは、Windows 2000でCBSC IIを使用するための手順を説明します。  
※ Administratorでログオンした状態で行ってください。

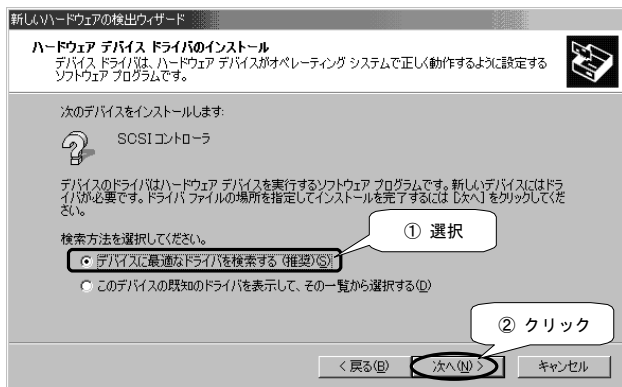
- 1 「CBSC II サポートソフト」をフロッピーディスクドライブに挿入します。**
- 2 モードを決定します。**  
【使用するモードを決定する】（32ページ）参照。
- 3 本PCカードに機器を接続し、接続した機器の電源を入れます。**  
【パソコンとの接続】（67ページ）参照。
- 4 本PCカードをPCカードスロットに挿入します。**
- 5 【次へ】ボタンをクリックします。**  
自動で下の画面が表示されますので、【次へ】ボタンをクリックします。



## 注意

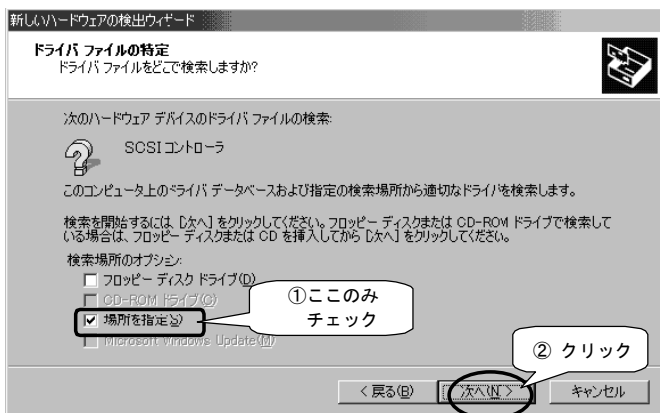
手順5の画面がでない場合は、本PCカードをしっかりと挿しこんでいるか、また、裏表に間違いがないか確認してください。

## 6 [デバイスに最適なドライバを検索する]を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



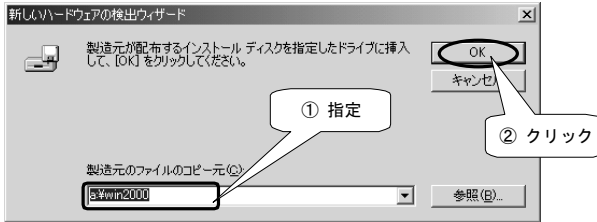
## 7 [場所を指定]のみにチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。

[場所を指定]以外のチェックはすべて外してください。



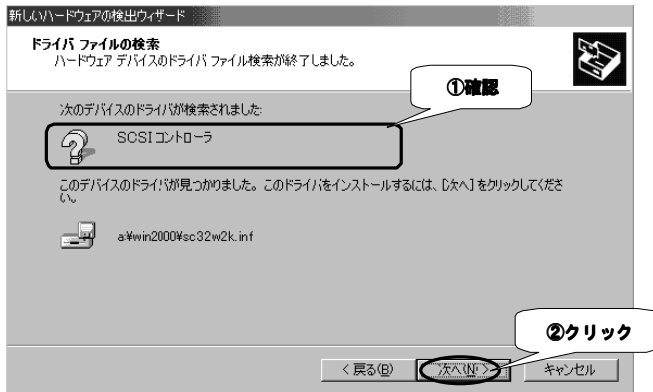
## 8 win2000 フォルダを指定し、[OK] ボタンをクリックします。

サポートソフト内の「win2000」フォルダを指定します。  
その後、[OK] ボタンをクリックします。



フロッピーディスクドライブがAの場合

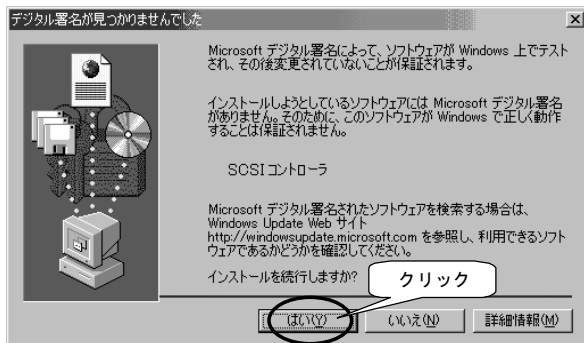
## 9 表示を確認し、[次へ] ボタンをクリックします。



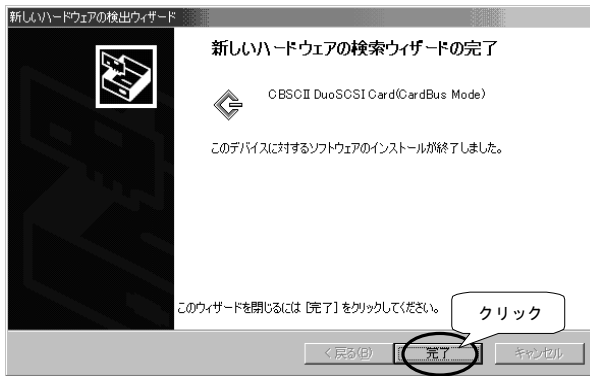
## 10 【はい】 ボタンをクリックします。

「デジタル署名が見つかりませんでした」の画面が表示されますが、  
【はい】 ボタンをクリックします。

- \* マイクロソフト社はWHQLという組織において、PC本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。I-O DATAでは順次手続きを行なう予定ですが、このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では認定を受けておりません。



## 11 [完了] ボタンをクリックします。



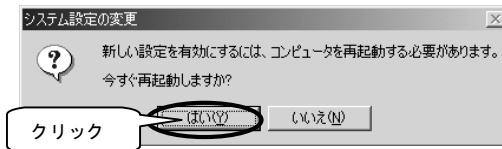
### 参考

[完了] ボタンをクリック後、さらに本PCカードに接続した機器の画面（上記のような画面）が表示される場合があります。  
その場合は、[完了] ボタンをクリック後、手順 / 2へお進みください。

## 12 サポートソフトを取り出します。

サポートソフトをフロッピーディスクドライブから取り出します。

## 13 以下の画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックし、Windows 2000を再起動してください。



以上でインストールは終了です。

次ページ【インストール終了後の確認】にお進みください。



# インストール終了後の確認

ここではCBSC IIがWindows 2000で正常に認識されているかどうかの確認とCBSC IIに接続しているSCSI機器の確認及び設定方法について説明します。

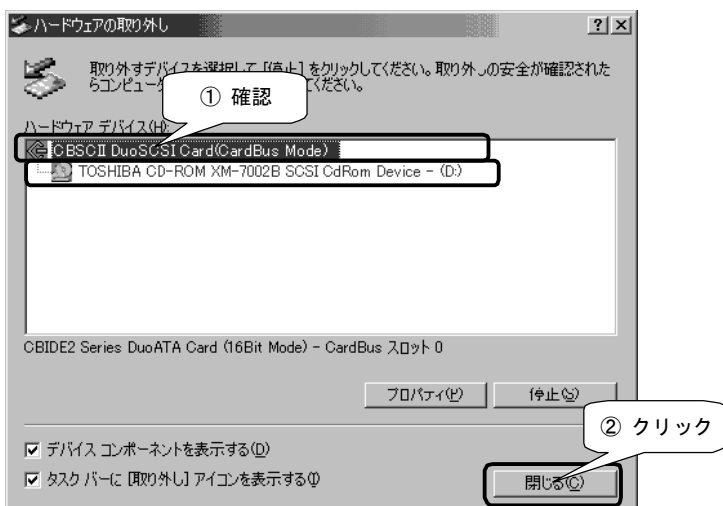
下記の確認が正常であれば、CBSC IIが使用できます。

## 1 タスクバーに [取り外し] のアイコンがあることを確認し、ダブルクリックします。

画面右下のタスクバーに [取り外し] のアイコンがあります。そのアイコンをダブルクリックします。



## 2 本PCカードと本PCカードに接続した機器を確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。





**注意**

「(空) ソケット 1 (または 2)」と表示されている場合

①カードが認識されていません。

もう一度抜き差ししてしっかりと挿入してください。

②パソコン本体が 16bit 環境なのに、CBSC II が **CardBus モード** になっています。

モードスイッチを **16bit モード** に設定しなおしてください。

# SCSI機器の設定・フォーマット

Windows 2000上でハードディスクをフォーマットする場合は、「ディスクの管理」を使用します。

（「ディスクの管理」は[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]内の[管理ツール]→[コンピュータの管理]をダブルクリックして開きます。）

「ディスクの管理」の詳細は、オンラインヘルプ、もしくはWindows 2000の取扱説明書をご覧ください。



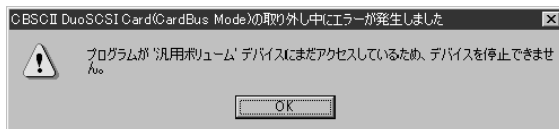
## 注意

- ・Windows 2000とその他の古いOSとでハードディスクを併用する場合は、他のOS\*でハードディスクのフォーマットを行ってください。Windows 2000でフォーマットをすると他のOS\*側で認識されない場合があります。

※ Windows 98/95, Windows NT, Windows 3.1, MS-DOS (PC DOS)

- ・「ディスクの管理」にて本PCカードに接続したハードディスクをフォーマット後、本PCカードを取り外そうとすると以下の画面が表示され、取り出せない場合があります。

この場合、[OK] ボタンをクリック後、Windows 2000を終了してから取り外してください。



- ・PC-9821シリーズでは、未フォーマット状態（購入した直後等）のハードディスクのフォーマットを行う場合、「プライマリパーティション」のみ作成できます。（PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合は、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」を作成できます。）

# 取り外す場合の注意事項



**警告!**

- ・ SCSI機器にアクセス中のCBSC IIの抜き差しは絶対に行わないでください。  
ディスクの内容が破壊する恐れがあります。
- ・ パソコンにCBSC IIが挿入されたままの状態でのケーブルの取り付け及び取り外しは行わないでください。
- ・ SCSI機器の電源は、CBSC IIをPCカードスロットから取り出した後か、パソコン本体の電源をOFFにした後で、OFFにしてください。

Windows 2000を使用中でもCBSC IIを取り外すことができます。

ただし、PCカードの動作を終了せずにCBSC IIをPCカードスロットから取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

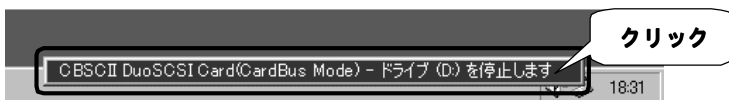
CBSC IIをPCカードスロットから取り外す際には、次ページの「**1** CBSC IIの取り外し方法—その1」または「**2** CBSC IIの取り外し方法—その2」(43ページ)の手順に従って行ってください。

## 1 CBSC II の取り外し方法—その 1

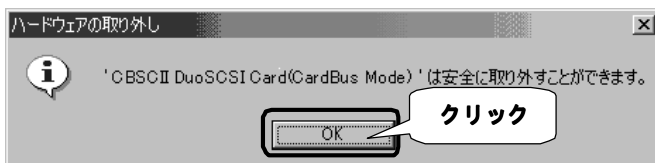
- 1 タスクバーの [取り外し] アイコンをクリックします。



- 2 表示された [~を停止します] をクリックします。  
~の中には本PCカードと本PCカードに接続されている機器が表示されます。



- 3 [OK] ボタンをクリックします。



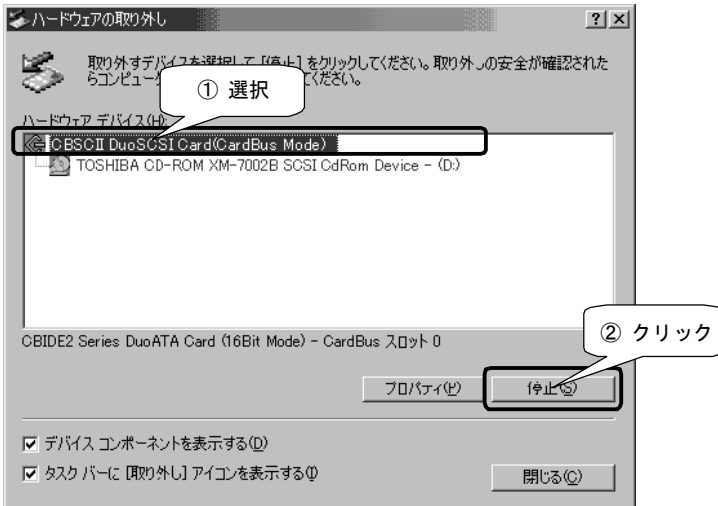
- 4 本PCカードをPCカードスロットから取り出します。

## 2 CBSC II の取り外し方法—その2

- 1 タスクバーの [取り外し] アイコンをダブルクリックします。  
⇒ 「ハードウェアの取り外し」が開きます。

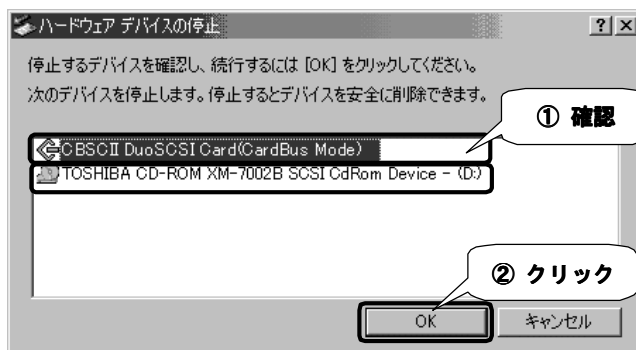


- 2 [CBSC II DuoSCSI Card (CardBus Mode)] を選択し、[停止] ボタンをクリックします。

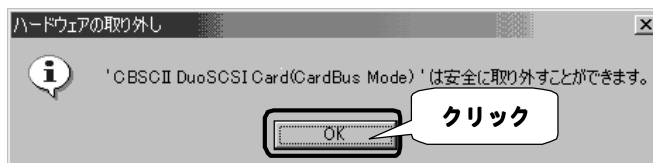


### 3 本PCカードを確認して、[OK] ボタンをクリックします。

本PCカードと、本PCカードに接続している機器が表示されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。



### 4 [OK] ボタンをクリックします。



### 5 本PCカードをPCカードスロットから取り出します。

## Windows 2000自体をインストール (アップグレード)するには

ここでは、本PCカードに接続したCD-ROMドライブを使用して、新規にWindows 2000をインストールする場合や、Windows 98/95およびWindows NT 4.0からWindows 2000にアップグレードする場合の手順について説明します。

- ① 起動ディスクを使ってインストールする場合 ..... 46ページ
- ② Windows 98/95/NT 4.0上から新規インストール ..... 50ページ
- ③ Windows 98/95からアップグレード ..... 51ページ
- ④ Windows NT 4.0からアップグレード ..... 54ページ



## ① 起動ディスクを使ってインストールする場合

### 1 「セットアップ起動ディスク」を作成します。

Windows 2000に添付のファーストステップガイドを参照し、セットアップ起動ディスクを作成してください。

### 2 パソコンの電源を一旦切ります。

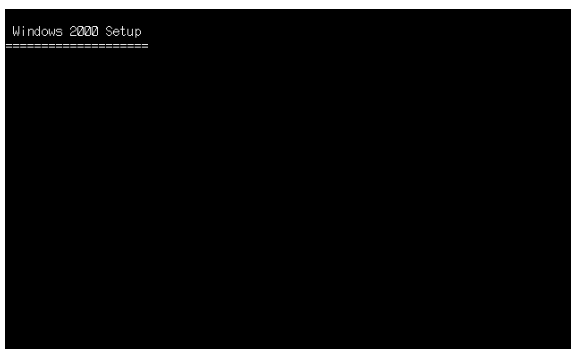
### 3 本PCカードにCD-ROMドライブを接続します。

### 4 本PCカードをパソコンのPCカードスロットに挿入します。

### 5 手順1で作成した「セットアップ起動ディスク」をパソコンのフロッピーディスクドライブに挿入します。

### 6 パソコンの電源を入れて、「セットアップ起動ディスク」からパソコンを起動させます。

### 7 以下の画面が表示されますので（数秒間だけ表示されます）、「F6」キーを押します。



Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver...

[F6]キーを押すことを  
要求するメッセージ

## 8 しばらくすると以下の画面が表示されます。 「S」キーを押します。

セットアップ起動ディスクを使用している場合は、セットアップ用フロッピーディスクのDisk. 1、Disk. 2の読み込みが終了すると次の画面が表示されますので「S」キーを押します。

```
Windows 2000 Setup
=====
Setup could not determine the type of one or more mass storage devices
installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter.
Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s):

<none>

* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special
disk controllers for use with Windows 2000, including those for
which you have a device support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.

* If you do not have any device support disks from a mass storage
device manufacturer, or do not want to specify additional
mass storage devices for use with Windows 2000, press ENTER.

S=Specify Additional Device  ENTER=Continue  F3=Exit
```

## 9 次の画面が表示されますので本PCカードの「サポートソフト」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットして「Enter」キーを押します。

セットアップ起動ディスクを使用している場合は、セットアップ起動ディスクを、サポートソフトディスクに入れ替えて「Enter」キーを押します。

```
Windows 2000 Setup
=====

Please insert the disk labeled
Manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:

* Press ENTER when ready.

ENTER=Continue  ESC=Cancel  F3=Exit
```

Windows 2000自体をインストールするには

**10 次の画面が表示されますので、設定した本PCカードに対応するドライバをカーソルキーで選び、「Enter」キーを押します。**



**11 以下の画面が表示されたら、「Enter」キーを押します。**



**12 セットアップ起動ディスクを使用している場合は、画面の指示にしたがってセットアップディスクDisk. 3、Disk. 4をセットし「Enter」キーを押します。**

サポートソフトが要求された場合は、サポートソフトを挿入して「Enter」キーを押してください。

**以後画面の指示にしたがってインストールを行ってください。  
インストール中にパソコンの再起動が行われますのでその時はサポートソフトをフロッピーディスクドライブから抜いてください。**

## ②Windows 98/95/NT 4.0上から新規インストールする場合

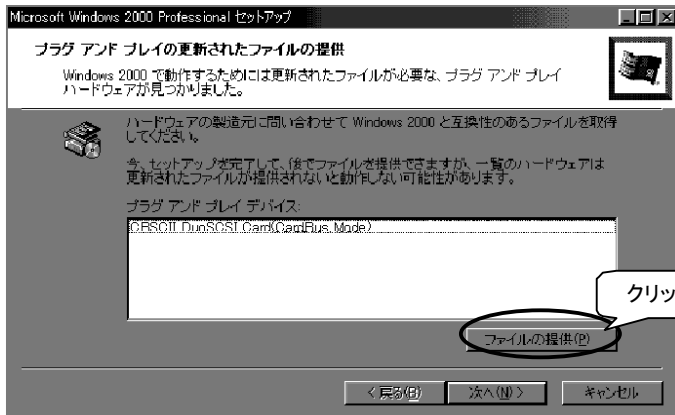
- 1** Windows 98/95またはWindows NT 4.0を起動します。
- 2** Windows 98/95またはWindows NT 4.0で本PCカードに接続したCD-ROMドライブが使用できるようにします。
- 3** CD-ROMドライブにWindows 2000のCD-ROMをセットします。
- 4** 画面の指示に従い、[新規インストール]を選択します。
- 5** 後は画面の指示に従ってください。

この後、インストール中にパソコンの再起動を行います。  
再起動後、「F6」キーを押すように要求される画面（46ページ手順7の画面）が表示されます（数秒間だけ表示されます）ので、「F6」キーを押して、インストールを続行します。

※手順については、【①起動ディスクを使ってインストールする場合】の手順7（46ページ）以降を参照してください。

## ③Windows 98/95からアップグレードする場合

- 1 Windows 98/95を起動します。
- 2 Windows 98/95で本PCカードに接続したCD-ROMドライブが使用できるようにします。
- 3 CD-ROMドライブにWindows 2000のCD-ROMをセットします。
- 4 画面の指示に従い、[アップグレードインストール]を選択します。
- 5 インストール中に以下の画面が表示されます。  
サポートソフトをフロッピーディスクドライブに入れ、お使いのPCカードの表示を選択し、[ファイルの提供]ボタンをクリックします。



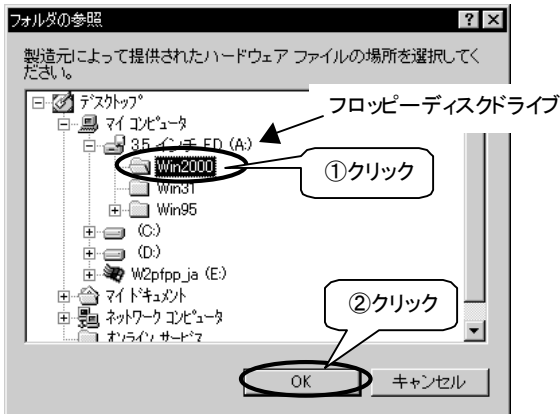


**注意**

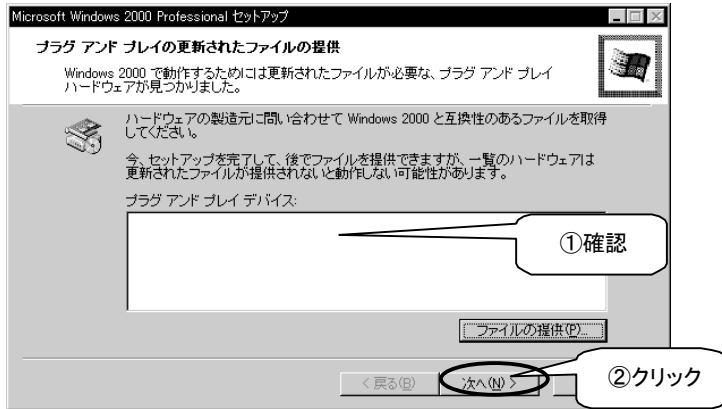
他社製品をお使いの場合は、上記文字列以外に他社製品の文字列が表示される場合があります。

**6** フロッピーディスクドライブの Win2000 フォルダを指定して [OK] ボタンをクリックしてください。

(表示はフロッピーディスクドライブが A ドライブの場合)



## 7 お使いのPCカードの表示が消えたことを確認し、[次へ] ボタンをクリックしてください。



## 8 後は画面の指示に従ってください。

この後、インストール中にパソコンの再起動を行います。

再起動後、「F6」キーを押すように要求される画面（46ページ手順7の画面）が表示されます（数秒間だけ表示されます）ので、「F6」キーを押して、インストールを続行します。

※手順については、【①起動ディスクを使ってインストールする場合】の手順7（46ページ）以降を参照してください。



## ④Windows NT 4.0からアップグレードする場合



### 注意

以下の手順を行うと、本PCカードのWindows NT 4.0用ドライバの削除が行われます。Windows 2000のインストール作業を中断すると、Windows NT 4.0再起動後にCD-ROMドライブが使用できなくなりますので、本PCカードのWindows NT 4.0用ドライバを再度、インストールし直してください。

- 1 Windows NT 4.0を起動します。
- 2 Windows NT 4.0で本PCカードに接続したCD-ROMドライブが使用できるようにします。
- 3 [コントロールパネル]→[SCSIアダプタ]を開き、[ドライバ]タブをクリックします。
- 4 本PCカードのドライバ[CBSCII DuoSCSI Card (16Bit Mode)]を選択し、[削除] ボタンをクリックします。
- 5 [マイコンピュータ]を開きます。
- 6 [表示]メニューより[オプション]を選択します。
- 7 オプションウィンドウが表示されますので、[表示]タブをクリックします。

- 8 [ファイルの表示]で、[すべてのファイルを表示]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- 9 [スタート]→[検索]→[ファイルやフォルダ]を選択します。
- 10 検索の画面が表示されますので、次のように入力します。

名前	*.inf
含まれる文字	CBSC16
探す場所	(Windows NT 4.0をインストールしているドライブ名) 例 C: (Windows NT 4.0を C ドライブにインストールしている場合)

また、[サブフォルダも探す]にチェックをつけて[検索開始]ボタンをクリックします。

- 11 見つかったファイルを選択して「DEL」キーを押し、削除します。
- 12 [マイコンピュータ]から「サポートソフト」ディスク内のWin2000フォルダをダブルクリックします。
- 13 CD-ROMドライブにWindows 2000のCD-ROMをセットします。
- 14 Uninst16.infファイル(セットアップ情報ファイル)を右クリックし、メニュー内の[インストール]をクリックして実行します。

**15** 画面の指示に従い、[アップグレードインストール]を選択します。

**16** 後は画面の指示に従ってください。

この後、インストール中にパソコンの再起動を行います。

再起動後、「F6」キーを押すように要求される画面（46ページ手順7の画面）が表示されます（数秒間だけ表示されます）ので、「F6」キーを押して、インストールを続行します。

※手順については、【①起動ディスクを使ってインストールする場合】の手順7（46ページ）以降を参照してください。

# 困った時には (Windows 2000)

## Windows 2000上でCBSC IIのドライバに“！”マークがついている

**原因1** 付属のケーブルを使用していない。

**対処** 付属のケーブルを使用してください。

付属のケーブル以外を使用すると配線が異なるため、正常に認識されず、カード自体を壊してしまう場合もありますので、ご注意ください。

**原因2** 変換アダプタを使用している。

**対処** 変換アダプタは使用しないでください。

変換アダプタを使用せずに直結できるSCSI機器をはさんでデイジーチェーン接続してください。

または、別売の弊社オプションケーブルをご利用ください。

**原因3** CBSC IIを「16bitモード」で使用している場合で、パソコン本体に割り込みのリソースに空きがない。

**対処** ・パソコン本体の割り込みのリソースに空きがあるか確認してください。

(次ページの【● 割り込み (IRQ) リソースが空いているかの確認方法】

参照) 空きがない場合は、パソコン本体で使用していない何らかの機能を無効にし、確実に割り込みの空きを用意した上で確認してください。

(無効にできる機能に関しては、パソコンの取扱説明書またはパソコン本体メーカーにお問い合わせください。) なお、割り込みの空きが1~2ヶ所存在する場合でも、実際は内部で使用されている場合があります。

CBSC II以外の割り込みを使用するPCカードをお使いの場合は、そのPCカードが使用可能か確認してみてください。

- ・パソコン本体にPCカードスロットが複数ある場合、スロットの位置を変更してみてください。
- ・SCSI機器が装着されている場合は、SCSI機器を外し、CBSC IIのみを接続して試してみてください。
- ・「CardBusモード」の場合は「16Bitモード」で試してみてください。

困った時には (Windows 2000)

**原因4** SCSI 機器側に問題がある場合があります。

**対処** 他に SCSI 機器がある場合はそちらを CBSC II に接続して確認してみてください。

**原因5** パソコン環境に問題がある場合があります。

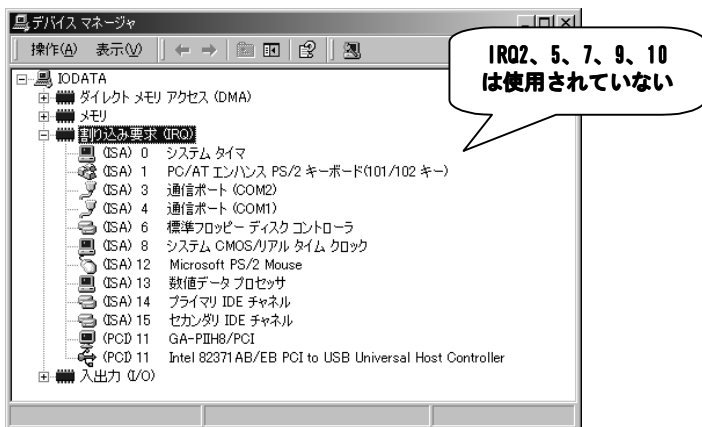
**対処** 他に CBSC II が使用可能な環境がある場合は、そちらに CBSC II を接続して確認してみてください。

### ● 割り込み (IRQ) リソースが空いているかの確認方法

割り込みの空き状態は、[コンピュータのプロパティ]で確認できます。

- ① [マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。
- ② [ハードウェア]タブをクリックして、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。
- ③ [表示]メニューから[リソース (種類別)]をクリックします。
- ④ [割り込み要求 (IRQ)]をダブルクリックし、割り込みの使用状況を確認します。

(以下の画面では、IRQ2、5、7、9、10が使用されていない(空いている)ことが分かります。)



「0」から「15」のIRQが全て何らかのデバイスによって使用されている場合、割り込みの空きがない状態です。

### CBSC II に接続されたハードディスクのドライブアイコンが[マイコンピュータ]に表示されない

**原因1** 表示されていないだけの場合があります。

**対処** [マイコンピュータ]をダブルクリック→[表示]メニューから[最新の情報に更新]を実行してください。

**原因2** フォーマット形式が不正または未フォーマットです。

**対処** 【SCSI機器の設定・フォーマット】(40ページ)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。

**原因3** CBSC II 及びSCSI機器が正常に認識されていません。

**対処** 【インストール終了後の確認】(38ページ)にてどのように表示されていたかを確認し、注意の内容を参照してください。

### CBSC II に接続されたリムーバブルディスク (リムーバブルハードディスク等) のドライブアイコンが[マイコンピュータ]に表示されない

**原因1** 表示されていないだけの場合があります。

**対処** [マイコンピュータ]をダブルクリック→[表示]メニューから[最新の情報に更新]を実行してください。

**原因2** ディスクが入っていないか、認識されていない可能性があります。

**対処** ドライブ名の予約を行ってください。次回起動時にドライブアイコンを表示させることができます。

① [マイコンピュータ]を右クリック→[プロパティ]をクリック

② [ハードウェア]タブをクリック→[デバイスマネージャ]ボタンをクリック

③ [ディスクドライブ]をダブルクリック

④ 接続したドライブを右クリックして、表示された[プロパティ]をクリック

⑤ [設定]タブでドライブ名の予約を行ってください。

**原因3** フォーマット形式が不正または未フォーマットです。

**対処** 【SCSI機器の設定・フォーマット】(40ページ)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。

困った時には (Windows 2000)

## 2台以上のSCSI機器を使用した時に、SCSIエラーが発生したり、パソコンがハングアップする。

**対処1** 2台目以降に使用するSCSIケーブルは、長さ30cm以下のケーブル（弊社製別売オプションA50-A50-S, H50-H50-SまたはA50-H50-S等）を使用してください。

**対処2** Ultra SCSIハードディスクをご使用の場合は、2台目以降に接続してください。また接続ケーブルも長さ30cm以下のケーブルを使用してください。

## ハードディスクが使用できない

**原因** フォーマット形式が不正または未フォーマットです。

**対処** 【SCSI機器の設定・フォーマット】(40ページ)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。

## SCSI機器への書き込みが遅い (PC-9821シリーズの場合)

**原因** 「16M/バイトシステム空間」が[切り離す]になっている。

**対処** 「98NOTEメニュー」で「16M/バイトシステム空間」が[使用する]の設定になっていることを確認してください。

[切り離す]の場合は、正常に動作しませんので、変更してください。



### 参考

「98NOTEメニュー」は、[HELP]キーを押しながらパソコン本体の電源 ON またはリセットをすると起動します。詳しくはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。

# 4 Windows Me/98/95で ご使用の場合



## 使用するモードを決定する **62**ページ

CardBusモードか、16bitモードかを選択します。



## インストール **64**ページ

ドライバをインストールします。



## パソコンとの接続 **67**ページ

パソコンに接続し、モードスイッチを設定します。



## インストール終了後の確認 **73**ページ

インストールが正しく完了したことを確認します。



## SCSI機器の設定・フォーマット **81**ページ

ASPIFORMなどで、SCSI機器をフォーマットします。



## 取り外す場合の注意事項 **93**ページ

Windows使用中に、本製品を取り外す場合の方法です。



## DOS上からWindows Me/98/95 をインストールするには **97**ページ

本PCカードを使ってWindows Me/98/95をインストールする方法です。



## CBSC IIの詳細設定 **106**ページ



## インストールした情報を 削除するには **117**ページ



## 困った時には **119**ページ

ご使用中に、トラブルがあった場合にご参照ください。



# 使用するモードを決定する

本製品には**CardBusモード**と**16bitモード**の2つのモードがあります。  
まず、ご使用の環境でどのモードが使用できるかを以下の手順でご確認ください。



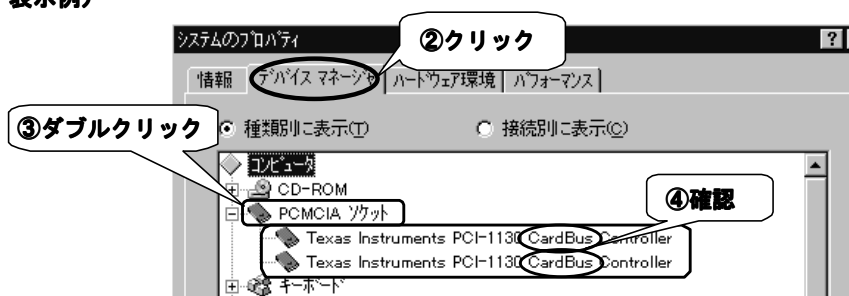
**注意!**

FMV-5133 NU5/Wは、ハード的にCardBus対応機種ではないので、「CardBusモード」では使用できません。**16bitモード**でご使用ください。

## 《使用モードの確認手順》

- ① [マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]を右クリックします。
- ② [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- ③ [PCMCIAソケット]をダブルクリックします。
- ④ 表示に[CardBus]という、記述があるかどうかを確認します。

表示例)

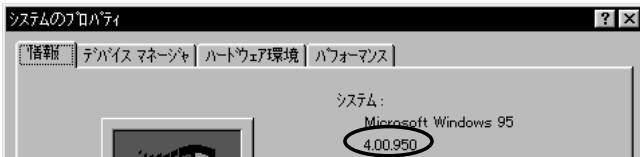


## 《使用するモード》

- 「CardBus」という記述がある場合
  - ・ 使用OSがWindows Me/98の場合  
⇒ **CardBusモード**<sup>\*</sup>での使用となります。
  - ・ 使用OSがWindows 95 バージョン 4.00.950または、4.00.950aの場合  
⇒ **16bitモード**での使用となります。
  - ・ 使用OSがWindows 95 バージョン 4.00.950 Bまたは、4.00.950 Cの場合  
⇒ **CardBusモード**<sup>\*</sup>での使用となります。

### 《Windows 95のバージョン確認》

- ① [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[システム]をダブルクリックします。
- ② [システムのプロパティ]に表示される番号がWindows 95のバージョンです。



ここの番号を確認してください。

- 「CardBus」という記述がない場合  
⇒ **16bitモード**での使用となります。



**注意!**

**16bitモード**でもご使用いただけますが、**CardBusモード**でご使用された方が、データ転送速度が速くなりますので、通常は**CardBusモード**でご使用ください。

決定したモードにチェックしてください

**CardBusモード**       **16bitモード**

決定後、次ページの【インストール】へお進みください。

# インストール

ここでは、Windows Me/98/95でCBSC IIを使用するための手順を説明します。



**注意!**

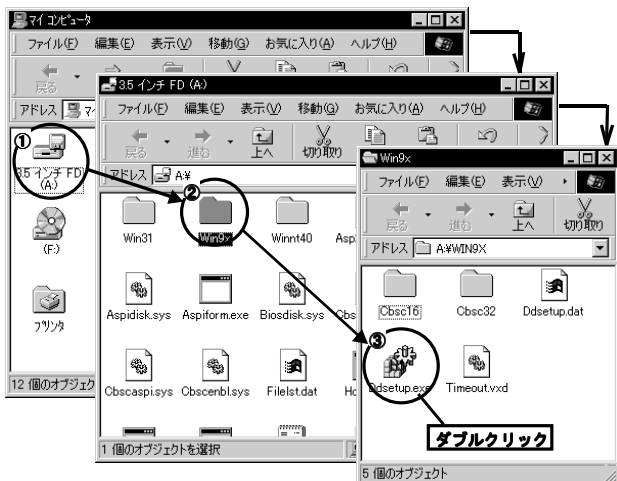
CBSC II とパソコンの接続は、ドライバインストール後に行います。

(【パソコンとの接続】(67ページ)参照)

※ ここではまだPCカードスロットへの挿入は行わないでください。

- 1 「CBSC II サポートソフト」をフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 2 「CBSC II サポートソフト」内の「Ddsetup.exe」を起動します。

[マイコンピュータ] → 「A: (例:フロッピーディスクドライブがAの場合)」 → [Win9X] → [Ddsetup.exe]の順にダブルクリックします。



⇒[デバイスドライバセットアップ]画面が表示されます。

**3** [インストール]をクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



**4** インストールするドライバを選択します。

【使用するモードを決定する】(62ページ)で決定したモードに合わせてドライバを選択します。

**CardBusモード**の場合..... [CardBusモード]

**16bitモード**の場合

・PC98-NXシリーズ及びDOS/Vマシンの場合..... [16Bit PC98-NX & DOS/V用]

・PC-9821シリーズの場合..... [16Bit PC-98用]

選択後、[OK]ボタンをクリックします。インストールを開始します。

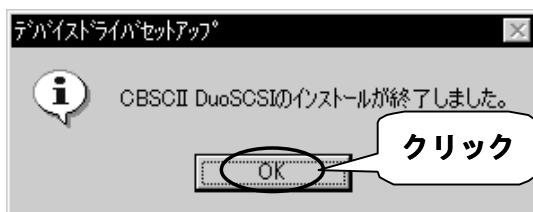




**注意!**

はじめてインストールする場合は、[16Bit ポーリングモード] や [16Bit PIOモード] を選択する必要はありません。これらは上記のドライバで動作しない場合に選択します。(【困った時には】の「Windows Me/98/95上でCBSC IIのドライバに“!”マークがついている」(119ページ)参照)

## 5 [OK] ボタンをクリックします。



**以上でインストールは終了です。**

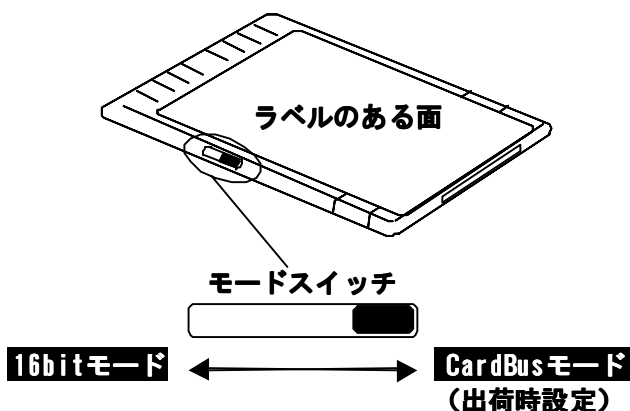
次ページ【パソコンとの接続】にお進みください。

# パソコンとの接続

## 1 決定したモードに応じて設定を行います。

【使用するモードを決定する】(62ページ)で決定したモードが**16bitモード**の場合は、モードスイッチを**16bitモード**に切り替えてください。

モードスイッチを切り替えるときは、先が細く硬いピンなどで切り替えてください。



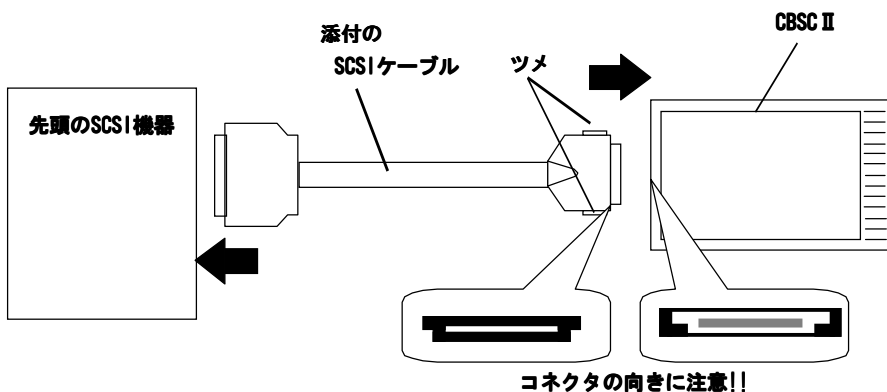
## 2 CBSC IIに接続するSCSI機器の電源をすべてOFFにします。

## 3 各SCSI機器のSCSI-IDの設定を行います。

各SCSI機器以外に、CBSC IIもSCSI-ID番号「7」を使用しますので、それぞれのSCSI機器は「0～6」内で、重ならないように設定します。詳細は各SCSI機器の取扱説明書をご覧ください。

## 4 CBSC II と SCSI 機器を接続します。

1. 添付の SCSI ケーブルの大きい方のコネクタを SCSI 機器に接続します。  
「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
2. 添付の SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを CBSC II に接続します。  
コネクタの向きに注意し、「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
3. SCSI 機器の終端に付属のアクティブターミネータを取り付けます。



### 警告!

- ・ SCSI ケーブルのコネクタの向きをよく確認して、SCSI 機器との取り付けを行ってください。
- ・ 他社製の SCSI ケーブルは、絶対に使用しないでください。CBSC II が破壊される恐れがあります。
- ・ SCSI 機器と本製品添付の SCSI ケーブルのコネクタが一致しない場合  
弊社製別売オプションの SCSI ケーブルを用意してください。(5 ページ参照)  
変換コネクタによっては、SCSI ケーブル側のコネクタにダメージを与えるものがあります。変換コネクタは使用しないでください。万が一、誤って変換コネクタを使用してコネクタを破損した場合、保証対象外となりますのでご注意ください。



**注意!**

- ・2台以上のSCSI機器を使用する場合  
(接続台数はできるだけ2台を越えないようにしてください。)
- ① 2台目以降に使用するSCSIケーブル(1台目と2台目を接続するSCSIケーブル含む)は、長さ30cm以下のケーブル(弊社製別売オプションA50-A50-S, H50-H50-SまたはA50-H50-S等)を使用してください。
- ② デジチェーン接続をする場合で、Ultra SCSIハードディスクを接続する場合は、Ultra SCSIハードディスクは、アクティブターミネータに近い場所に接続してください。
- ・CBSC II からSCSIケーブルを取り外す際は、コネクタの両側のツメを押しながら水平にカードから抜いてください。ツメを押しせずにカードを抜き、破損した場合は有料修理となりますので、ご了承ください。

## 5 CBSC II に接続した各SCSI機器の電源をONにします。



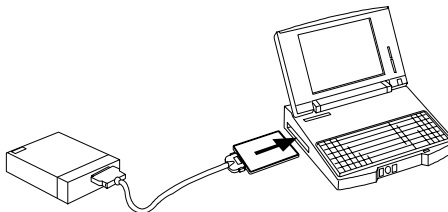
**注意!**

SCSI機器の電源を入れてからCBSC IIをPCカードスロットに挿入してください。CBSC IIをPCカードスロットに挿入後、SCSI機器の電源を入れてもSCSI機器が認識されません。

## 6 Windows Me/98/95が起動していることを確認します。

## 7 CBSC II をパソコンのPCカードスロットへ挿入します。

CBSC IIをラベルが貼ってある面を上にしてパソコンのPCカードスロットへまっすぐに差し込みます。確実に差し込み、軽く引いても抜けにくいことを確認してください。







参考

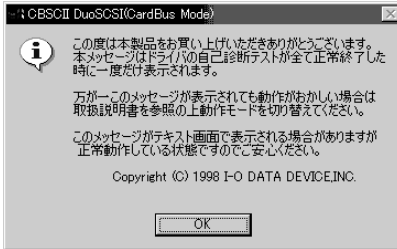
**Windows Me/98/95が起動している状態で、PCカードスロットにCBSC IIを挿入しても特に問題はありません。**

ドライバが正常にインストールされていれば、CBSC IIをパソコンに接続した時点で、CBSC IIは正しく認識され、CBSC IIが使用できるようになります。

## 《CBSC II 挿入時の確認》

はじめてCBSC IIをPCカードスロットに挿入した時に、このようなメッセージボックスが表示されます。（Windows 95 4. 00. 950/4. 00. 950aをお使いの場合は、以下のメッセージボックスは表示されません。）

または、「例外エラー」、「Windows保護エラー」のメッセージが表示される場合があります。いずれの場合も内容を確認後、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。



(画面1：初めて挿入した場合)



(画面2：2度目に挿入した場合)



### 参考

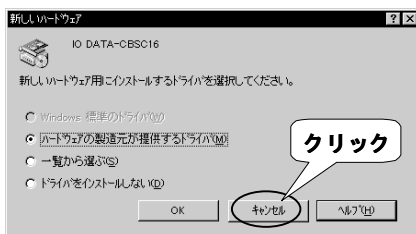
- ・他のPCカードをPCカードスロットに挿入して、(画面2)が表示される場合がありますが、実動作に影響はありません。
- ・機種によっては(画面1)や(画面2)が、上記のようなウィンドウ画面ではなく、テキスト画面で表示される場合がありますが、正常に動作しております。



### 注意!

- ・上記以外のメッセージボックスが表示された場合は、何らかの問題が発生しています。メッセージボックスの指示にしたがってください。
- ・Windows MeやWindows 98、Windows 95 4. 00. 950 B/4. 00. 950 Cをお使いで、上記のメッセージボックスが表示されない場合は、【インストール終了後の確認】(73ページ)を参照し、正常認識していることを確認してください。
- ・次ページのような画面が表示される場合は、インストールしたモードとCBSC IIのモードが異なる可能性があります。その場合は、[キャンセル]ボタンをクリックして、【インストールした情報を削除するには】(117ページ)を参照し、一度インストールした情報を削除した後、正しい手順でインストールを行ってください。

## パソコンとの接続



次に、正常にインストールされたかどうかの確認を行ってください。  
次ページの【インストール終了後の確認】へお進みください。

# インストール終了後の確認

ここではCBSC IIがWindows Me/98/95で正常に認識されているかどうかの確認とCBSC IIに接続しているSCSI機器の確認及び設定方法について説明します。  
下記の確認が正常であれば、CBSC IIが使用できます。

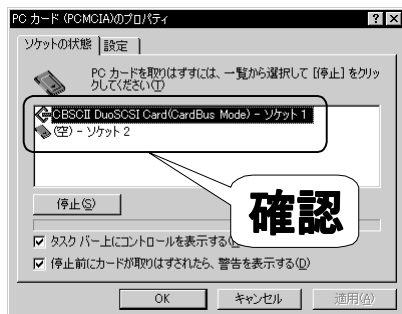
## 1 CBSC II が正常に認識されているかの確認

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]内の[PCカード(PCMCIA)]アイコンをダブルクリックします。

2 CBSC II が正常に認識されているかを確認します。

[CBSC II DuoSCSI Card (XXXX)]と表示されている場合は、正しく認識されています。

※(XXXX)には使用しているモードが入ります。





**注意!**

- ・「(空) ソケット 1 (または 2)」と表示されている場合
  - ①カードが認識されていません。  
もう一度抜き差ししてしっかりと挿入してください。
  - ②パソコン本体が 16bit 環境なのに、CBSC II が **CardBus モード** になっています。  
モードスイッチを **16bit モード** に設定しなおしてください。
- ・それ以外の表示の場合  
【インストールした情報を削除するには】(117 ページ)を参照し、一度インストールした情報を削除した後、正しい手順でインストールを行ってください。

## 2 CBSC II 及び SCSI 機器が正常に認識されているかの確認

- PC98-NXシリーズ(mobio NXシリーズを除く)、  
PC-9821Nr15, Nr150, Nr166, Nr233, Nw133, Nw150, Nr266, Nr300及び  
DOS/Vマシンの場合

- 1 [マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[接続別に表示]をクリックします。



### 注意!

PC98-NXシリーズの一部の機種で上記[デバイスマネージャ]タブが表示されない場合があります。

その場合は以下の手順を行った後に、再度手順の1から行ってみてください。

1. [スタート]→[プログラム]→[Cyber Trio-NX]→[Cyber Trio-NXセットアップ]を選択します。

([Cyber Trio-NX]の項目が無い場合は[プログラム]→[NXユーティリティ]  
(または「NXの設定」)を確認してください。)

2. [アドバンスモード]にチェックし、Windowsを一旦再起動してください。

### 3 CBSC II と接続されたSCSI 機器を確認します。

#### 表示例



- ①[プラグアンドプレイBIOS]→[PCIバス]の順にダブルクリックします。
- ②表示された中から、「XXXX CardBus XXXX」または「XXXX PCMCIA XXXX」を探しだしてダブルクリックします。



#### 注意!

- ・手順3の②で「XXXX CardBus XXXX」または「XXXX PCMCIA XXXX」がない場合は、手順2を参照し、一度[種類別に表示]をクリックし、[PCMCIAソケット]の下に表示される名称を書き留めます。その後[接続別に表示]に戻り、書き留めた名称をダブルクリックします。
- ・[種類別に表示]の[PCMCIAソケット]の下にコントローラが表示されなかったり、コントローラに“×”がついていたら、【困った時には】内の「インストール終了後の確認で以下のようにになっている」(137ページ)を参照してください。

**③CBSC II が正常に登録されていることを確認します。**

以下の項目が表示（登録）されていることを確認し、頭に“！”マークが付いていないことも確認してください。

**「CBSC II DuoSCSI Card XXXX」**

‘XXXX’の表示は、【インストール】時の手順**4**（65ページ）で選択したドライバにより異なり、以下の様に表示されます。

[CardBusモードの場合] . . . . . ’ (CardBus Mode)’

[16Bitモード：PC98-NX & DOS/Vの場合] . . . . . ’ (16bit Mode)’

[16Bitモード：PC-9821シリーズの場合] . . . . . ’ (16bit Mode) for PC-98’



**参照**

“！”マークがついている場合は、【困った時には】の「Windows Me/98/95上でCBSC IIのドライバに“！”マークがついている」（119ページ）を参照してください。

**④接続したSCSI機器が正常に登録されていることを確認します。**

「CBSC II DuoSCSI Card xxxx」をダブルクリックし、CBSC IIに接続したSCSI機器の型名（製品名とは異なります）が、CBSC IIの下に正常に表示されていることを確認します。

（型名については、各メーカーにお問い合わせください。）



**参照**

SCSI機器が表示されない場合は、【困った時には】の「Windows Me/98/95上でCBSC IIのドライバに“！”マークがついている」（119ページ）を参照してください。

正しく表示されていれば正常です。

後は、接続したSCSI機器にフォーマットが必要な場合は、【SCSI機器の設定・フォーマット】（81ページ）を参照してください。

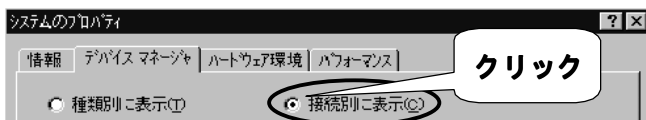
また、Windows Me/98/95を使用中にCBSC IIを抜く際は、【取り外す場合の注意事項】（93ページ）を参照してください。



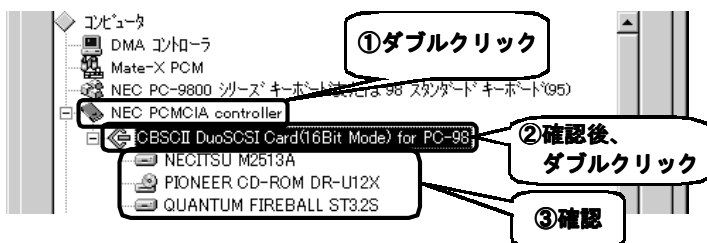
● PC98-NX mobio NXシリーズ、及び

PC-9821Np, Ns, Nd, Nd2, Ne2, Ne3, Nm, Nf, Nx, Nb7, Nb10, Na7, Na9, Na12, Na13, Na15,  
Nr12, Nr13, La7, La10, La13, Ld, Lt, Lt2, Ls12, Ls13, Ls150の場合

- 1 [マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[接続別に表示]を選択します。



- 3 CBSC II と接続されたSCSI機器を確認します。



- ① [NEC PCMCIA controller]をダブルクリックします。



**注意!**

- ・「NEC PCMCIA controller」がない場合は、「プラグアンドプレイBIOS」をダブルクリックしてみてください。機種によっては、こちらにある場合があります。
- ・「NEC PCMCIA controller」が表示されなかったり、“×”がついていたら、【困った時には】内の「インストール終了後の確認で以下のようになっている」(137ページ)を参照してください。

**② CBSC II が正常に登録されていることを確認します。**

以下の項目が表示(登録)されていることを確認し、頭に“！”マークが付いていないことも確認してください。

**「CBSC II DuoSCSI Card xxxx」**

‘xxxx’の表示は、【インストール】時の手順**4**(65ページ)で選択したドライバにより異なり、以下の様に表示されます。

[16Bitモード：PC98-NX & DOS/Vの場合] ······ (16bit Mode)’

[16Bitモード：PC-9821シリーズの場合] ······ (16bit Mode) for PC-98’



**参照**

“！”マークがついている場合は、【困った時には】の「Windows 98/95上でCBSC IIのドライバに“！”マークがついている」(119ページ)を参照してください。

**③ 接続したSCSI機器が正常に登録されていることを確認します。**

「CBSC II DuoSCSI Card xxxx」をダブルクリックし、CBSC IIに接続したSCSI機器の型名(製品名とは異なります)が、CBSC IIの下に正常に登録されていることを確認します。



**参照**

SCSI機器が表示されない場合は、【困った時には】の「Windows Me/98/95上でCBSC IIのドライバに“！”マークがついている」(119ページ)を参照してください。

正しく表示されている場合は正常です。

後は、接続したSCSI機器にフォーマットが必要な場合は、【SCSI機器の設定・フォーマット】(81ページ)を参照してください。

また、Windows Me/98/95を使用中にCBSC IIを抜く際は、【取り外す場合の注意事項】(93ページ)を参照してください。

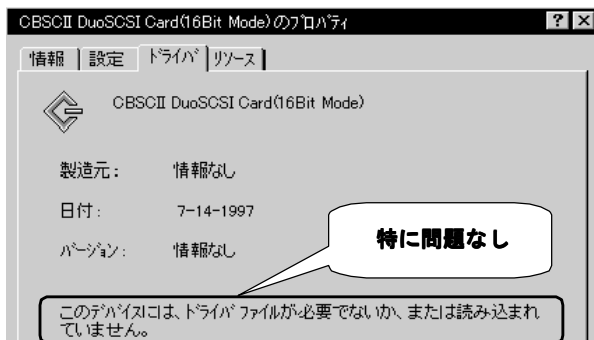


参考

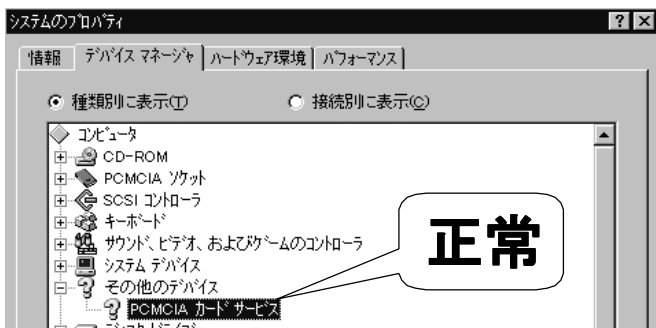
Windows 95 バージョン4.00.950 B/4.00.950 Cをお使いの場合

(バージョンの確認は、【Windows 95のバージョン確認】(63ページ)参照)

1. CBSC II が正常に動作していても[デバイスマネージャ]で以下の画面表示となりますが、特に問題ありません。



2. CBSC II が正常に認識されると[デバイスマネージャ]の[その他のデバイス]に「PCMCIA カードサービス」が追加されます。これは正常動作している状態ですので、削除しないでください。



# SCSI機器の設定・フォーマット

## 1 SCSI機器の確認・設定

### 1 必要であれば、SCSI機器のドライバをインストールします。

使用するSCSI機器によっては、各SCSI機器に付属のドライバをインストールする必要があります。（詳細は、各SCSI機器の取扱説明書を参照）



参考

CD-ROMドライブやハードディスクに関しては、一般的にドライバをインストールする必要はありません。

### 2 ハードディスクが未フォーマット、もしくは[マイコンピュータ]に表示されない場合は、フォーマットします。

詳しくは、次ページの【2 フォーマットに関する注意】を参照してください。



参考

デバイスマネージャ上でCBSC IIに接続しているハードディスクのデバイス名を表示し、そのデバイス名のプロパティを開きます。[設定]タブの[現在のドライブ（文字割り当て）]が空白になっている場合、ハードディスクが未フォーマットか、もしくはCBSC IIに接続してご使用いただけるフォーマット形式にはなっていません。この場合は、ASPIFORM.EXEにてフォーマットを行ってください。

## 2 フォーマットに関する注意

### 《未フォーマットのHDD》

「CBSC II サポートソフト」内の「Aspiform.exe」でフォーマットしてください。  
（【3 Windows Me/98/95上でのフォーマット (ASPIFORM.EXE)】(次ページ)参照) フォーマット後、[マイコンピュータ]にアイコンとして表示されます。



#### 注意

CBSC II に接続した SCSI 機器には「FDISK」は使用しないでください。

### 《1度フォーマットしたHDDを再フォーマットする場合》

1度フォーマットしたHDDのフォーマットを行う場合、[マイコンピュータ]でHDDのドライブアイコンを選択後、[ファイル]メニューの[フォーマット]の選択によってフォーマットが可能です。（各ドライブアイコンの右クリックによる[フォーマット]の選択でもフォーマットが可能です。）



#### 参考

以下の場合にはフォーマット済みでも再フォーマットができません。

（[マイコンピュータ]に表示されません。）

ASPIFORM.EXEを使用して、フォーマットを行ってください。（次ページ参照）

- ・ Windows NTで NTFSフォーマットにされたハードディスクの場合。
- ・ PC-9821シリーズ用 MS-DOSの FORMAT.EXEでフォーマットしたハードディスクをDOS/Vマシンや、PC98-NXシリーズで使用する場合。
- ・ FAT32フォーマットされたハードディスクを Windows 95 4.00.950/4.00.950aで使用する場合。
- ・ Windows、MS-DOS(PC DOS)以外のOSでフォーマットされたハードディスクの場合。（FATフォーマットされていない場合。）

### 《ハードディスク以外のSCSI機器（MOドライブなど）の場合》

SCSI機器の取扱説明書を参照して、フォーマットを行ってください。

### ③ Windows Me/98/95上でのフォーマット (ASPIFORM.EXE)

ASPIFORM.EXEは、各ディスクのフォーマット形式を確認したり、ハードディスクやMOをフォーマットするためのソフトウェアです。



#### 注意

- ASPIFORM.EXEでは、作成可能な領域数（区画数）は最大5区画までです。
- Windows 3.1 (MS-DOS)、Windows 95 (4.00.950a) の場合は、1ドライブあたり使用できる領域は2074Mバイトとなります。
- MS-DOSの場合、認識できるハードディスクの容量は、8032Mバイトまでとなります。また、MS-DOS環境ではFAT32でフォーマットされたハードディスクは正しく認識されませんので、フォーマット形式はFAT16とする必要があります。1パーティションあたりの最大サイズは「2047Mバイト」までとなります。そのため、8032Mバイト以上のハードディスクをMS-DOS上でご使用の際は、1パーティションあたり2047Mバイト以下で確保し、全てのパーティションの合計が8032Mバイトを超えないように設定してください。
- HDD（リムーバブルを除く）の場合、必ずパーティションを1つ以上作成してください。作成しないと[マイコンピュータ]にドライブアイコンが表示されません。
- 640Mバイト、1.3Gバイトなどの大容量MOディスクのフォーマットは、MOドライブ添付のフォーマッタをご使用ください。  
※Windows 98をお使いの場合は、640MバイトMOディスクのフォーマットは、Windows 98標準フォーマットをお使いください。
- ASPIFORM.EXEでフォーマットしたドライブまたはディスクからは、起動することができません。
- ハードディスクをPC-9821シリーズのWindows NT 4.0でも使用する場合、複数パーティションを作成しないでください。複数パーティションを作成したい場合は、【パソコンとの接続】の“注意”（142ページ）をご参照ください。
- ASPIFORM.EXEでフォーマットしたハードディスクは、PC-9821シリーズのデスクトップに接続した場合、MS-DOSでは使用できません。
- ASPIFORM.EXEでの1パーティションの最小容量は、ハードディスクの全容量が1024Mバイト未満の場合は「33Mバイト」、1024Mバイト以上の場合は「39Mバイト」です。

## <パーティションについて>

通常1台のハードディスクはいくつかのパーティション（区画領域）に分割して使用できます。

分割したパーティション単位にドライブが割り当てられるため、1台のハードディスクを複数台のドライブがあるかのように利用できます。

### 例1) ハードディスクの全容量を1つのパーティションで使用する場合

ハードディスクのドライブ数（ドライブ名）は1つ割り当てられます。

### 例2) ハードディスクを3つのパーティションで使用する場合

ハードディスクのドライブ数は3つ割り当てられます。

例)

### 4. 1Gバイトのハードディスクのパーティション分割例

パターン1  
(3つに分ける)

2 G
1 G
1.1 G

1つめのパーティション

2つめのパーティション

3つめのパーティション

4つめのパーティション

パターン2  
(4つに分ける)

1 G
1 G
1 G
1.1 G



#### 注意

上記の容量は理論値です。実際の値とは異なる場合があります。



#### 参考

- ・1つのハードディスクをFAT16、FAT32の領域に分けて使用することもできます。
- ・内蔵のハードディスクがFAT16でフォーマットされていても、OSがFAT32に対応していれば、CBSC IIに接続したハードディスクはFAT32でフォーマットして使用することができます。

## 《OSによる使用制限》

ASPIFORM.EXEは、使用しているOSによって作成できるパーティションの最大容量とファイルシステムが異なります。ファイルシステムには以下の種類があります。

ファイルシステム	特徴
NTFS	1つのパーティションあたりの最大容量は、「約408,000,000バイト」です。ただし、Windows Me/98ではアクセスできません。
FAT32	1つのパーティションあたりの作成できる最大容量は、「約32Gバイト」です。ただし、Windows Me/98でフォーマットされたFAT32のパーティションを「約2Tバイト」まで認識できます。
FAT(16)	1つのパーティションあたりの最大容量は、「約4Gバイト」です。ただし、Windows 98などで使用する場合は、「2,047Mバイト」までにする必要があります。

OSにより使用できるファイルシステムは異なります。

使用OS	ファイルシステム		
	NTFS	FAT32	FAT16 (FAT)
NEC製 MS-DOS Ver6.2	×	×	○※1
DOS/V製 MS-DOS(PC DOS) Ver5.0/V以降	×	×	○※1
Windows 95 4.00.950/4.00.950a	×	×	○
Windows 95 4.00.950 B/4.00.950 C	×	○※2	○
Windows NT 4.0	○	×	○※4
Windows 98	×	○※2	○
Windows 2000	○	○※3	○※4
Windows Me	×	○	○
Windows XP	○	○※3	○※4

- ※1：OSの制限により、パーティション容量が合計で約8033Mバイトまでのハードディスクしか認識できません。ASPIFORMで合計約8033Mバイトを超える容量を設定しないでください。
- ※2：ハードディスクに512Mバイト以上の空き容量がある場合のみ作成可能です。
- ※3：作成できる容量は32Gバイトまでですが、認識できる容量は2Tバイトまでであることにご注意ください。
- ※4：他のOSと併用する場合には、1パーティションのサイズを2047Mバイト以下に設定する必要があります。





**注意**

- ・ ASPIFORM.EXEで作成したFAT16のパーティションをFAT16→FAT32コンバートツール（Windows 98のFAT32コンバータなど）を使用してFAT32に変更しないでください。  
FAT16で作成したパーティションをFAT32に変更してご使用になりたい場合は、ASPIFORMを使用して、パーティションを削除し、FAT32でパーティションを作成しなおしてください。  
（削除したパーティションのデータはすべて失われます。）
- ・ FAT32ファイルシステムに対応していないディスクユーティリティを、FAT32で作成したパーティションに対して使用しないでください。
- ・ FAT32に対応していないOSと併用する場合は、FAT16でパーティションを作成してください。

● **ASPIFORMでフォーマットを行う**

- 1 「CBSC II サポートソフト」をフロッピーディスクドライブに挿入します。**
- 2 「Aspiform.exe」を起動します。**

[マイコンピュータ]→「A:（例：フロッピーディスクドライブがAの場合）」→[Aspiform.exe]を起動してください。



### 3 対象とするドライブを選択し、キーを押します。

対象ドライブの選択			
#5	ハードディスク	nEC	DSE2100S
SCSI-ID	デバイス種別	ベンダー名称	ドライブ製品名
↑↓:選択 RET:決定 ESC:終了			



#### 参考

- ・内蔵ハードディスクは表示されませんので、間違って内蔵ハードディスクの内容を消すことはありません。
- ・内蔵CD-ROMドライブなどが表示されることがあります。  
また、それを選択をすることはできません。

### 4 [(F) FDISKフォーマット]を選択し、キーを押します。

処理内容の選択	
(I) ディスクタイプの確認	
(E) イジェクト	
(A) イジェクト許可	
(P) イジェクト禁止	
<b>(F) FDISKフォーマット</b>	ここを選択して、 <input checked="" type="checkbox"/> キーを押す。
(C) ディスクデータ消去	
(S) 設定変更	
↑↓:選択 RET:決定 ESC:終了	



**参照**

各項目の詳細については、【● ASPIFORM.EXEの処理内容】(91ページ)を参照してください。



**参考**

M0ドライブの場合は、[(F) FDISK フォーマット]が[(F) フォーマット]に変わります。

**5** [パーティションの作成]を選択し、キーを押します。

処理内容の選択	
パーティション状態の表示	キーを押す。"/>
パーティションのフォーマット	
<b>パーティションの作成</b>	
パーティションの削除	
ディスク初期化	
↑↓:選択 RET:決定 ESC:終了	

**6** 確保する領域の容量を入力して、キーを押します。

最大容量を確保する場合は、そのままキーを押します。  
⇒確保する領域を確認する画面が表示されます。

**表示例**

パーティションの作成	
パーティション容量を Mバイト単位で入力してください。 実際の容量はシリンダ単位に調整されます。 入力可能範囲は 33~2047 です。 2047	
0~9:入力 RET:決定 ESC:中止	


**参照**

使用しているOSによって、作成できるパーティションの最大容量と、ファイルシステムは異なります。《OSによる使用制限》(85ページ)を参照してください。

## 7 容量を確認し、[実行]を選択して、キーを押します。



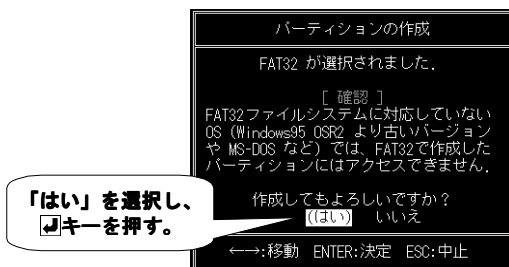
## 8 ファイルシステムを選択します。

そのパーティションのファイルシステムを選択します。  
⇒フォーマットが開始されます。



## 9 [FAT32ファイルシステム]の場合、以下が表示されます。

画面上のメッセージを確認し、作成しても良いなら[はい]を選択し、**[Enter]**キーを押します。



## 10 フォーマットが終わりましたら、**[Enter]**キーを押します。

## 11 複数のパーティションを作成する場合

複数のパーティションを作成する場合は、手順**5**からの作業を繰り返し行い、残りの容量を確保してください。

## 12 [ESC]キーを3回押し、**ASPIFORM.EXE**を終了します。

終了後、パソコンを再起動してください。

以上でフォーマットは終了です。

再起動後に、[マイコンピュータ]にアイコンが追加され、SCSI機器が使用できるようになります。

## ● ASPIFORM.EXEの処理内容

キー	処理項目	対象ドライブ、ディスク	処理内容
I	ディスクタイプの確認	全ドライブ、ディスク	ドライブ内のディスクが、どのフォーマット形式に従ってフォーマットされているかを判別します。
E	イジェクト	リムーバブルディスク、MOのみ	ドライブ内のディスクをイジェクトします。
A	イジェクト許可	リムーバブルディスク、MOのみ	無効化されたイジェクトボタンを有効にします。イジェクトボタンによるイジェクトが可能になります。
P	イジェクト禁止	リムーバブルディスク、MOのみ	イジェクトボタンを無効化します。イジェクトが許可されるまで、イジェクトボタンは効かなくなります。
F	FDISK フォーマット	—	ドライブ内のディスクをフォーマットします。フォーマットを行うとディスク上のデータはすべて消去されます。
		HDD(リムーバブルを除く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーティション状態の表示 単純にパーティションの状態を表示</li> <li>・パーティションのフォーマット パーティションを選択後、論理フォーマットを行う</li> <li>・<b>パーティションの作成</b> 新規パーティションを作成 (この作業は必ず行ってください)</li> <li>・パーティションの削除 末尾のパーティションを削除</li> <li>・ディスク初期化 物理フォーマットを行う</li> </ul>
F	フォーマット	リムーバブルHDD/MO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理フォーマット 通常は必要ありません。</li> <li>・論理フォーマット MO, PDの場合はスーパーフォーマットでフォーマット</li> <li>・システム転送 PC-9821シリーズでMOディスクを使用時のみ</li> <li>・ボリュームラベル ボリュームラベルの設定</li> </ul>

SCSI機器の設定・フォーマット

C	ディスクデータ 消去	全ドライブ、 ディスク	ディスクのデータを消去します。 ・簡易データ消去 データ管理情報部分のみを消去 ・完全データ消去 ディスク上のすべての情報を消去
S	設定変更	弊社製RM-MOシリー ズ、MOFシリーズのみ	ライトキャッシュの設定を行います。 初期設定はOFFです。

# 取り外す場合の注意事項



## 警告!

- ・ SCSI機器にアクセス中のCBSC IIの抜き差しは絶対に行わないでください。  
ディスクの内容が破壊される恐れがあります。
- ・ パソコンにCBSC IIが挿入されたままの状態でのケーブルの取り付け及び取り外しは行わないでください。
- ・ SCSI機器の電源は、CBSC IIをPCカードスロットから取り出した後か、パソコン本体の電源をOFFにした後で、OFFにしてください。

Windows Me/98/95を使用中でもCBSC IIを取り外すことができます。

ただし、PCカードの動作を終了せずにCBSC IIをPCカードスロットから取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

CBSC IIをPCカードスロットから取り外す際には、次ページの「**1** CBSC IIの取り外し方法—その1」または「**2** CBSC IIの取り外し方法—その2」(95ページ)の手順に従って行ってください。

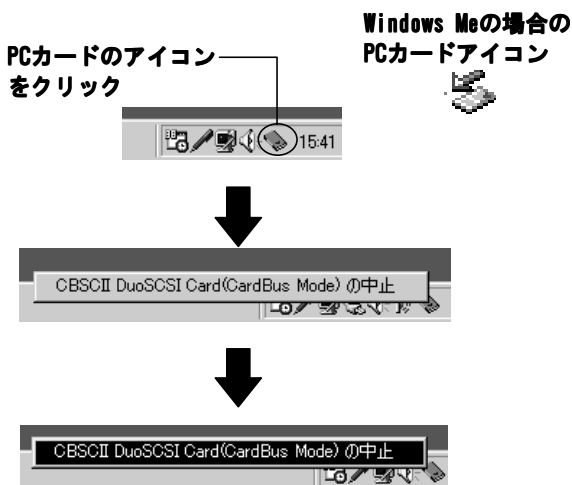


## 1 CBSC II の取り外し方法—その 1

1 タスクバーのPCカードのアイコンをクリックします。

2 [CBSC II DuoSCSI Card xxxxの中止]をクリックします。

Windows Meの場合は[CBSC II DuoSCSI Card xxxxの停止]をクリックします。



3 [OK] ボタンをクリックします。

4 CBSC II をPCカードスロットから取り外します。

再度CBSC IIを使用する場合は、PCカードスロットに挿入すれば使用できます。



## 参考

CBSC II にハードディスクを接続している環境下で、Windows Me/98/95 を使用中に CBSC II を取り外そうとした場合、“このデバイスは取り外せません”と表示されることがあります。この場合は、ハードディスクを使用しているアプリケーションを終了するか、Windows Me/98/95 を終了してから、CBSC II を取り外してください。

## 2 CBSC II の取り外し方法—その 2

### ● Windows Me の場合

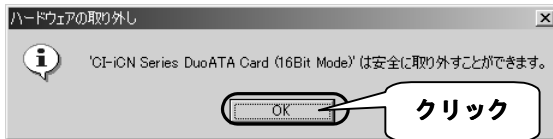
- 1 タスクトレイの PC カード アイコン をダブルクリックします。



- 2 [ハードウェアの取り外し] 画面が表示されたら、本製品を選択し、[停止] ボタンをクリックします。

- 3 [ハードウェアデバイスの停止] 画面が表示されたら、本製品名が表示されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

- 4 [OK] ボタンをクリックし、本製品を取り外します。



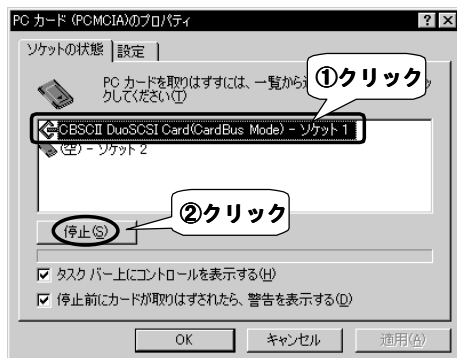
● Windows 98/95の場合

1 [コントロールパネル]内の[PCカード(PCMCIA)]を起動します。

[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[PCカード(PCMCIA)]を開きます。

[PCカード(PCMCIA)]のプロパティ画面が表示されます。

2 CBSC IIを選択して、[停止]([終了])ボタンをクリックします。



3 [OK] ボタンをクリックします。

4 CBSC II をPCカードスロットから取り外します。

再度CBSC II を使用する場合は、PCカードスロットに挿入すれば使用できます。



参考

CBSC II にハードディスクを接続している環境下で、Windows Me/98/95 を使用中にCBSC II を取り外そうとした場合、“このデバイスは取り外せません”と表示されることがあります。この場合は、ハードディスクを使用しているアプリケーションを終了するか、Windows Me/98/95 を終了してから、CBSC II を取り外してください。

## DOS上からWindows Me/98/95を インストールするには

ここでは、MS-DOS (PC DOS) 上からCBSC IIに接続したCD-ROMドライブを使用して、Windows Me/98/95をインストールする手順について説明します。



### 注意

パソコン本体に付属の再セットアップディスク(各々名前は違います)を使用してWindows 98/95をインストールする場合は、別冊の「CBSC II Windows 98/95再セットアップガイド」をご参照ください。

## DOS上からWindows Meをインストールする

MS-DOS上またはMS-DOSの起動ディスク上でCD-ROMドライブが使用できる(本製品が正常に動作している)ことを確認<sup>※</sup>後、Windows MeのCD-ROMをセットして、Windows Meのセットアップを画面の指示に従って実行します。

※ 正常に動作していない場合は、【Windows 3.1、MS-DOSでご使用の場合】(155ページ)を参照してください。



### 注意

MS-DOSからWindows Meのセットアップ後は、【インストール終了後の確認】で本製品が【不明なデバイス】として認識されているので、下記の手順でドライバの再インストールが必要です。

1. 本製品をPCカードスロットから取り外した後、ドライバの削除を行います。  
(【取り外す場合の注意事項】(93ページ)、【インストールした情報を削除するには】(117ページ)参照)
2. Windows Meを再起動します。
3. ドライバをインストールしてWindows Meを再起動後、本製品を接続します。  
(【インストール】(64ページ)参照)
4. 本製品が正常に認識されていることを確認します。  
(【インストール終了後の確認】(73ページ)参照)

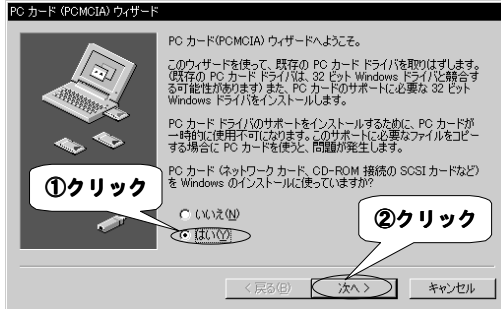
## DOS上からWindows 98をインストールする

CBSC II 接続のCD-ROMドライブを使用して、Windows 98のインストールを行う場合、必ず以下の手順に従ってください。

- 1 CBSC II のMS-DOS用ドライバをインストールします。**  
(【設定の前に】(156ページ)～【インストール】(157ページ)を参照してください。)
- 2 CBSC II を「16bitモード」に設定します。**  
(【パソコンとの接続】(163ページ)参照)
- 3 CBSC II にCD-ROMドライブを接続します。**  
(【パソコンとの接続】(163ページ)参照)
- 4 CBSC II をパソコンに接続します。**
- 5 パソコンを再起動後、Windows 98をインストールします。**  
パソコンを再起動した後、CD-ROMドライブにWindows 98のCD-ROMをセットし、Windows 98をインストールします。

## 6 [はい]→[次へ]ボタンをクリックします。

Windows 98のインストール中に“PCカード (PCMCIA) ウィザード” が起動されたら、[はい]を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



## 7 [SCSIコントローラ]→[次へ] ボタンをクリックします。



## 8 「CBSC II サポートソフト」をフロッピーディスクドライブに挿入します。

DOS上からWindows Me/98/95をインストールするには

## 9 【ディスク使用】 ボタンをクリックします。



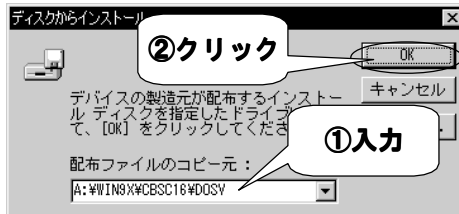
## 10 “配布ファイルのコピー元” に、以下の通り入力します。 PC98-NX及びDOS/Vマシンの場合(70光ディスクドライブがAドライブの場合)

A:¥WIN9X¥CBSC16¥DOSV

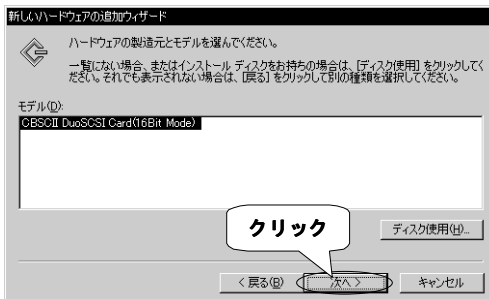
## PC-9821シリーズの場合(70光ディスクドライブがCドライブの場合)

C:¥WIN9X¥CBSC16¥PC98

入力が終わりましたら、[OK] ボタンをクリックします。



## 11 【次へ】ボタンをクリックします。



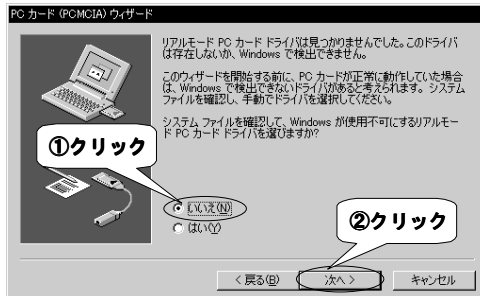
## 12 [次へ]ボタンをクリックします。



## 13 [完了]ボタンをクリックします。



## 14 [いいえ]→[次へ] ボタンをクリックします。





DOS上からWindows Me/98/95をインストールするには

## 15 [完了]ボタンをクリックします。

「CBSC II サポートソフト」を抜いて、再起動します。



以上で、Windows 98のインストールは終了です。

**Windows 98上でCBSC IIを使用する場合は、【使用するモードを決定する】(62ページ)～【インストール】(64ページ)を参照して、使用するモードを確認し、Windows 98/95用ドライバをインストールしてください。**

## DOS上からWindows 95をインストールする

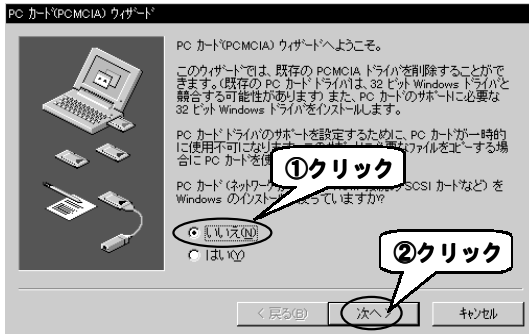
※ ご使用のWindows 95のバージョンにより、掲載している画面と異なる場合があります。

- 1 CBSC II のMS-DOS用ドライバをインストールします。**  
(【設定の前に】(156ページ)～【インストール】(157ページ)を参照してください。)
- 2 CBSC II を「16bitモード」に設定します。**  
CBSC II を「16bitモード」に設定します。  
(【パソコンとの接続】(163ページ)参照)
- 3 CBSC II にCD-ROMドライブを接続します。**  
CBSC II に、CD-ROMドライブを接続します。  
(【パソコンとの接続】(163ページ)参照)
- 4 CBSC II をパソコンに接続します。**
- 5 パソコンを再起動後、Windows 95をインストールします。**  
パソコンを再起動した後、CD-ROMドライブにWindows 95のCD-ROMをセットし、Windows 95をインストールします。
- 6 [コントロールパネル]内の[PCカード]アイコンを開きます。**  
Windows 95インストール終了後、PCMCIAドライバを 32ビットへ切り替える為、[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[PCカード]アイコンをダブルクリックしてください。[PCカード(PCMCIA)ウィザード]が起動します。

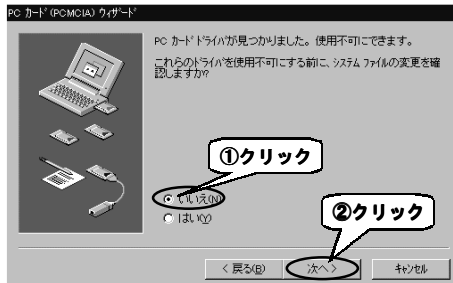


PC カード  
(PCMCIA)

## 7 【いいえ】→【次へ】 ボタンをクリックします。



## 8 【いいえ】→【次へ】 ボタンをクリックします。

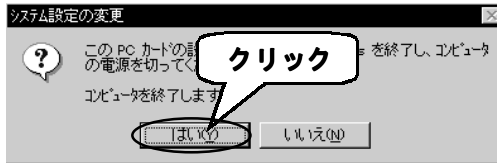


## 9 【完了】 ボタンをクリックします。



## 10 [はい]ボタンをクリックします。

しばらくするとコンピュータの電源が切れる状態となります。  
以上で32ビットPCMCIAドライバの設定は終了です。



## 11 パソコンの電源をOFFにし、CBSC II を取り外します。

以上でWindows 95のインストールは終了です。

**Windows 95上でCBSC IIを使用する場合は、【使用するモードを決定する】(62ページ)～【インストール】(64ページ)を参照して、使用するモードを確認し、「CBSC IIサポートソフト」からドライバをインストールしてください。**

# CBSC II の詳細設定

## オプションの設定

各種SCSI機器に適したモードや、メッセージ非表示、起動時間短縮等を行いたい場合に設定してください。

### 【起動方法】

- ① [マイコンピュータ] を右クリックし、表示された [プロパティ] をクリックします。
- ② [デバイスマネージャ] タブをクリックします。
- ③ 「CBSC II DuoSCSI Card XXXX」 を選択し、 [プロパティ] ボタンをクリックします。



### 参照

起動方法が分からない場合は、【インストール終了後の確認】(73ページ)を参照してください。

[設定] タブをクリックし、「アダプタの設定」内に次ページのオプションを設定します。設定後、[OK] ボタンをクリックします。

**<CardBusモードのみ>**

オプション	初期値	説明
/PIO	未設定	バス転送を行わず、PIOで動作します。
/POLLING	未設定	CBSC IIのハードウェア割込を使用せず、Windowsのタイマーにより動作します。

**<CardBusモード/16bitモード共通>**

オプション	初期値	説明
/MSGON	設定済み	ドライバ初期化時に各種メッセージを表示します。 ZIPドライブを接続すると、常にターミネータパワールの警告メッセージが表示されますが、このオプションを削除すれば、メッセージを表示しないようにできます。
/SYNCOFF	未設定	すべてのSCSI機器の同期転送を禁止します。 この場合、デバイスドライバでの各ドライブの同期転送に関するチェックボックスの状態は無視されます。
/DISCONOFF	未設定	すべてのSCSI機器の切断(ディスクコネク)を禁止します。 この場合、デバイスドライバでの各ドライブの切断に関するチェックボックスの状態は無視されます。
/MAXSCANID=x ( x = 0~7 )	未設定	デバイスにアクセスする SCSI IDをxまでに制限します。
/NCTERMPW	未設定	内蔵ターミネータへの電源供給を常に有効にし、ドライバ初期化時間を短縮します。
/QUICKRESET	未設定	SCSIバスリセットの時間を短縮します。

**参考**

**/MAXSCANID=x, /NCTERMPW, /QUICKRESETを組み合わせることによりSCSIデバイス認識までの時間を短縮できます。**

## カスタマイズユーティリティ (16bitモード専用)

カスタマイズユーティリティは、CBSC IIの状態を調べ、トラブルの解決に役立つ情報を表示するWindows Me/98/95、16bitモード専用のユーティリティです。また、CBSC IIのデータ転送モードを変更することができます。

### 1 起動方法

[マイコンピュータ]→「A: (例:フロッピーディスクドライブがAの場合)」→ [Win9X]→[CBSC16]→「Custom.exe」を起動してください。

### 2 使用方法

#### ● [設定]タブ



- ・ ドライバ情報  
CBSC IIが使用するドライバ及び、そのドライバのバージョンを表示します。
- ・ データ転送モード設定  
現在の転送モードが表示されます。

モード	機能の説明
UltraSMIT (H) Mode	UltraSMIT転送による高速アクセスが可能です。内蔵FIFOを使用した自己診断により、最適な転送方式を自動決定します。CBSC IIの性能を最大限に発揮できるモードです。ただし、ご使用の環境によっては使用できない場合があります。 (初期値)
UltraSMIT (L) Mode	従来のSMIT方式による高速アクセスが可能です。
PIO (H) Mode	I/Oポートを使用したワードアクセス (16ビット) を行います。
PIO (L) Mode	I/Oポートを使用したバイトアクセス (8ビット) を行います。
Polling Mode	割り込みの空きがない状態でも動作させることができます。

#### 〈モードの変更方法〉

- ① [▼] ボタンをクリックし、変更したい転送モードを選択します。
- ② [適用] または [OK] ボタンをクリックします。
- ③ Windows Me/98/95を再起動するか、【取り外す場合の注意事項】(93ページ)を参照してCBSC IIの抜き差しを行ってください。



#### 注意

デバイスドライバに「16bit PIOモード」を選択した場合、転送モードの変更はできません。

転送モードを変更したい場合は、【インストールした情報を削除するには】(117ページ)を参照して、ドライバの情報を削除後、他のモードで再インストールしてください。



● [情報]タブ

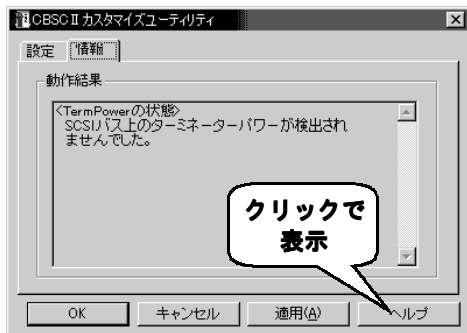
CBSC IIが最後に動作した時の状態を表示します。  
表示される情報は、CBSC IIのエラー解決の手がかりになります。



参考

動作結果が「正常に動作しています」と表示されていても、実際の動作がおかしい場合は、CBSC IIの自己診断機能で検出できない問題が発生しています。その場合は、転送モードを変更することにより問題を回避できる可能性があります。(変更方法は、前ページを参照)

下記のように、「動作結果」に警告が表示されている場合には、[ヘルプ]ボタンをクリックして、表示されたメッセージに従い、問題を解決してください。



## リソースの変更

デバイスが競合している場合などは、CBSC IIのリソースを変更してみてください。



### 注意

リソースの変更は16bitモードのときのみ可能です。CardBusモードの場合は、リソースの変更はできません。

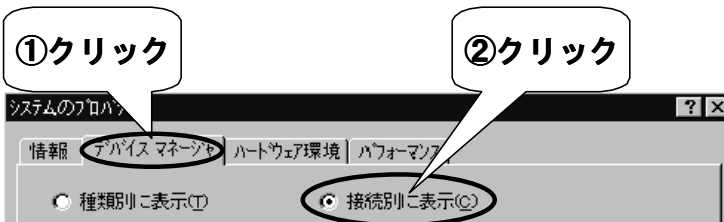


### 参考

「XXXX CardBus XXXX」や「XXXX PCMCIA XXXX」との競合の場合は、特に問題はありません。

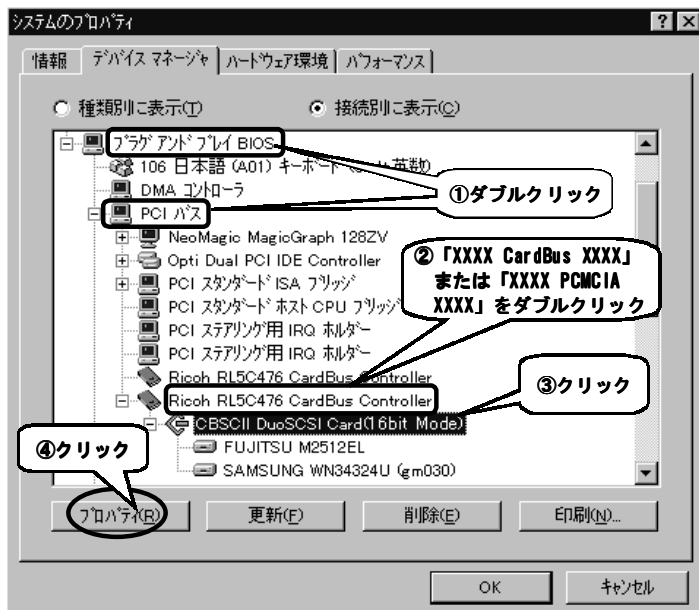
### ・リソースの変更（例：DOS/Vマシンの場合）

- 1 [マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[接続別に表示]をクリックします。



### 3 CBSIC IIのプロパティを開きます。

#### 表示例



- ① [プラグアンドプレイBIOS]→[PCIバス]の順にダブルクリックします。
- ② 表示された中から、「XXXX CardBus XXXX」または「XXXX PCMCIA XXXX」を探しだしてダブルクリックします。



#### 注意

- ・手順3の②で「XXXX CardBus XXXX」または「XXXX PCMCIA XXXX」がない場合は、手順2を参照し、一度[種類別に表示]をクリックし、[PCMCIAソケット]の下に表示されるものを書き留めます。その後[接続別に表示]に戻り、書き留めたものをダブルクリックします。
- ・[種類別に表示]の[PCMCIAソケット]の下にコントローラが表示されなかったり、コントローラに“x”がついていたら、【困った時には】内の「インストール終了後の確認で以下のようにになっている」(137ページ)を参照してください。

**③CBSC IIのドライバを選択します。**

以下の項目が表示(登録)されていることを確認し、クリックします。

**「CBSC II DuoSCSI Card xxxx」**

‘xxxx’の表示は、【インストール】時の手順**4**(65ページ)で選択したドライバにより異なり、以下の様に表示されます。

[16Bitモード: PC98-NX & DOS/Vの場合] . . . . . ’(16bit Mode)’

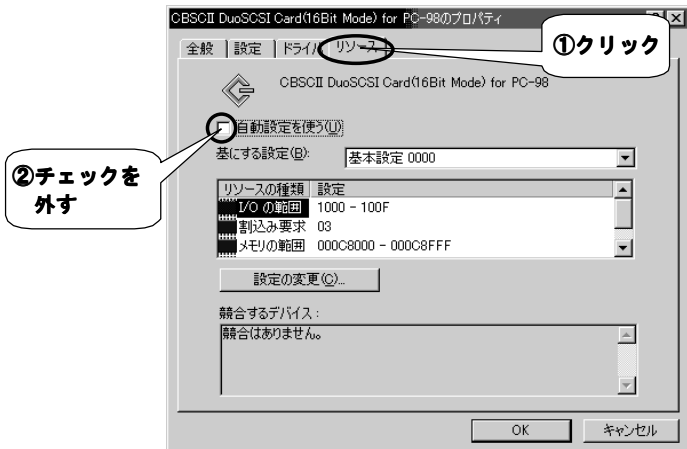
[16Bitモード: PC-9821シリーズの場合] . . . . . ’(16bit Mode) for PC-98’

**④【プロパティ】ボタンをクリックします。**

⇒「CBSC II DuoSCSI Card XXXXのプロパティ」画面が表示されます。

**手動設定の手順**

**1 [リソース] タブ内で、[自動設定を使う]チェックボックスのチェックを外します。**



## 2 各リソースの変更を行います。

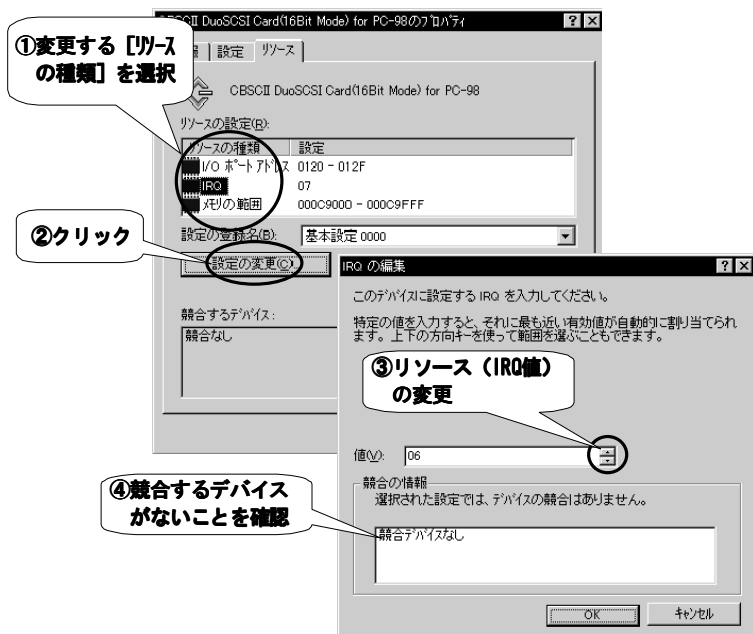
以下の設定変更後、[OK]ボタンをクリックしてください。

### リソースの変更方法

[リソースの種類]で変更するリソースの種類（[I/Oポートアドレス]、[IRQ]、[メモリの範囲]）を選択し、[設定の変更]ボタンをクリックすれば変更（編集）画面が表示されます。リソースの変更を行ってください。

ただし、変更する場合は必ず「競合するデバイス」がないことを確認してください。

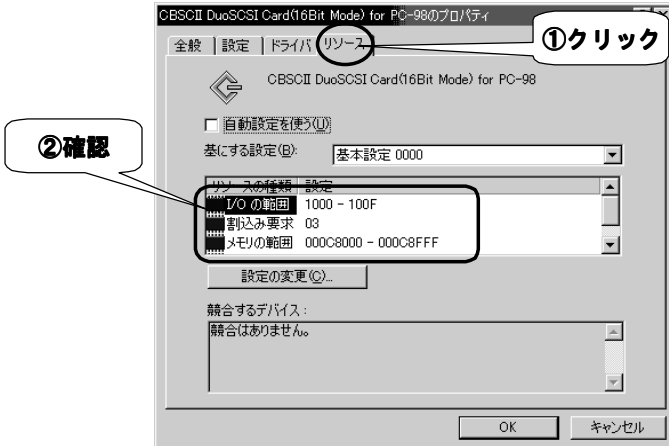
（以下は、IRQ(割り込み)を変更する場合の例）



この後、Windows Me/98/95を再起動してください。  
以上で終了です。

**リソース予約の手順**

- 1 [リソース] タブで、[割り込み要求]の値をメモなどに書きとめます。

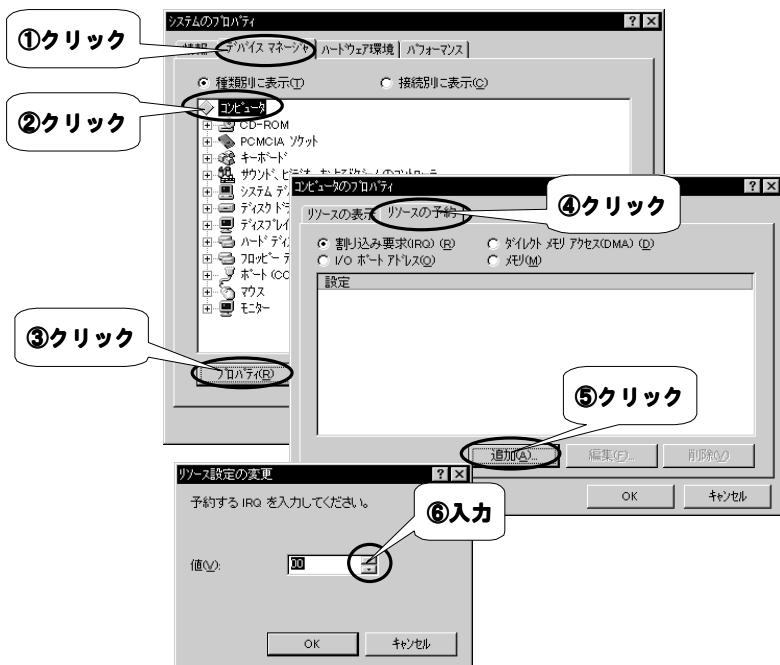


- 2 一旦CBSC IIをPCカードスロットから取り外します。  
(【取り外す場合の注意事項】(93ページ)を参照)

### 3 「リソースの予約」を行います。

手順1でメモした数値(リソース値)を[コンピュータのプロパティ]で予約してください。

1. [マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。
2. [デバイスマネージャ]をクリックし、[コンピュータ]を選択した状態で[プロパティ]ボタンをクリックします。
3. [リソースの予約]タブをクリックし、[追加]ボタンをクリックします。
4. [値]欄でメモした数値を入力します。
5. [OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。



この後、Windows Me/98/95を再起動してください。

# インストールした情報を削除するには

ここでは、Windows Me/98/95にインストールされたCBSC II ドライバの情報を削除する（アンインストール）方法を説明します。

次のような場合には、下記の手順に従ってインストール情報を削除してください。

- ・【インストール終了後の確認】（73ページ）の[デバイスマネージャ]及び[コントロールパネル]内の「PCカード (PCMCIA)」にて正常に認識されない場合
- ・動作がおかしい場合

## 1 CBSC II をPCカードスロットから取り外します。

（【取り外す場合の注意事項】（93ページ）を参照）



**注意**

CBSC II が挿入されていると、正常に作業が行えません。必ず、CBSC II を取り外してください。

## 2 「CBSC II サポートソフト」をフロッピーディスクドライブに挿入します。

## 3 「Ddsetup.exe」を起動します。

[マイコンピュータ] → 「A:（例：フロッピーディスクドライブがAの場合）」 → [WIN9X] → 「Ddsetup.exe」を起動してください。  
⇒[デバイスドライバセットアップ]画面が表示されます。

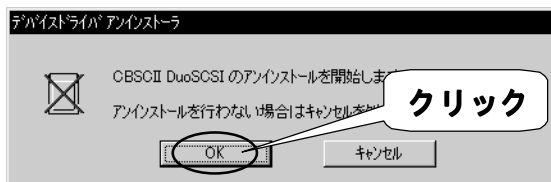
## 4 [アンインストール]を選択後、[OK]ボタンをクリックします。



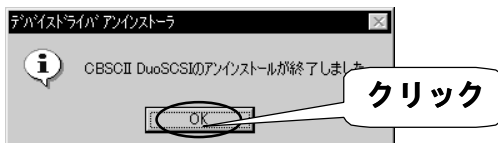


インストールした情報を削除するには

## 5 [OK]ボタンをクリックします。

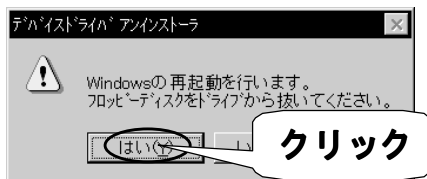


## 6 [OK]ボタンをクリックします。



## 7 「CBSC II サポートソフト」を抜き、[はい]ボタンをクリックします。

⇒Windows Me/98/95が再起動されます。



以上で、インストール情報の削除（アンインストール）は終了です。

次に【インストール】(64ページ)を参照の上、もう1度インストールし直してください。

## 困った時には (Windows Me/98/95)

### インストール時「カードサービス、ソケットサービスが見つかりません」と表示される

**原因** MS-DOS、もしくはWindows 3.1用のインストーラを実行されている可能性があります。

**対処** 64ページを参照し、Ddsetup.exeにてインストールを行ってください。

### Windows Me/98/95上でCBSC IIのドライバに“！”マークがついている

**原因1** 付属のケーブルを使用していない。

**対処** 付属のケーブルを使用してください。

付属のケーブル以外を使用すると配線が異なるため、正常に認識されず、カード自体を壊してしまう場合もありますので、ご注意ください。

**原因2** 変換アダプタを使用している。

**対処** 他のSCSI機器を間にはさむなどして、変換アダプタを使用せずに接続してみてください。変換アダプタを使わない状態で動作可能なら、その変換アダプタは使用しないでください。(CBSC IIとは併用できないアダプタである可能性があります。) または、別売の弊社オプションケーブルをご利用ください。

**原因3** CBSC IIを「16bitモード」で使用している場合で、パソコン本体に割り込みのリソースに空きがない。

**対処** ・パソコン本体の割り込みのリソースに空きがあるか確認してください。

(【● 割り込み (IRQ) リソースが空いているかの確認方法】(121ページ) 参照)

空きがない場合は、パソコン本体で使用していない何らかの機能を無効にし、確実に割り込みの空きを用意した上で確認してください。

(無効にできる機能に関しては、パソコンの取扱説明書またはパソコン本体メーカーにお問い合わせください。)

困った時には (Windows Me/98/95)

なお、割り込みの空きが1~2ヶ所存在する場合でも、実際は内部で使用されている場合があります。

CBSC II 以外の割り込みを使用するPCカードをお使いの場合は、そのPCカードが使用可能か確認してみてください。

- ・パソコン本体にPCカードスロットが複数ある場合、スロットの位置を変更してみてください。
- ・SCSI機器が装着されている場合は、SCSI機器を外し、CBSC II のみを接続して試してみてください。
- ・「CardBusモード」の場合は「16Bitモード」で試してみてください。

**対処** CBSC II のドライバを「ポーリングモード」※で使用してみてください。

(【● 再インストール方法】(122ページ)参照)

※「ポーリングモード」は割り込みを使用しないドライバです。

このモードで！マークが消える場合は、パソコン本体の割り込みの空きがないということです。

**原因4** ドライバが正常にインストールされていません。

**対処** 【● 再インストール方法】(122ページ)を参照して、再度インストールを行ってください。

**原因5** SCSI機器側に問題がある場合があります。

**対処** 他にSCSI機器がある場合はそちらをCBSC II に接続して確認してみてください。

**原因6** パソコン環境に問題がある場合があります。

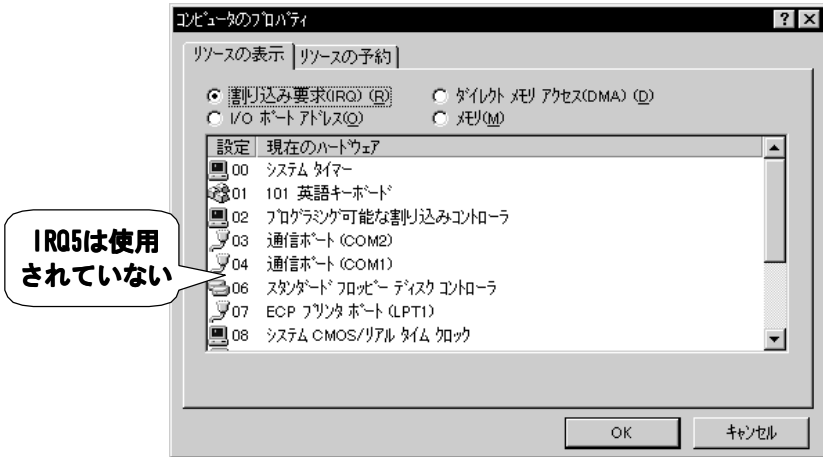
**対処** 他にCBSC II が使用可能な環境がある場合は、そちらにCBSC II を接続して確認してみてください。

● 割り込み (IRQ) リソースが空いているかの確認方法

割り込みの空き状態は、[コンピュータのプロパティ]で確認できます。

- ① [マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]を右クリックします。
- ② [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- ③ [デバイスマネージャ]タブで[コンピュータ]が選択された状態で[プロパティ]ボタンをクリックすれば、割り込みの使用状況を確認します。

(以下の画面では、IRQ5が使用されていない(空いている)ことがわかります。)



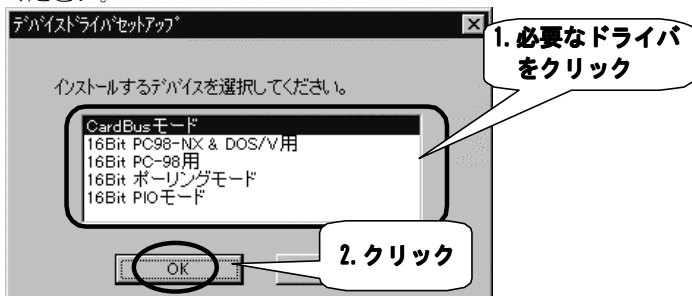
「0」から「15」のIRQが全て何らかのデバイスによって使用されている場合、割り込みの空きがない状態です。

困った時には (Windows Me/98/95)

## ●再インストール方法

以下は、インストールが正常でなかった場合等にWindows Me/98/95上で再度インストールし直す場合の手順です。

- ① 【インストールした情報を削除するには】 (117ページ) を参照してインストール情報を削除し、パソコンを再起動してください。
- ② 再起動後、【インストール】 (64ページ) を参照して再度ドライバをインストールしてください。



- ③ インストール終了後、SCSI機器の電源がONになっているのを確認後、SCSI機器を接続したCBSC IIをPCカードスロットに挿入してください。
- ④ 【インストール終了後の確認】 (73ページ) を確認してください。

**Windows 98上でCBCSC II を16bitモードで使用した場合、Windows 98の終了画面で止まってしまう**

**対処1** 以下の作業を行ってください。

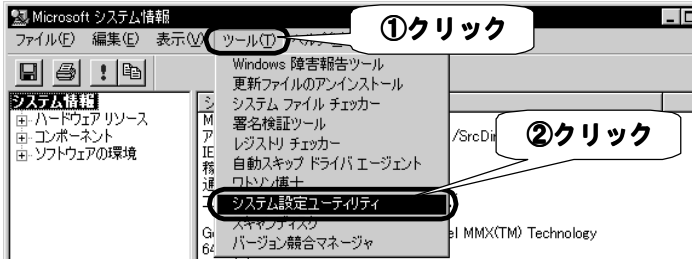
**手順1** 高速シャットダウンを使用不可にしてください。

**1** CBCSC II を外して、Windows 98を起動します。

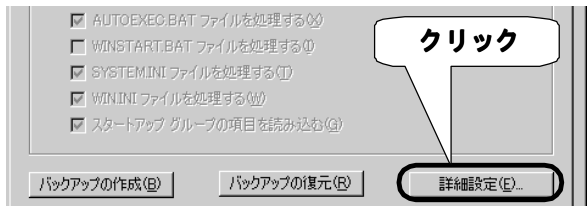
**2** 【システム情報】を起動します。

[スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] の順にクリックします。

**3** 【システム設定ユーティリティ】を起動します。

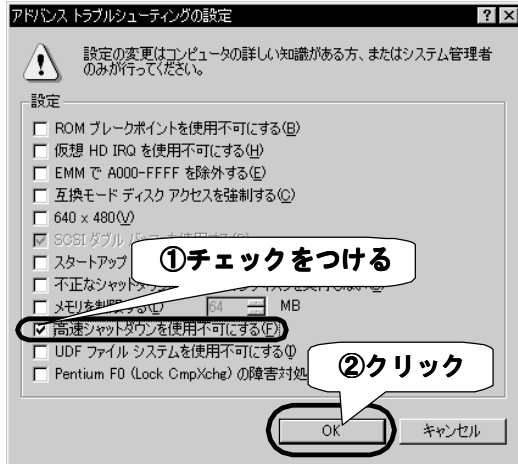


**4** 【詳細設定】ボタンをクリックします。



## 5 高速シャットダウンを使用不可にします。

「高速シャットダウンを使用不可にする」にチェックを入れ、[OK] ボタンをクリックします。



以上の手順により、トラブルが直らなかった場合は、さらに手順を行います。

### お使いのパソコンにUSBポートがありますか？

「ある」 . . . . . 「手順2」(次ページ)

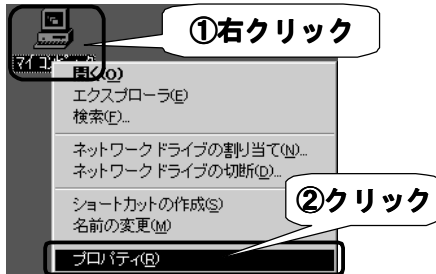
「ない」 . . . . . 「手順3」(128ページ)

**手順2** USBのドライバのリソース (I/Oポートアドレス) を手動設定により、変更してください。

**1** CBSC II を外して、Windows 98を起動します。

**2** **【システムのプロパティ】** を開きます。

[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された [プロパティ]ををクリックします。



**3** **【デバイスマネージャ】** タブ、**【種類別に表示】** を順にクリックします。

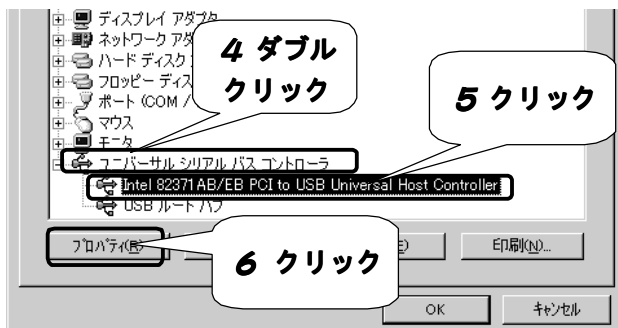




**4** [ユニバーサル シリアル バス コントローラ] をダブルクリックします。

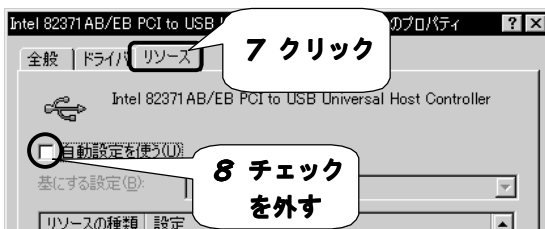
**5** 表示された「Intel……………」を選択します。

**6** [プロパティ] ボタンをクリックします。



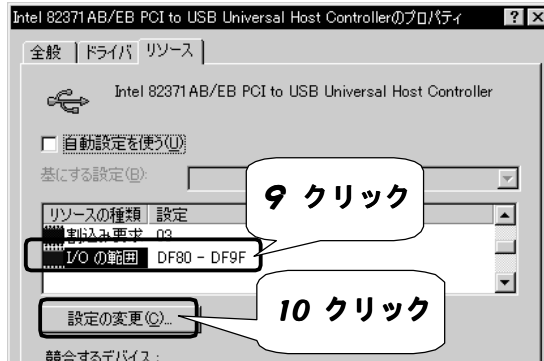
**7** [リソース] タブをクリックします。

**8** [自動設定を使う] のチェックを外します。



**9** [I/Oの範囲] を選択します。

## 10 【設定の変更】 ボタンをクリックします。

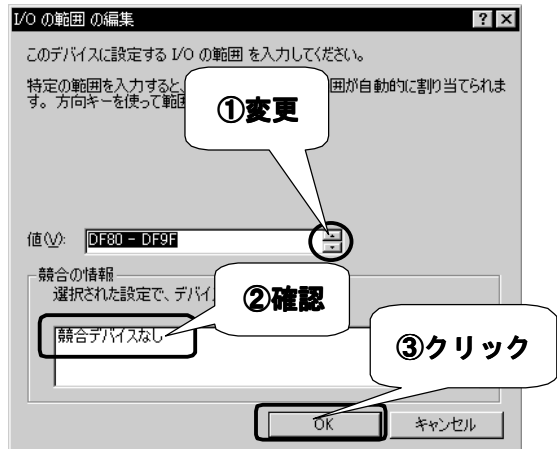


## 11 リソースの値を変更します。

[値] を変更します。

「競合の情報」の表示が「競合デバイスなし」であることを確認します。

[OK] ボタンをクリックします。



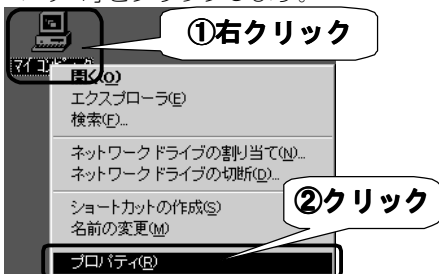
困った時には (Windows Me/98/95)

**手順3** USBのドライバを使用不可にします。

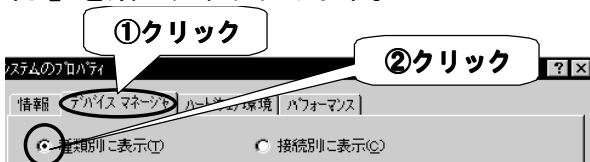
**1** CBSC II を外して、Windows 98を起動します。

**2** **【システムのプロパティ】** を開きます。

[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された  
[プロパティ]をクリックします。



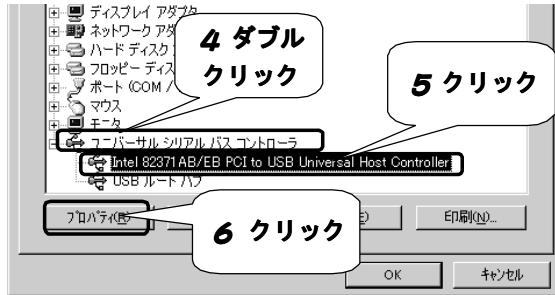
**3** **【デバイスマネージャ】** タブ、**【種類別に表示】** を順にクリックします。



**4** **【ユニバーサル シリアル バス コントローラ】** をダブルクリックします。

**5** 表示された「Intel……………」を選択します。

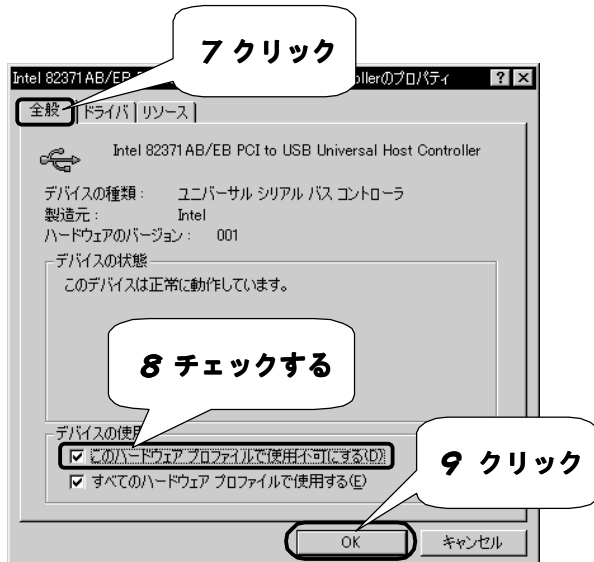
## 6 【プロパティ】 ボタンをクリックします。



## 7 【全般】 タブをクリックします。

## 8 【このハードウェアプロファイルで使用不可にする】 にチェックします。

## 9 【OK】 ボタンをクリックします。



### **CBSC II に接続されたハードディスクのドライブアイコンが[マイコンピュータ]に表示されない**

**原因1** 表示されていないだけの場合があります。

**対処** [マイコンピュータ]をダブルクリック→[表示]メニューから[最新の情報に更新]を実行してください。

**原因2** フォーマット形式が不正または未フォーマットです。

**対処** 【SCSI機器の設定・フォーマット】(81ページ)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。

**原因3** CBSC II 及びSCSI機器が正常に認識されていません。

**対処** 【インストール終了後の確認】(73ページ)にてどのように表示されていたかを確認し、注意の内容を参照してください。

### **CBSC II に接続されたリムーバブルディスク (リムーバブルハードディスク等) のドライブアイコンが[マイコンピュータ]に表示されない**

**原因1** 表示されていないだけの場合があります。

**対処** [マイコンピュータ]をダブルクリック→[表示]メニューから[最新の情報に更新]を実行してください。

**原因2** ディスクが入っていないか、認識されていない可能性があります。

**対処** 以下の手順で、ドライブ名の予約を行ってください。次回起動時にドライブアイコンを表示させることができます。

- ① [スタート]→[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]タブを順にクリック
- ② [ディスクドライブ]をダブルクリック→接続しているドライブをクリックして[プロパティ]ボタンをクリック
- ③ [設定]タブでドライブ名の予約を行ってください。

**原因3** フォーマット形式が不正または未フォーマットです。

**対処** 【SCSI機器の設定・フォーマット】(81ページ)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。

### **[デバイスマネージャ]及び[コントロールパネル]の[PCカード(PCMCIA)]でCBSC II とは異なるドライブ名が表示される**

**対処** 【●再インストール方法】(122ページ)を実行してください。

## CBSC II を挿入しても、認識されない

**原因** パソコン本体が16bit環境であるのに、CBSC II のモードスイッチがCardBusモードになっている。

**対処** モードスイッチを「16bitモード」にします。  
また、インストールでも「CardBusモード」を選択した場合は、【インストールした情報を削除するには】(117ページ)で、アンインストールを行った後に、【使用するモードを決定する】(62ページ)～【インストール】(64ページ)を参照し、正しいドライバをインストールしてください。

## SCSI 機器の動作が不安定になる

(CD-Rの書き込みに失敗する、ファイルコピーが止まってしまうなど)

**対処** 転送モードを変更してみてください。

### CardBusモードの場合

【オプションの設定】(106ページ)を参照し、「/PIO」オプションを付けてお試しください。

### 16bitモードの場合

【カスタマイズユーティリティ】(108ページ)を参照し、データ転送モード設定を[UltraSMIT(L) Mode]→[PIO(H) Mode]→[PIO(L) Mode]→[PollingMode]の順に変更してください。

**対処** パワーマネジメント機能を無効にしてください。

Windows Me/98/95でCardBusモードのCBSC II をご使用になる場合、機種によってはパソコン本体のパワーマネジメント機能を無効にしないと正常に動作しない場合があります。

次の手順に従ってパワーマネジメント機能を無効にしてください。  
(次ページ)参照

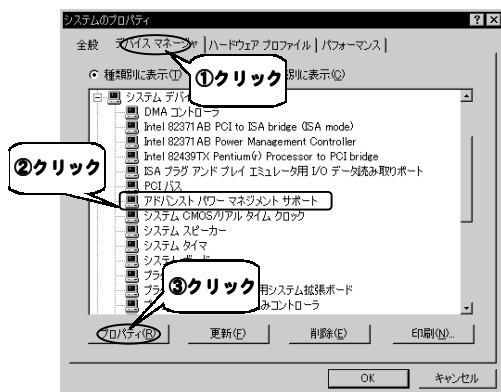
## Windows Me/98で使用する場合

- 1 **[マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を  
クリックします。**

⇒[システムのプロパティ]が開きます。

- 2 **[アドバンスト パワー マネジメント サポート] を開  
きます。**

[デバイス マネージャ] タブを選択し、[システム デバイス] の下  
にある [アドバンスト パワー マネジメント サポート] のプロパ  
ティを開きます。

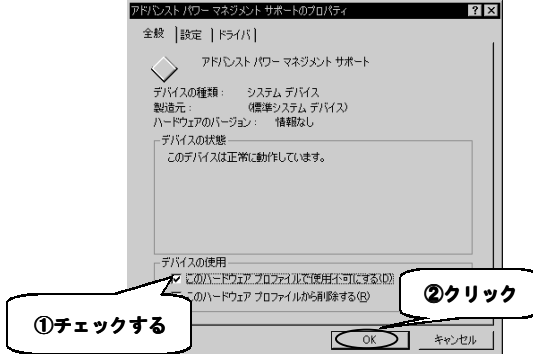


### 注意

機種によっては手順にある [アドバンスト パワー マネジメント サポート] の名称と  
は異なる場合があります。詳細はパソコン本体メーカーにお問い合わせください。

### 3 [パワーマネジメント]の設定を変更します。

[デバイスの使用] 欄の[このハードウェアプロファイルで使用不可にする]にチェックして[OK]ボタンをクリックします。



### 4 Windows Me/98を再起動します。



#### 注意

機種によっては、他の電源管理ユーティリティが組み込まれている場合があります。その場合は、電源管理ユーティリティを終了してからCBSC IIをご使用ください

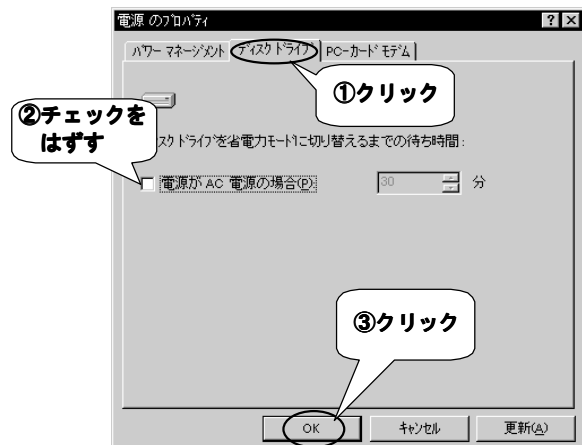


## Windows 95で使用する場合

- 1** [コントロールパネル]内の[パワーマネジメント]を起動します。  
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[パワーマネジメント]をダブルクリックします。  
⇒[電源のプロパティ]画面が開きます。
- 2** [Windowsでコンピュータの電源管理をする]のチェックを外します。



- 3** [パワーマネジメント]の設定を変更します。  
[ディスクドライブ]タブを選択し、[電源がAC電源の場合]チェックボックスのチェックを外し[OK]ボタンをクリックします。



- 4** Windows 95を再起動します。

**2台以上のSCSI機器を使用した時に、SCSIエラーが発生したり、パソコンがハングアップする。**

**対処1** 2台目以降に使用するSCSIケーブルは、長さ30cm以下のケーブル（弊社製別売オプションA50-A50-S, H50-H50-SまたはA50-H50-S等）を使用してください。

**対処2** Ultra SCSIハードディスクをご使用の場合は、2台目以降に接続してください。また接続ケーブルも長さ30cm以下のケーブルを使用してください。

**ハードディスクが使用できない**

**原因** フォーマット形式が不正または未フォーマットです。

**対処** 【SCSI機器の設定・フォーマット】(81ページ)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。

**ASPIFORMを実行すると“ASPIマネージャが組み込まれていません”という表示が出る**

**原因** MS-DOSモードで再起動した状態でASPIFORM.EXEを実行した為です。

**対処** Windows Me/98/95上の[マイコンピュータ]からASPIFORM.EXEを実行してください。[マイコンピュータ]→「A: (例:フロッピーディスクドライブがAの場合)」→「Aspiform.exe」を起動してください。

**ASPIFORMを実行しても、CBSC IIに接続したハードディスクがフォーマットの対象ドライブとしてまったく表示されない**

**原因1** MS-DOSモードで再起動した状態でASPIFORM.EXEを実行した場合、このような状態になります。

**対処** Windows Me/98/95上の[マイコンピュータ]からASPIFORM.EXEを実行してください。[マイコンピュータ]→「A: (例:フロッピーディスクドライブがAの場合)」→「Aspiform.exe」を起動してください。

**原因2** 接続しているハードディスクがハード的に認識されていない可能性があります。

**対処** ・CBSC II 添付のケーブルを使用していますか？

・変換アダプタを使用していませんか？

変換アダプタは使用できません。弊社製別売オプションのSCSIケーブルをご使用ください。

・SCSI機器の電源を入れた状態で、パソコンに挿入しましたか？

・接触不良の可能性があります。

【インストール終了後の確認】(73ページ)を参照し、接続したSCSI機器の型名が表示されているかを確認してください。表示されていないようなら、すべてのSCSI機器の電源を切り、ケーブルの接続を確認してください。

**CBSC II を取り外し、フロッピーディスクのフォーマットを行うと次のエラーが発生する「ASPIManagerの初期化に失敗しました。」**

**原因** MOフォーマットアシスト (弊社製のMOに添付されています) が有効になっている為の現象です。

CBSC II を取り外した為ASPIManagerが動作しなくなりますが、

MOフォーマットアシストがASPIManagerをチェックしている為です。

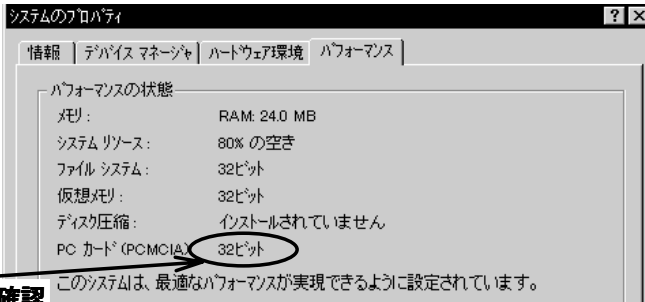
**対処** [OK] ボタンをクリックしてフォーマットを行ってください。

**【インストール終了後の確認】**で以下のようにになっている。

- ・ [デバイスマネージャ]の[種類に表示]でPCMCIAソケットの中に controllerがない
- ・ [デバイスマネージャ]でcontrollerに×マークがついている

**原因** PCカードドライバが32ビットではない。

**対処** [マイコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。  
PCカードのドライバが32ビットであることを確認してください。



ここを確認

32ビットになっていない場合は、[コントロールパネル]の[PCカード]アイコンをダブルクリックしてください。PCカードウィザードが起動されますので、画面の指示に従って実行していただくと32ビットに変わります。  
(詳細は、パソコン本体メーカーにお問い合わせください。)

### SCSI機器への書き込みが遅い (PC-9821シリーズの場合)

**原因1** 「16Mバイトシステム空間」が[切り離す]になっている。

**対処** 「98NOTEメニュー」で「16Mバイトシステム空間」が[使用する]の設定になっていることを確認してください。  
[切り離す]の場合は、正常に動作しませんので、変更してください。



### 参考

「98NOTE メニュー」は、「HELP」キーを押しながらパソコン本体の電源 ON またはリセットをすると起動します。詳しくはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。

**原因2** 内蔵のウィンドウアクセラレータが正常に動作していない。

**対処** 以下の手順で、ウィンドウアクセラレータが正常に動作しているかを確認してください。



### 注意

- ・ウィンドウアクセラレータが正常に動作していないと、CBSC II が正常に動作しない場合があります。
- ・「スタンダードディスプレイアダプタ」が動作している場合は、CBSC II を使用することができません。

**本製品に接続した機器のうち、スキャナのみ動作しない。（他の機器は正常に動作する）**

**対処** 【オプションの設定】(106ページ参照)を変更してみてください。  
CardBusモードのときは、「/P10/SYNCOFF」を追加、  
16ビットモードのときは「/SYNCOFF」を追加してみてください。

### スキャナが認識されない

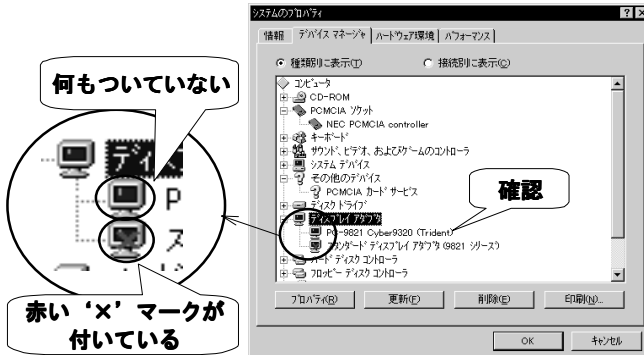
**対処** 以下をお試しください。

- ① [マイコンピュータ]を右クリックして[プロパティ]をクリックします。
- ② [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[SCSIコントローラ]をダブルクリックします。
- ③ [SCSIコントローラ]の下に表示される[CBSC II DuoSCSI Card XXXX]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。
- ④ [設定]タブをクリックし、[アダプタの設定]内に以下のオプションを付加してみてください。

「CardBusモード」の場合・・・「/SYNCOFF」や「/P10」を付加  
「16bitモード」の場合・・・「/SYNCOFF」を付加

### <確認方法>

- ① [マイコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- ② [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[ディスプレイアダプタ]をダブルクリックします。
- ③ ‘×’ マークも ‘!’ マークも付いていないウィンドウアクセラレータ (機種により表示は異なります) が表示されていることを確認してください。



(正常な場合)

ウィンドウアクセラレータに ‘×’ マークまたは ‘!’ マークがついている (機種により表示は異なります) 場合は、ディスプレイアダプタが正常に動作していません。

ウィンドウアクセラレータのドライバを正しくインストールしてください。

(インストール方法の詳細は、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。)

# MEMO

# 5 Windows NT 4.0で ご使用の場合



## パソコンとの接続

**142**ページ

本製品をSCSI機器やパソコンと接続します。



## インストール

**145**ページ

ドライバをインストールします。



## インストール終了後の確認

**147**ページ

PCカードドライバの確認を行います。



## RESEditについて

**149**ページ

リソースの競合を回避します。  
(Windows NT 4.0のみの機能です。)



## DOS上からWindows NT 4.0

をインストールするには **152**ページ

本PCカードを使ってWindows NT 4.0をインストールする方法です。



## 困った時には

**153**ページ

ご使用中に、トラブルがあった場合にご参照ください。



# パソコンとの接続



**注意!**

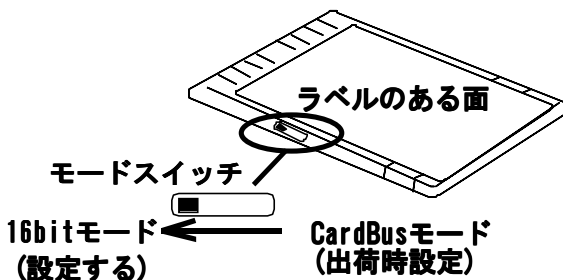
- ・ Windows NT 4.0はHOT PLUG（活線挿抜）には対応しておりません。  
必ずパソコンの電源を入れる前にCBSC IIを接続してください。
- ・ CBSC IIの取り外しは、必ずパソコンの電源を切った状態で行ってください。
- ・ PC-9821シリーズをお使いの場合は、ASPIFORMで複数のパーティションに分割したハードディスクを使用すると、Windows NT 4.0のディスクアドミニストレータが正常に動作しなくなります。  
これを回避するには以下の方法を行ってください。  
方法1:ASPIFORM.EXEで、1つのドライブとしてフォーマットする。  
方法2:ASPIFORM.EXEで、ディスクの初期化を行い、未フォーマット状態にし、ディスクアドミニストレータでフォーマットする。

## 1 CBSC IIを「16bitモード」に設定します。

Windows NT 4.0では「CardBusモード」では使用できません。

**必ず「16bitモード」に変更してから、ご使用ください。**

モードスイッチは、先が細く硬いピンなどで切り替えてください。



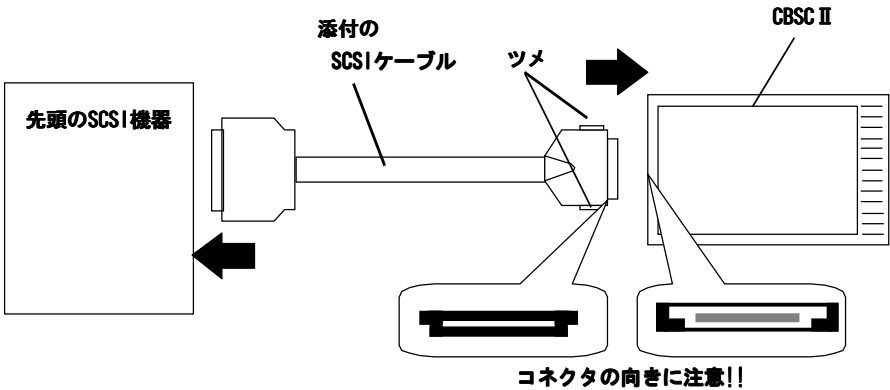
## 2 CBSC IIに取り付けるSCSI機器の電源をすべてOFFにします。

## 3 各SCSI機器のSCSI-IDの設定を行います。

各SCSI機器以外に、CBSC IIもSCSI-ID番号「7」を使用しますので、それぞれのSCSI機器は「0～6」内で、重ならないように設定します。詳細は各SCSI機器の取扱説明書をご覧ください。

#### 4 CBSC II と SCSI 機器を接続します。

1. 添付の SCSI ケーブルの大きい方のコネクタを SCSI 機器に接続します。  
「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
2. 添付の SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを CBSC II に接続します。  
コネクタの向きに注意し、「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
3. SCSI 機器の終端に付属のターミネータを取り付けます。



#### 警告!

- ・ SCSI ケーブルの コネクタの向きをよく確認して、SCSI 機器との取り付けを行ってください。
- ・ 他社製の SCSI ケーブルは、絶対に使用しないでください。CBSC II が破壊される恐れがあります。
- ・ SCSI 機器と本製品添付の SCSI ケーブルのコネクタが一致しない場合  
弊社製別売オプションの SCSI ケーブルを用意してください。  
変換コネクタによっては、SCSI ケーブル側のコネクタにダメージを与えるものがあります。変換コネクタは使用しないでください。万が一、誤って変換コネクタを使用してコネクタを破損した場合、保証対象外となりますのでご注意ください。



**注意!**

- ・2台以上のSCSI機器を使用する場合  
(接続台数はできるだけ2台を超えないようにしてください。)
  - ① 2台目以降に使用するSCSIケーブル(1台目と2台目を接続するSCSIケーブル含む)は、長さ30cm以下のケーブル(弊社製別売オプションA50-A50-S、H50-H50-SまたはA50-H50-S等)を使用してください。
  - ② ディジーチェーン接続をする場合で、Ultra SCSIハードディスクも接続する場合は、Ultra SCSIハードディスクは、アクティブターミネータに近い場所に接続してください。
- ・CBSC IIからSCSIケーブルを取り外す際は、コネクタの両側のツメを押しながら水平にカードから抜いてください。ツメを押しせずにカードを抜き、破損した場合は有料修理となりますので、ご了承ください。

## 5 CBSC II に接続した各SCSI機器の電源をONにします。

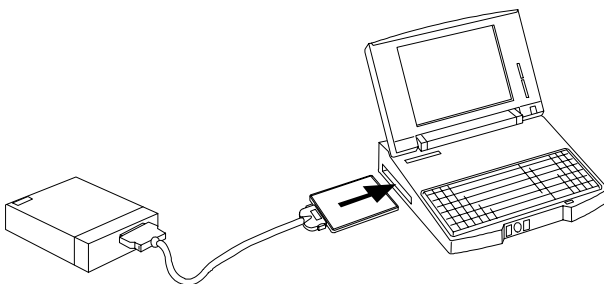


**注意!**

CBSC IIをPCカードスロットに挿入後、SCSI機器の電源を入れてもSCSI機器が認識されません。SCSI機器の電源を入れてからCBSC IIをPCカードスロットに挿入してください。

## 6 CBSC II をパソコンのPCカードスロットへ差し込みます。

CBSC IIをラベルが貼ってある面を上にしてパソコンのPCカードスロットへまっすぐに差し込みます。確実に差し込み、軽く引いても抜けないことを確認してください。



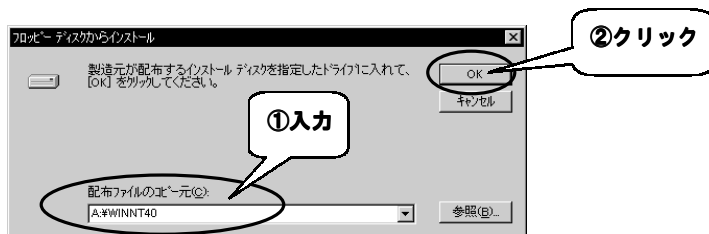
# インストール

- 1 パソコンの電源を入れます。**  
必ず「Administrator」権限でログオンしてください。
- 2 [コントロールパネル]を開きます。**  
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開きます。
- 3 [SCSIアダプタ]のアイコンをダブルクリックします。**
- 4 [ドライバ]タブを選択し、[追加]ボタンをクリックします。**  
[追加]ボタンがない場合は、「Administrator」権限でログオンしていない可能性が考えられます。「Administrator」権限でログオンしなおしてください。
- 5 「CBSC II サポートソフト」をフロッピーディスクドライブに挿入します。**
- 6 [ディスク使用] ボタンをクリックします。**

## 7 「CBSC II サポートソフト」内の¥WINNT40フォルダを入力します。

フロッピーディスクドライブの ¥WINNT40 フォルダを入力します。

A:¥WINNT40 (下線部入力：フロッピーディスクドライブがAの場合) 入力後、[OK] ボタンをクリックしてください。



### 参考

「Windows NT SCSIファイルへのフルパスを入力してください」と表示される場合は、再度上記のように入力してください。

## 8 「CBSC II DuoSCSI Card」、[OK] ボタンをクリックします。

CBSC II ドライバのインストールを開始します。

## 9 「CBSC II サポートソフト」を抜き、[はい] ボタンをクリックします。

⇒Windows NT 4.0が再起動されます。

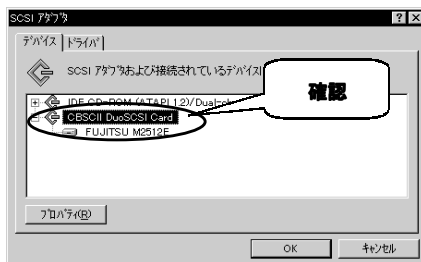
以上でインストール終了です。

# インストール終了後の確認

ここでは、CBSC IIが正常に設定されたかの確認について説明します。

以下の確認を行ってください。

- 1 **[SCSIアダプタ]を起動します。**  
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[SCSIアダプタ]を起動します。
- 2 **[CBSC II DuoSCSI Card]と表示されているか確認します。**
- 3 **[CBSC II DuoSCSI Card]をダブルクリックします。**
- 4 **接続している機器も表示されているか確認します。**  
表示されているのはSCSI機器の型名です。製品名とは異なります。  
(型名については、各メーカーにお問い合わせください。)



- 5 **[ドライバ]タブをクリックします。**
- 6 **「CBSC II DuoSCSI Card」が「起動済み」であることを確認します。**



**参考**

Windows NT 4.0においてCBSC IIに割り当てられたリソースの値を確認する方法は4つあります。

1. [コントロールパネル]→[SCSIアダプタ]→[プロパティ]→[リソース]タブ
  2. [コントロールパネル]→[PCカード]→[プロパティ]→[リソース]タブ
  3. [プロパティ]→[管理ツール(共通)]→[Windows NT 診断プログラム]→[リソース]タブ
  4. 「CBSC II サポートソフト」のWINNT40フォルダ内のRESEDIT.EXEで確認
- 上記方法の中の、1,2で表示される値は実際の値と異なる場合がありますので、3,4の方法で確認する事をおすすめします。

**正常に表示されていなかった場合**

接続されているSCSI機器が正常に認識されていなかった場合は、次ページの【RESEDITについて】をご覧ください。

# RESEDITについて

RESEDITは、非PnPのWindows NT 4.0において、万が一リソースの競合が発生した場合、それを回避するユーティリティです。

また、ドライバにオプションをつけることができる機能を備えています。



**注意!**

RESEDITを使用する時は、Windows NT 4.0にAdministratorでログオンしてください。Administratorでログオンしていないと、RESEDITが正常に動作しません。RESEDITによる変更の結果は他の権限でログオンし直した場合にも反映されます。

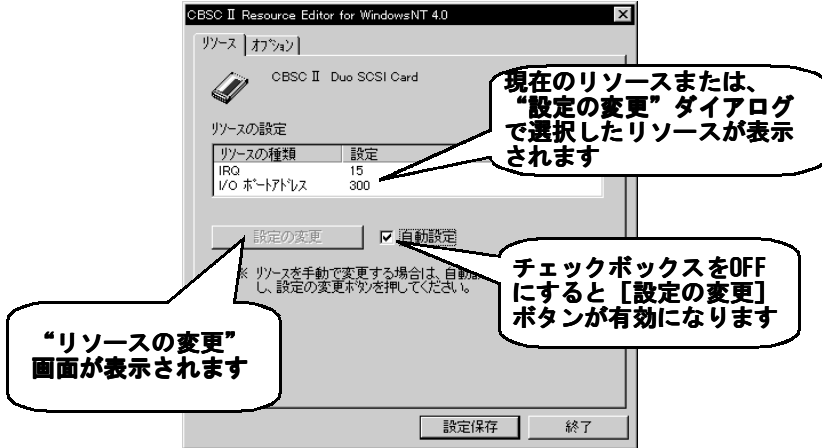
## 1 起動方法

「CBSC II サポートソフト」をフロッピーディスクドライブに入れて、  
[マイコンピュータ] → 「A: (例: フロッピーディスクドライブがAの場合)」 →  
[WINNT40] → 「Resedit.exe」を起動してください。



## 2 使用方法

### ● 「リソース」タブ



### ● “リソースの変更”画面

“IRQ”と“I/Oポートアドレス”に値を入力できます。  
そのまま、入力した値がCBSIC IIのリソースの値になります。

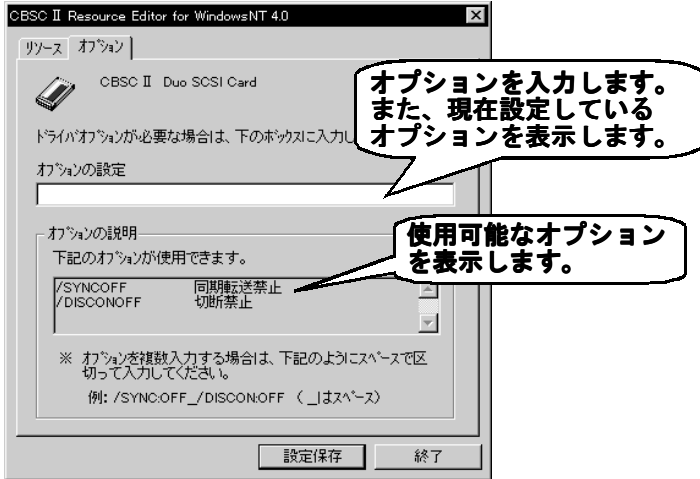
#### ＜リソースの変更方法＞

- ① [▼] ボタンをクリックし、“IRQ”と“I/Oポートアドレス”の値を選択します。
- ② [OK] ボタンをクリックします。
- ③ 設定を保存するかどうかを確認する画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてください。
- ④ 再起動するかどうかを確認する画面が表示されますので、サポートソフトを抜いて、[OK] ボタンをクリックしてください。

## ● 「オプション」タブ

CBS C II のドライバについているオプションを表示します。

“オプションの説明”を見ながら、オプションを付けることもできます。



### 《オプションの設定》

- ① [オプションの設定] に [オプションの説明] で表示されるオプションを入力します。

/SYNCOFF……………すべてのSCSI機器の同期転送を禁止します。  
/DISCONOFF……………すべてのSCSI機器の切断（ディスコネクト）を禁止します。

- ② [設定保存] ボタンをクリックします。  
⇒オプションが設定されます。

## DOS上からWindows NT 4.0をインストールするには

ここでは、MS-DOS (PC DOS) 上からCBSC IIに接続したCD-ROMドライブを使用して、内蔵ハードディスクにWindows NT 4.0をインストールする手順について説明します。

- 1 CBSC IIのMS-DOS用ドライバをインストールします。**  
【パソコンとの接続】(142ページ)～【インストール】(145ページ)を参照してください。
- 2 CBSC IIを「16bitモード」に設定します。**
- 3 CBSC IIにCD-ROMドライブを接続します。**
- 4 CBSC IIをパソコンに接続します。**
- 5 Windows NT 4.0をインストールします。**  
Windows NT 4.0を以下のオプションを付けた状態でインストールします。  
WINNT /S:D:¥1386 /B (例:CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- 6 インストールが開始されます。**
- 7 パソコン本体の電源をOFFにし、CBSC IIを取り外します。**  
インストールが終了したら、パソコン本体の電源をOFFにし、CBSC IIをPCカードスロットから取り外します。

以上でインストール終了です。

この後、Windows NT 4.0上でCBSC IIを使用する場合は、【インストール】(145ページ)を参照して、Windows NT用ドライバをインストールしてください。



### 参考

Windows 98/95の「MS-DOSプロンプト」、もしくはMS-DOS上からWindows NT 4.0をインストールすることもできます。これらOS上で、CBSC II、およびCD-ROMドライブを認識させ、MS-DOSプロンプトから「WINNT /S:D:¥1386 /B」(CD-ROMドライブがDの場合)を実行します。

## 困った時には (Windows NT 4.0)

- ・ SCSI 機器への書き込みが遅い (PC-9821 シリーズの場合)
- ・ CBSC II のドライバが「CBSC II Duo SCSI Card (未起動)」と表示される
- ・ SCSI 機器が認識されない

**原因** リソースが競合している場合があります。

**対処** 【RESEEDITについて】(149ページ)を参照して、リソースを変更してください。  
※カードを挿入しないで、RESEEDITを起動した場合は、リソースの設定欄に値は表示されません。  
※空いているリソースについては、パソコン本体メーカーに確認してください。または、Windows 98/95環境が同パソコン本体にインストールされている場合は、これらOS上で確認してください。

**【イベントビューワ】で「デバイス¥Device¥ScsiPort2 はタイムアウト期間内に応答しませんでした」とエラーが表示される**

**原因** IRQが競合している場合があります。

**対処** 【RESEEDITについて】(149ページ)を参照して、IRQの値を変更してください。  
※カードを挿入しないで、RESEEDITを起動した場合は、リソースの設定欄に値は表示されません。

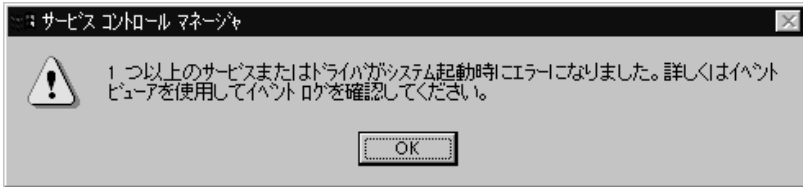
**インストール時に、[SCSIアダプタ]の[ドライバ]タブ内にある[追加]ボタンをクリックできない**

**原因** Windows NT 4.0に、「アドミニストレータ権限」にてログオンしていない。

**対処** 「アドミニストレータ権限」にてログオンしなおしてください。  
新しい機器の増設やセットアップなどを行う場合は、「ユーザー権限」ではなく、「アドミニストレータ権限」にてログオンしてください。

困った時には (Windows NT 4.0)

**サービスコントロールマネージャで、以下のようなエラーが表示される**



**原因1** CBSC II がしっかりと挿入されていない。

**対処** パソコンの電源を一度切り、CBSC II を抜いて、しっかりと挿入しなおしてください。

**原因2** CBSC II のモードスイッチが「CardBusモード」になっている。

**対処** パソコンの電源を一度切り、CBSC II を抜きます。  
【パソコンとの接続】(142ページ)の手順 **1** を参照して、「16bitモード」に設定してください。

# 6 Windows 3.1, MS-DOSで ご使用の場合



## 設定の前に

156ページ

PCカードドライバの確認を行います。



## インストール

157ページ

ドライバをインストールします。



## パソコンとの接続

163ページ

本製品をSCSI機器やパソコン本体と接続します。



## CBSC II ドライバの組み込み例

167ページ



## 各SCSI機器ドライバについて

172ページ



## Windows 3.1用ASPIドライバ

174ページ



## SCSI機器使用時の注意事項

175ページ



## SCSI機器のフォーマット

176ページ

ASPIFORMなどを使用し、SCSI機器をフォーマットします。



## デバイスドライバについて

178ページ



## ユーティリティソフトウェア

184ページ



## 困った時には

191ページ

ご使用中に、トラブルがあった場合にご参照ください。

## 設定の前に

本製品の設定を行う前にPCカードドライバ（ソケットサービス/カードサービス）がパソコンにインストールされていることが必要です。まずPCカードドライバがインストールされている事を確認してください。インストールされていない場合は、パソコン本体付属または別売のPCカードドライバのインストールを行ってください。PCカードドライバに関しては、各パソコンメーカーにお問い合わせください。



### 注意

PCカードドライバがお分かりにならない場合は、【CBSC II ドライバの組み込み例】（167ページ）を参照し、そちらに記載してあるソケットサービス/カードサービスのドライバがCONFIG. SYSにあるかどうかを確認してください。  
パソコンによって、使用可能なPCカードドライバは異なります。  
詳細はパソコン本体に付属の取扱説明書をご参照いただくか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

# インストール

Windows 3.1及びMS-DOSでCBSC IIを使用するための設定は、「CBSC II サポートソフト」に含まれるINSTALL. EXE (MS-DOS専用) を起動して行います。  
インストールが正しく終了すると、Windows 3.1やMS-DOS (PC DOS) 上でCBSC IIが使用できます。



## 注意

CBSC II のインストーラはマルチコンフィグレーション※に対応していません。  
マルチコンフィグレーションの場合、インストール先ディレクトリにサンプル  
が作成されますので、サンプルを参考にし、マルチコンフィグレーション環境の  
CONFIG. SYSとAUTOEXEC. BATIに反映させてください。

※マルチコンフィグレーションとはCONFIG. SYSの内容がいくつかのセクションに  
分割されているもののことです。

## 1 MS-DOSが起動していることを確認します。

MS-DOSが起動していること(コマンドプロンプトが表示されている状態)を確認します。(Windows 3.1が起動している場合は、Windows 3.1を終了してください。)

## 2 「CBSC II サポートソフト」を挿入し、INSTALL. EXEを実行します。

「CBSC II サポートソフト」をフロッピーディスクドライブに挿入し、そのドライブからINSTALL. EXEを実行します。

以下は、フロッピーディスクドライブがAの場合です。

```
C: ¥>A: 
```

```
A: ¥>INSTALL 
```

(下線部入力)





**注意**

パソコンにカードサービスが組み込まれていないとインストーラは途中で「組み込まれているカードサービスには対応していません。

リリース2.0以上のカードサービスを組み込んでください。」または、「カードサービスが組み込まれていません。

このプログラムを実行する前に、カードサービスを組み込む必要があります。」

と表示され、中断しますが、その場合はINSTALL.EXEを実行する際に、

“INSTALL /P”で実行することにより、ポイントインペラを使用して、インストールを行うことができます。

ただし、その場合はCD-ROMドライブ以外のSCSI機器は動作しません。

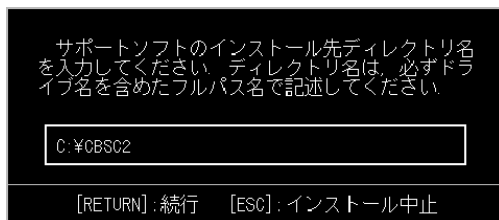
**3** キーを押します。

最初にこのプログラムの説明が表示されます。

そのまま キーを押して、次に進みます。

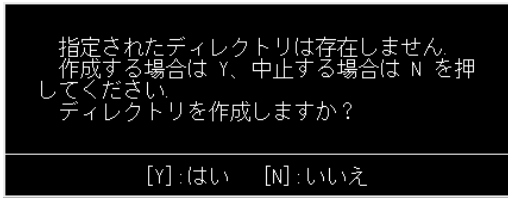
**4** サポートソフトのインストール先を指定し、 キーを押します。

表示されているディレクトリでなければ キーを押して、次に進みます。



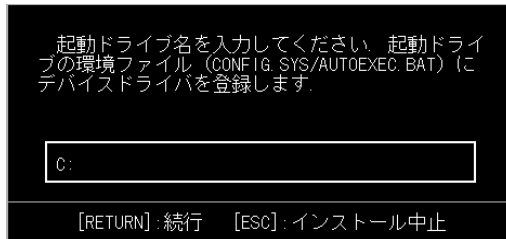
## 5 「Y」キーを押します。

ファイルのコピーが開始されます。



## 6 コピー終了後、起動ドライブの確認画面が表示されます。

表示されているドライブでよければ  キーを押して、次に進みます。

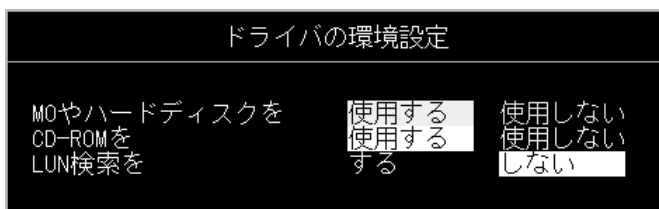


## 7 使用するSCSI機器に応じて各項目を選択し、**Enter**キーを押します。

[ドライバの環境設定]画面が表示されます。

使用するSCSI機器に応じて各項目を選択してください。

設定後、**Enter**キーを押してください。



使用するSCSI機器	設定項目
ハードディスク 3.5インチMO リムーバブルハードディスク Zip	[MOやハードディスクを] --> [使用する]を選択
CD-ROM	[CD-ROMを] --> [使用する]を選択
PD	[MOやハードディスクを] --> [使用する]を選択 [CD-ROMを] --> [使用する]を選択 [LUN検索を] --> [する]を選択
CD-ROMチェンジャ※	[CD-ROMを] --> [使用する]を選択 [LUN検索を] --> [する]を選択
スキャナ	設定の必要なし（[使用しない]及び[しない]を選択）

※ 弊社製CDC-TX86の場合は、[CD-ROMを]では[使用しない]を選択してください。

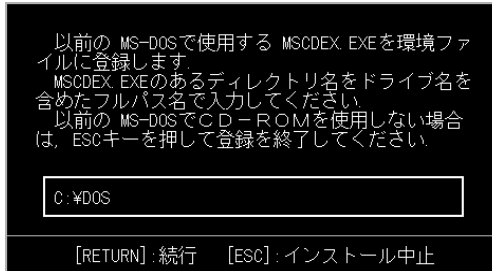
(CDC-TX86のドライバを本インストール終了後にインストールしてください。)

インストールの詳細は、CDC-TX86に添付の取扱説明書を参照してください。)

## 8 CD-ROMを使用する場合、MSCDEX.EXEをインストールします。 CD-ROMを使用しない場合、手順9へお進みください。

### CD-ROMを使用する場合、

CD-ROMエクステンション (MSCDEX.EXE) が必要となります。  
正確なMSCDEX.EXEの存在するディレクトリ名、またはMSCDEX.EXE及び  
MSCDEX.EX\_が入ったフロッピーディスクドライブ名を入力してください。  
(MSCDEX.EXEの詳細は各パソコンメーカーにお問い合わせください。)

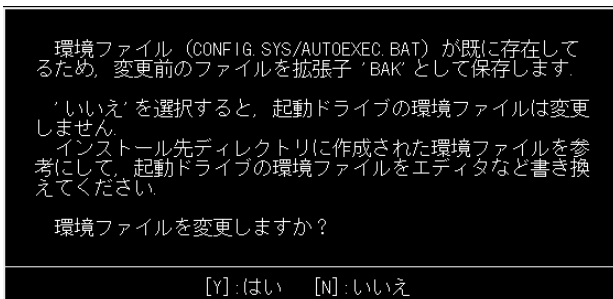


### 参考

MSCDEX.EXEをお持ちでない場合には、「ESC」キーを押せば、作業を続行することができます。ただし、CD-ROMドライバの組み込みは、行われません。組み込まれなかった場合は、後で組み込んでください。

## 9 環境ファイルの書き換えます。

特に問題がない場合、「Y」キーを押してください。

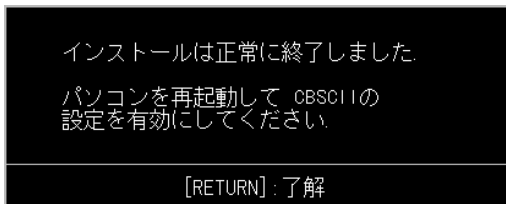


### 参考

「N」キーを押して書き換えを行わなかった場合には、CBSC II 用ドライバが組み込まれないため、インストール先ディレクトリの環境ファイル (CONFIG.SYS/AUTOEXEC.BAT) をお手持ちのテキストエディタ (SEDIT.EXE等) で編集する必要があります。(編集内容に関しては、【CBSC II ドライバの組み込み例】(167ページ)を参照してください。)

## 10 インストール終了の画面が表示されます。

キーを押して、パソコンを再起動してください。  
再起動後に、ドライバが有効となります。

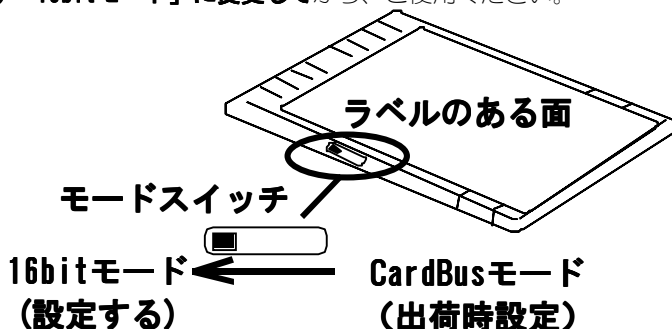


# パソコンとの接続

## 1 CBSC IIを「16bitモード」に設定します。

Windows 3.1及びMS-DOSでは「CardBusモード」では使用できません。

必ず「16bitモード」に変更してから、ご使用ください。



モードスイッチは、先が細く硬いピンなどで切り替えてください。

## 2 CBSC IIに接続するSCSI機器の電源をすべてOFFにします。

ここから、CBSC IIの取り付け作業に入ります。

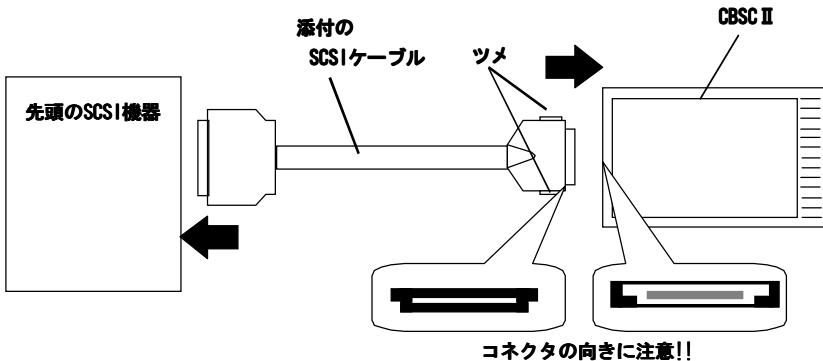
## 3 各SCSI機器のSCSI-IDの設定を行います。

各SCSI機器以外にCBSC IIもSCSI-ID「7」を使用しますので、それぞれのSCSI機器は「0～6」で重ならないように設定します。

(SCSI-IDの設定方法については各SCSI機器の取扱説明書参照)

## 4 CBSC II と SCSI 機器を接続します。

1. 添付の SCSI ケーブルの大きい方のコネクタを SCSI 機器に接続します。  
「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
2. 添付の SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを CBSC II に接続します。  
コネクタの向きに注意し、「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
3. SCSI 機器の終端に付属のアクティブターミネータを取り付けます。



### 参考

- ・ SCSI ケーブルのコネクタの向きをよく確認して、SCSI 機器との取り付けを行ってください。
- ・ 他社製の SCSI ケーブルは、絶対に使用しないでください。CBSC II が破壊される恐れがあります。
- ・ SCSI 機器と本製品添付の SCSI ケーブルのコネクタが一致しない場合別売の SCSI ケーブルを用意してください。  
変換コネクタによっては、SCSI ケーブル側のコネクタにダメージを与えるものがあります。変換コネクタは使用しないでください。万が一、誤って変換コネクタを使用してコネクタを破損した場合、保証対象外となりますのでご注意ください。
- ・ CBSC II の取り外しは、必ずパソコンの電源を切った状態で行ってください。


**注意!**
**・2台以上のSCSI機器を使用する場合**

(接続台数はできるだけ2台を超えないようにしてください。)

- ① 2台目以降に使用するSCSIケーブル(1台目と2台目を接続するSCSIケーブル含む)は、長さ30cm以下のケーブル(弊社製別売オプションA50-A50-S, H50-H50-SまたはA50-H50-S等)を使用してください。
- ② デジチェーン接続をする場合で、Ultra SCSIハードディスクを接続する場合は、Ultra SCSIハードディスクは、アクティブターミネータに近い場所に接続してください。

・CBSC II からSCSIケーブルを取り外す際は、コネクタの両側のツメを押しながら水平にカードから抜いてください。ツメを押しずにカードを抜き、破損した場合は有料修理となりますので、ご了承ください。

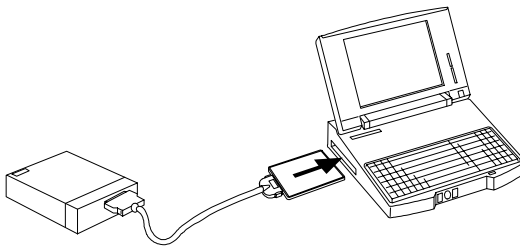
## 5 CBSC II に接続した各SCSI機器の電源をONにします。


**注意**

CBSC II をPCカードスロットに挿入後、SCSI機器の電源を入れてもSCSI機器が認識されません。SCSI機器の電源を入れてからCBSC II をPCカードスロットに挿入してください。

## 6 CBSC II をパソコンのPCカードスロットへ差し込みます。

CBSC II をラベルが貼ってある面を上にしてパソコンのPCカードスロットへまっすぐに差し込みます。確実に差し込み、軽く引いても抜けないことを確認してください。







**注意**

- ・ Windows 3.1上で、スキャナやWindows 3.1用SCSIユーティリティなどを使用する際に、Windows 3.1用ASPIドライバ (WINASPI.DLL) が必要となる場合があります。  
WINASPI.DLLのインストールに関しては、  
【Windows 3.1用ASPIドライバ】(174ページ)を参照してください。
- ・ 弊社製CDC-TX86をお使いの場合は、CDC-TX86に付属のサポートソフトのSCCHANG.SYSドライバを組み込んでください。  
(詳細については、CDC-TX86取扱説明書を参照してください。)

以上でインストールは終了です。次ページの【CBSC II ドライバの組み込み例】へお進みください。

## CBSC II ドライバの組み込み例

CBSC II シリーズサポートソフトが動作するためには、まずPCカードを利用するためのPCカードドライバ(ソケットサービス/カードサービス)がCONFIG. SYSに組み込まれている必要があります。組み込まれていない場合、パソコン本体付属のPCカードドライバの組み込みを行ってください。(PCカードドライバの詳細は、パソコンメーカーにお問い合わせください。)

ここでは、各機種毎でCD-ROMを使用する場合のPCカードドライバ及びCBSC IIのドライバのCONFIG. SYSへの組み込み例を示しています。CD-ROM以外の他のSCSI機器を使用する場合には、CBSC IIの組み込むドライバが異なります。

各SCSI機器に応じて、組み込むドライバを変更してください。(【各SCSI機器ドライバについて】(172ページ)参照)



### 注意

CD-ROM、PD、CD-ROMチェンジャを使用する場合は、CD-ROMエクステンション「MSCDEX. EXE」をAUTOEXEC. BATに組み込む必要があります。

<AUTOEXEC. BATの例>

```
¥DOS¥MSCDEX. EXE /D:CBSC001
```

※ MSCDEX. EXEはOSに添付されているファイルです。入手方法等については、パソコンメーカーへご確認ください。

**■DOS/Vマシン**

●Phoenix社の場合(EPSON Direct NT-500等) [“O” はオ、“0” はゼロ]

DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS

DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE X=C800-C8FF, X=C900-CFFF\* (メモリアネージャ)

(弊社 VMM386.EXEの場合  
C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=C8-C8,C9-CF\*)

DEVICE=C:¥PCM3¥CNFIGNAM.EXE /DEFAULT

DEVICE=C:¥PCM3¥PCMSS.EXE (ソケットサービス)

DEVICE=C:¥PCM3¥PCMCS.EXE (カードサービス)

DEVICE=C:¥PCM3¥PCMRMAN.SYS

DEVICE=C:¥PCM3¥PCMSCD.EXE

DEVICE=C:¥CBSC2¥CBSCENBL.SYS /PAUSE /V /IO=0110 (CBSC II 専用

DEVICE=C:¥CBSC2¥CBSCASPI.SYS PCカードドライバ)

DEVICE=C:¥CBSC2¥SCSICD.SYS /D:CBSC001 /ASPI (CBSC II 専用

↑ CD-ROM以外のSCSI機器を使用する場合は、  
【各SCSI機器ドライバについて】(172ページ)を参照してこの個所を各SCSI機器のドライバに変更してください。

CD-ROMドライブ用  
ドライバ)



**参考**

**\*占有メモリについて**

本製品はカード属性情報(タブル)を512バイト持っています。この情報を読み出すために使用するメモリのアドレス範囲が指定されています。

●SystemSoft社の場合(COMPAQ CONTURA 400等) [“o” はオ、“0” はゼロ]

DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS (メモリマネージャ)  
 DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE X=D000-DFFF\*

( 弊社 VMM386.EXE の場合  
 C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=D0-DF\* )

DEVICE=C:¥CARDSOFT¥SSVLSI.EXE ( ソケットサービス )

DEVICE=C:¥CARDSOFT¥PCMSMIX.EXE

DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CS.EXE ( カードサービス )

DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE

DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE C:¥CARDSOFT¥CARDID.INI

DEVICE=C:¥CBSC2¥CBSCENBL.SYS /PAUSE /V /IO=0110 (CBSC II 専用 PCカードドライバ)  
 DEVICE=C:¥CBSC2¥CBSCASPI.SYS (CBSC II 専用 CD-ROMドライブレ用ドライバ)  
DEVICE=C:¥CBSC2¥SCSICD.SYS /D:CBSC001 /ASPI

↑ CD-ROM以外のSCSI機器を使用する場合は、  
 【各SCSI機器ドライバについて】(172ページ)  
 を参照してこの個所を各SCSI機器のドライバ  
 に変更してください。



参考

\*占有メモリについて

本製品はカード属性情報(タプル)を512バイト持っています。この情報を読み出すために使用するメモリのアドレス範囲が指定されています。

●IBM社の場合(ThinkPad 230Cs等) [“o”はo、“0”はぜo]

DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS (メモリマネージャ)  
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE X=C800-CFFF\*  
( 弊社 VMM386.EXE の場合 )  
( C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=C8-CF )\*

DEVICE=C:¥EZGOING¥IBMDSS01.SYS /M ( ソケットサービス )

DEVICE=C:¥EZGOING¥IBMD0SCS.SYS ( カードサービス )

DEVICE=C:¥EZGOING¥DICRMU01.SYS /MA=C800-CFFF

DEVICE=C:¥EZGOING¥AUTODRV.SYS C:¥EZGOING¥AUTODRV.INI

DEVICE=C:¥CBSC2¥CBSCENBL.SYS /PAUSE /V /IO=0110 ( CBSC II 専用  
PCカードドライバ )

DEVICE=C:¥CBSC2¥CBSCASPI.SYS

DEVICE=C:¥CBSC2¥SCSICD.SYS /D:CBSC001 /ASPI ( CBSC II 専用  
CD-ROMドライブ用  
ドライバ )

↑  
CD-ROM以外のSCSI機器を使用する場合は、  
【各SCSI機器のドライバ】(172ページ)を参  
照してこの箇所を各SCSI機器のドライバに  
変更してください。



参考

\*占有メモリについて

本製品はカード属性情報(ダブル)を512バイト持っています。この情報を読み出すために使用するメモリのアドレス範囲が指定されています。

■PC-9821シリーズ

[ “O” はオ、“0” はゼ ]

```

DEVICE=A:¥DOS¥HIMEM.SYS                               (メモリアネージャ)
DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /E=DC00-DFFF*                (
    ( 弊社 VMM386.EXE の場合
      A:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=DC-DF* )
)
DEVICE=A:¥DOS¥SSDRV.SYS   ( ソケットサービス           )
DEVICE=A:¥DOS¥CS.EXE     ( カードサービス             )
DEVICE=A:¥DOS¥CSALLOC.EXE A:¥DOS¥CSALLOC.INI
DEVICE=A:¥DOS¥CARDID.EXE A:¥DOS¥CARDID.INI
DEVICE=A:¥CBSC2¥CBSCENBL.SYS /PAUSE /V                (CBSC II 専用
PCカードドライバ)
DEVICE=A:¥CBSC2¥CBSCASPI.SYS                          (CBSC II 専用
CD-ROMドライブ用
ドライバ)
DEVICE=A:¥CBSC2¥SCSICD.SYS /D:CBSC001 /ASPI

```

↑  
 CD-ROM以外のSCSI機器を使用する場合は、  
 【各SCSI機器ドライバについて】(172ペー  
 ジ)を参照してこの個所を各SCSI機器のドラ  
 イバに変更してください。



参考

\*占有メモリについて

本製品はカード属性情報(ダブル)を512バイト持っています。この情報を読み出すために使用するメモリのアドレス範囲が指定されています。

# 各SCSI機器ドライバについて

以下は、各SCSI機器使用時の[CONFIG.SYS]の設定例です。

通常、「CBSC II サポートソフト」のインストーラ (INSTALL.EXE) にて設定されます。CONFIG.SYSをエディタで編集する場合には、【CBSC II ドライバの組み込み例】(167ページ)を参照してCBSC II 専用PCカードドライバの後に登録してしてください。



## 注意

**CD-ROM、CD-ROMチェンジャ、PDを使用する場合**

以下のCONFIG.SYSでのドライバの設定以外に、AUTOEXEC.BATに  
CD-ROMエクステンション「MSCDEX.EXE」を組み込む必要があります。

<AUTOEXEC.BATの例>

```
¥DOS¥MSCDEX.EXE /D:CBSC001
```

## ■ハードディスク、リムーバブルハードディスク、3.5インチMOを使用する場合

DOS/Vマシンの場合

```
DEVICE=¥CBSC2¥ASPIDISK.SYS
```

ただし、ASPIDISK.SYSは640M/バイト以上のMOディスクを扱うことはできません。

PC-9821シリーズの場合

```
DEVICE=¥CBSC2¥ASP2BIOS.SYS
```

```
DEVICE=¥CBSC2¥BIOSDISK.SYS
```

- ・ 弊社製MOFシリーズをお使いの場合は、MOFシリーズに付属のサポートソフトのドライバを組み込んでください。

(詳細については、各MOFシリーズの取扱説明書を参照してください。)

## ■CD-ROMドライブを使用する場合

DOS/Vマシン、PC-9821シリーズ共通

```
DEVICE=¥CBSC2¥SCSICD.SYS /D:CBSC001
```

- ・ 弊社製CDVシリーズをお使いの場合は、CDVシリーズに付属のサポートソフトのドライバを組み込んでください。

(詳細については、各CDVシリーズ取扱説明書を参照してください。)

### ■CD-ROMチェンジャを使用する場合(弊社製CDC-TX86を除く)

DOS/Vマシン、PC-9821シリーズ共通

DEVICE=¥CBSC2¥SCSICD.SYS /D:CBSC001 /LUN

- ・弊社製CDC-TX86をお使いの場合は、CDC-TX86に付属のサポートソフトのSCCHANG.SYSドライバを組み込んでください。

(詳細については、CDC-TX86取扱説明書を参照してください。)

### ■SCSI-2未対応のCD-ROMドライブを使用する場合

各CD-ROMドライブ添付のCD-ROMドライバを使用してください。

### ■PDを使用する場合

DOS/Vマシンの場合

DEVICE=¥CBSC2¥ASPIDISK.SYS

DEVICE=¥CBSC2¥SCSICD.SYS /D:CBSC001 /LUN

PC-9821シリーズの場合

DEVICE=¥CBSC2¥ASP2BIOS.SYS

DEVICE=¥CBSC2¥BIOSDISK.SYS

DEVICE=¥CBSC2¥SCSICD.SYS /D:CBSC001 /LUN

### ■スキャナを使用する場合

Windows 3.1上でスキャナを使用する場合、スキャナによっては、Windows 3.1用ASPIドライバ(WINASPI.DLL)が必要になります。

次ページの【Windows 3.1用ASPIドライバ】を参照して、インストールしてください。

DOS/Vマシン、PC-9821シリーズ共通

CONFIG.SYSには、CBSC II専用のドライバ(CBSCENBL.SYSと

CBSCASPI.SYS)が登録されていれば、他に必要ありません。

### ■Zipの場合

Zipドライブの取扱説明書を参照してください。



# Windows 3.1用ASPIドライバ

「CBSC II サポートソフト」ディスクには、Windows 3.1用のASPIマネージャ (WINASPI. DLL) が添付されています。

Windows 3.1上で、スキャナやWindows 3.1用SCSIユーティリティなどを使用する際にASPIマネージャが必要となる場合があります。必要な場合にインストールして使用してください。

DOS/Vマシン及びPC-9821シリーズで使用できます。



## 注意

- ・ Windows 3.1用ASPIモジュール (WINASPI. DLL等) を使用する場合には、MS-DOS版のASPIマネージャ (CBSCASPI. SYS) がCONFIG. SYSに組み込まれている必要があります。
- ・ WINASPI. DLLは、Windows 3.1専用です。このファイルは他のOSには絶対に組み込まないでください。Windows 3.1以外では、ASPI機能が標準で提供されていますので、このファイルを組み込む必要はありません。  
誤ってWINASPI. DLLをWindows 3.1以外のOSの“SYSTEM”フォルダにコピーしてしまうと、そのOSは正常に動作しなくなる可能性があります。  
誤って組み込んだ場合には、必ず削除してください。

## ■インストール方法

インストールプログラムはありません。次の手順で組み込みを行ってください。

「CBSC II サポートソフト」ディスクの¥WIN31ディレクトリの WINASPI. DLLを Windows 3.1が組み込まれているディレクトリ内の“SYSTEM”ディレクトリにコピーします。

例) DOS上より以下のように入力してください。

以下は、フロッピーディスクのドライブがAドライブで、

Windows 3.1が“C:¥WINDOWS”ディレクトリに組み込まれている場合です。

COPY A:¥WIN31¥WINASPI. DLL C:¥WINDOWS¥SYSTEM

## SCSI 機器使用時の注意事項

- CBSC II に接続した SCSI 機器にアクセスしている時には、PC カードの挿入や抜き取りを行わないでください。
- パソコン起動前に SCSI 機器の電源を入れないと SCSI 機器が認識されません。必ず接続した SCSI 機器の電源を入れ、CBSC II を挿入してからパソコンを起動してください。  
また、SCSI 機器の電源を切る場合は、まずパソコンの電源を切り、その後に SCSI 機器の電源を切ってください。
- パソコンに CBSC II が挿入されたままの状態でのケーブルの取り付け及び取り外しは行わないでください。

# SCSI機器のフォーマット

ここでは、MS-DOS及びWindows 3.1でCBSC IIに接続の各SCSI機器のフォーマットに関する注意事項などを記載しています。

## 1 ハードディスクのフォーマット

### DOS/Vマシンの場合

ASPIFORM.EXEを使って、フォーマットしてください。

(ASPIFORM.EXEに関しては、【1 ASPI対応HDD/MO フォーマット】(184ページ)を参照してください。)

DOS上で以下のように入力してください。

A:  (フロッピーディスクドライブがAの場合)

ASPIFORM

### PC-9821シリーズの場合

MS-DOSのFORMAT.EXEを使って、フォーマットしてください。

ただし、DOS/Vマシン環境ではCBSC IIに接続してもデータの読み取りはできません。



### 注意

ハードディスクのフォーマットについての注意事項

MS-DOS Ver6.2では、2Gバイトまでの領域(区画)に対応しています。

2Gバイトを超える容量のドライブは、複数の領域に分割して、フォーマットしてください。(ただし、ASPIFORM.EXEでは、ハードディスクに作成可能な領域数(区画数)は最大5区画までです。)

## 2 リムーバブルハードディスク、3.5インチMO、Zipドライブ及びPDのフォーマット

ASPIFORM.EXEでフォーマットしてください。

(ASPIFORM.EXEに関しては、【1 ASPI対応HDD/MO フォーマッタ】(184ページ)を参照してください。)



### 注意

- ・MOのフォーマットを行った後、MS-DOS Ver6.x付属のSCANDISKで「F A Tメディアバイトが足りません」という内容のエラーが表示されますが、これはSCANDISKの仕様によるものです。特に修復を行う必要はありません。
- ・PC-9821シリーズをご使用時、3.5インチMOは、MS-DOSのFORMAT.EXEでは128Mバイトのメディアしかフォーマットすることができません。

# デバイスドライバについて

ここでは、サポートソフトに添付の各ドライバソフトについての注意事項などを記載しています。

## ●CBSCENBL. SYS

カードサービス用のイネーブラです。

このドライバを使用して I/Oアドレス/メモリアドレス(リソース)の設定を行います。

オプション	初期設定	説明
/V	設定済み	I/Oアドレスやメモリウィンドウアドレスの設定情報を表示します。
/PAUSE	未設定	エラー/警告メッセージ表示後、キー入力待ちにします。
/I0=xxxx	自動	ポートアドレスを指定します。 このオプションをつけないと自動設定になります。 (次ページの[ポートアドレス指定値について]参照)
/MEM=0 or 4	0	メモリマッピング長を指定します。 0を指定した場合 SMITモードは使用不可となります
/MODE=SMIT:H	PIO:H	SMIT(H)モード指定 特徴 ・Ultra SMIT方式により高速アクセス ・内蔵FIFOを利用した自己診断により、最適な転送モードを自動決定
SMIT:L		SMIT(L)モード指定 特徴 従来SMIT方式と同様の転送方式により高速アクセス
PIO:H		PIO(H)モード指定 特徴 I/Oアクセスにより転送
PIO:L		PIO(L)モード指定 特徴 8ビット I/Oアクセスにより転送

ポートアドレス指定値について

ポートアドレスはインストール時に自動決定されますが、使用環境によってはハードウェア的に競合する場合があります。(DOS/Vマシンではインストーラによって、110hと指定されます。)

また他のPCカードを同時に使用する場合、他のPCカードが使用するポートアドレスを CBSC II が先に確保してしまう場合も考えられます。

そのような場合の回避策としてオプションによるポートアドレスの手動選択を行ってください。

ポートアドレスの指定は 16進数 4桁で行います。

**《DOS/Vマシンの場合》**

0xx0と指定します。

(I/Oリソースの使用範囲は100hから3FFhの間が一般的ですが、使用するPCカードドライバによって若干異なります。)

**SYSTEMSOFT製 CARDSOFT**を採用している場合、CSALLOC. INI ファイルを参照します。

<CARDSOFT CSALLOC. INI I/Oリソース記述の例>

I0=108-1EF, 1F8-377, 380-3BF, 3E8-3EF

**Phoenix製 PCカードマネージャ**を採用している場合、

PCMCIAリソース管理ユーティリティPCMRMAN. EXEにて

I/Oリソースの確認をする事ができます。

**《PC-9821シリーズの場合》**

xxD0またはxxE0と指定します。

(xxの範囲はCSALLOC. INI ファイルを参照してください。)

<CSALLOC. INI I/Oリソース記述の例>

I0=B0-BF, D0-EF, 1D0-1EF, 2D0-2EF, 3D0-3DF, 3E8-3EF,  
4D0-4EF, 5D0-5EF, 6D0-6EF, 7D0-7EF, 888-88F, F40-F4F,  
10D0-10EF, 11D0-11EF, 12D0-12EF, 13D0-13EF, 14D0-14EF,  
15D0-15EF, 16D0-16EF, 17D0-17EF, 2800-287F, 2900-297F

<指定例> /I0=10D0

**●CBSCASPI. SYS**

ASPIマネージャです。

ここで設定できるオプションは、同期転送などのSCSI機器に依存するオプションの設定のみです。I/Oポートなどのカードに関するオプションの設定は、CBSCENBL. SYSのオプションで設定します。

書式 DEVICE=[ドライブ]:[¥/パス]¥CBSCASPI. SYS </L[+|-]> </S[+|-]>  
</D[+|-]> </[0-7]:オプション文字列>

オプション	初期設定	説明
/L[+ -]	+	ロジカルユニットの検索を許可(+)/禁止(-)します。 組込み時のデバイススキャン時に、ロジカルユニットも検索するかどうかを設定します。
/S[+ -]	+	同期転送を許可(+)/禁止(-)します。
/D[+ -]	+	ディスクネクトを許可(+)/禁止(-)します。

SCSI-ID指定オプション	説明
/[0-7]:オプション文字列	SCSI-ID ごとに上記のパラメータを設定します。 例1) SCSI-ID 0の同期転送を禁止する場合 /0:S- 例2) SCSI-ID 0の同期転送を許可し、ディスクネクトを禁止する場合 /0:S+D- 例3) SCSI-ID 0の同期転送を禁止し、SCSI-ID 1の同期転送を許可する場合 /0:S- /1:S+

**●ASP2BIOS. SYS**

PC-9821シリーズ用98BIOS互換ドライバです。

ここで設定できるオプションは、BIOSとしての動作に関するオプションのみです。同期転送などのSCSI機器に依存するオプションの設定は、CBSCASPI. SYSのオプションで設定します。また、I/Oポートなどのカードに関するオプションの設定は、CBSCENBL. SYSのオプションで設定します。

書式 DEVICE=[ドライブ]:[¥/パス]¥ASP2BIOS. SYS </Q[+|-]> </R[+|-]>  
</B[+|-]> </[0-7]:オプション文字列>

オプション	初期設定	説明
/Q[+ -]	+	クイックフォーマットを許可(+)/禁止(-)します。クイックフォーマットを指定した場合は、ベリファイコマンドとフォーマットコマンドが省略されます。
/R[+ -]	-	リムーバブルディスクのドライブ割り当てを許可(+)/禁止(-)します。
/B[+ -]	+	BIOSでのSCSI機器の認識を許可(+)/禁止(-)します。



**注意**

単純に「/B-」とした場合、すべてのIDが禁止されます。

SCSI-ID指定オプション	説明
/[0-7]:オプション文字列	SCSI-ID ごとに上記のパラメータを設定します。 例1) SCSI-ID 0のクイックフォーマットを禁止する場合 /0: Q- 例2) SCSI-ID 0のクイックフォーマットを許可し、SCSI-ID 1のBIOS認識を禁止する場合 /0:Q+ /1:B- 例3) SCSI-ID 1のみBIOSで認識させる場合 /B- /1:B+



### ●BIOSDISK. SYS

PC-9821シリーズ用のSCSI BIOS対応のディスクドライバです。  
ハードディスク/MOドライブをMS-DOSのディスクとして認識させます。  
Pオプションでディスク自動解析機能付きで起動することができます。

書式 DEVICE=[ドライブ]:[¥/パス]¥BIOSDISK. SYS </P>

オプション	説明
/P	ドライブをつなぎ変えた時に自動的に、ディスクパラメータの自動解析機能を起動します。

### ●ASPIDISK. SYS

DOS/Vマシン用のASPI マネージャ対応のディスクドライバです。  
ハードディスク/MOドライブをDOSのディスクとして認識させます。  
PC-9821シリーズでも使用可能ですが、ASP2BIOS. SYS, BIOSDISK. SYSと同時に組み込まないでください。

書式 DEVICE=[ドライブ]:[¥/パス]¥ASPIDISK. SYS

オプション	説明
/ID=n, n, n. . .	nは、認識させるIDを列挙します。 例えば、SCSI-ID 0と2のみ認識させる場合には、/ID=0, 2と記述します。



#### 注意

ASPIDISK. SYSは640Mバイト以上のMOディスクを扱うことはできません。

## ●SCSI CD. SYS

ASPIマネージャ及びSCSI BIOS対応のCD-ROMドライバです。

SCSI-1対応のCD-ROMには使用できません。

SCSI-2対応のCD-ROMにのみ対応しています。

PDやCD-ROMチェンジャ(弊社製CDC-TX86を除く※)などを使用する場合には、LUNオプションを指定して、ロジカルユニットも検索するように設定してください。

※弊社製CDC-TX86を使用する時は、CDC-TX86に付属のサポートソフトのSCCHANG. SYSドライバを組み込んでください。(詳細はCDC-TX86取扱説明書参照)

CD-ROMドライブで次にあげる規格のCD-ROMは、正常に再生/読み出しができない場合があります。

(弊社製CDG/CDVシリーズの場合は、下記の規格にも対応しています。)

その場合には、CD-ROMドライブに付属のドライバを組み込んでください。

マルチセッション CD-ROM

マルチセッション PhotoCD

Video CD

CD-I

CD-DA (オーディオCD)

書式 DEVICE=[ドライブ]:[¥/パス]¥:XXXXXXXX /D:YYYYYYY </LUN>

XXXXXXXX CD-ROMドライブに付属のドライバ名を指定します。

/D:YYYYYYY デバイス名を最大8文字で指定します。

/LUN LUNも検索します。

# ユーティリティソフトウェア

## 1 ASPIFORM. EXE対応HDD/MOフォーマッタ (ASPIFORM. EXE)

ASPIFORM. EXEは、ハードディスクやMOのフォーマットプログラムです。

ハードディスク、Zipドライブは、FDISK互換形式 (DOS/Vフォーマット互換形式) でフォーマットを行います。

MO、PDIは、スーパーフロッピー形式 (IBMフォーマット/セミIBMフォーマット) でフォーマットを行います。



### 参照

ASPIFORM. EXEの操作方法に関しては、【**83** Windows Me/98/95上でのフォーマット (ASPIFORM. EXE)】(83ページ)を参照してください。



### 注意

- ・ ASPIFORM. EXEでは、作成可能な領域数 (区画数) は最大5区画までです。
  - ・ HDD (リムーバブルを除く) の場合、必ずパーティションを1つ以上作成してください。作成しないと使用できません。
  - ・ ハードディスクをPC-9821シリーズのWindows NT 4.0でも使用する場合、複数パーティションを作らないでください。複数パーティションを作成したい場合は、【パソコンとの接続】(142ページ)の“注意”をご参照ください。
  - ・ 640Mバイト、1.3Gバイトなどの大容量MOメディアのフォーマットは、MOドライブ添付のフォーマッタをご使用ください。
  - ・ ASPIFORM. EXEでフォーマットしたハードディスクは、PC-9821シリーズのデスクトップに接続した場合、MS-DOSでは使用できません。
  - ・ ASPIFORM. EXEでフォーマットしたドライブまたはディスクからは、ブートすることができません。
- ASPIFORM. EXEでの1パーティションの最小容量は、ハードディスクの全容量が1024Mバイト未満の場合は「33Mバイト」、1024Mバイト以上の場合は「39Mバイト」です。

## ●ASPIFORMでのMS-DOS(PC DOS)による使用容量制限

ASPIFORM.EXEは、使用しているDOSによって作成できるパーティションの最大容量が異なります。

使用OS	FAT16
NEC製 MS-DOS Ver6.2	○(2047M/バイトまで)※
DOS/V製 MS-DOS(PC DOS) Ver5.0/V以降	○(2047M/バイトまで)※

※ MS-DOS(PC DOS)の制限により、合計で約8033M/バイトまでのハードディスクしか認識できません。ASPIFORMで合計約8033M/バイトを超える容量を設定しないでください。



**注意**

**MS-DOS(PC DOS)では、FAT32でフォーマットされたディスクにはアクセスできません。**

## ② ハードディスクパラメータの表示 (HDDP.COM) [PC-9821シリーズ&DOS専用]

HDDP.COMプログラムは、PC-9800シリーズでのCBSC IIのマルチベンダー機能を活用するための補助プログラムです。

通常は、今までPC-9800シリーズで使用していたハードディスクをCBSC IIに接続し、[GRPH]+[P]キーでディスクを解析しディスクパラメータを登録させること（188ページの【③ SCSI HDパラメータ自動解析プログラム】参照）で、ハードディスクをフォーマットし直すことなくアクセスできるようになります。

もし何らかの理由でパラメータ自動解析が失敗した場合には、HDDP.COMをご使用ください。HDDP.COMで取得したパラメータをCBSC IIに手動設定（「SCSI HDパラメータ自動解析プログラム」で登録）することで、同様にアクセスすることが可能となります。

以下はHDDP.COMの使用手順です。

- 1 ハードディスクを従来使用していたパソコン環境に接続します。
- 2 ハードディスク及びパソコンの電源をONにします。
- 3 パソコン起動後、HDDP.COMを実行します。  
ディスクパラメータが表示されますのでそれを紙に書き写します。

HDDP.COMの表示例 )

SCSI-ID	△
シリンダ数	△△△
ヘッド数	△△
セクタ数	△△
セクタ長 (Bytes)	△△△
ドライブ容量 (MB)	△△△

- 4 パソコン及びハードディスクの電源をOFFにします。
- 5 ハードディスクをCBSC IIに接続し直します。

- 6 パソコンの電源がOFFとなっているのを確認します。
- 7 CBSC II をパソコンに接続します。
- 8 ハードディスク、パソコンの電源をONにします。
- 9 紙に書き写したディスクパラメータを登録します。  
「SCSI HDパラメータ自動解析プログラム」画面で紙に書き写したディスクパラメータを登録します。（次ページの【9】SCSI HDパラメータ自動解析プログラム】参照。）
- 10 設定画面を閉じます。
- 11 ハードディスクからシステムを起動します。
- 12 ディスクアクセスが正常に行えることを確認します。

以上で設定終了です。



**注意**

マルチベンダー機能を利用してディスクパラメータを変更したハードディスクは、Windows Me/98/95では正常にアクセスできません。Windows Me/98/95をご使用になる場合には、登録したディスクパラメータを削除後（次ページの【9】SCSI HDパラメータ自動解析プログラム】参照）、再度フォーマットを行った後でご利用ください。

### ③ SCSI HDパラメータ自動解析プログラム [PC-9821シリーズ&DOS専用]

他社製のインターフェイスボードを使用してフォーマットされたハードディスクに正常にアクセスできない場合には、CBSC IIのマルチベンダー機能※（ディスクパラメータ登録）をお使いください。

※ CBSC IIには、他社製のインターフェイスボードを使用してフォーマットされたハードディスクを、PC-9821シリーズ上でフォーマットし直すことなしにCBSC IIで使用するための機能（マルチベンダー機能）があります。



#### 注意

- ・ 予め、CONFIG. SYSにCBSC II専用ハードディスク用ドライバ（BIOSDISK. SYS）が組み込まれていることを前提としています。
- ・ マルチベンダー機能を利用したハードディスクは、Windows Me/98/95では正常にアクセスすることができません。ハードディスクをWindows Me/98/95でもご使用になる場合には、登録したディスクパラメータを削除してからフォーマット後、Windows Me/98/95でご使用ください。

以下はディスクパラメータの変更及び削除の手順です。

#### 1 IDスキャンが開始されたら、「GRPH」キー+ [P]キーを押します。

パソコン本体起動後、IDスキャンが開始されたら（「Available ID =」の表示がでたら）、「GRPH」キーを押したまま[P]キーを押します。

## 2

「SCSI HD/パラメータ自動解析プログラム」画面が表示されます。自動的に解析できた場合は、MODEL、シリンダ、ヘッド、セクタ、容量、OS名の個所が表示され、結果の個所に○、登録の個所に×が表示されます。

SCSI HD/パラメータ自動解析プログラム V2.xx Copyright (C)1995,96 I-O DATA DEVICE, INC. Workbit Corporation.							
ID	MODEL	シリンダ	ヘッド	セクタ	容量	OS名	結果 登録
0	▲▲▲▲	△△△	△△	△△	△△△	△△△△△	○ X
1	■ ■ ■ ■						X X
2							
3							
4							
5							
6							
7							
前回登録値:							
[↑↓] : ID変更 [F-1] : 登録 [DEL] : 登録抹消 [TAB] : 修正モード [ESC] : 終了 [TAB] : カラーモード							

- 「↑」「↓」キー：設定を行うIDを選択します。
- 「f 1」キー：ディスクパラメータの登録を行います。
- 「DEL」キー：前回登録したディスクパラメータの削除を行います。
- 「HELP」キー：ディスクパラメータの修正モードに移ります。
- 「ESC」キー：設定を終了します。
- 「TAB」キー：画面モード（カラー及びモノクロ）を変更します。



### 3 データの登録を行います。

#### **[ハードディスク自動解析結果が○だった場合]**

ハードディスクのSCSI-IDの位置に [↑] [↓] キーで移動し、「f1」キーを押して登録してください。

#### **[ハードディスクの自動解析結果が×だった場合]**

HDDP.COMでハードディスクのパラメータを調査してください。

(【2】ハードディスクパラメータの表示) (186ページ) 参照) 調査後、再度「SCSI HDパラメータ自動解析プログラム」を起動し、「HELP」キーを押してディスクパラメータ修正モードに移ります。修正(設定)したいデータ(シリンダ数、ヘッド数、セクタ数)位置に「←」「→」キーで移動し  キーを押します。修正(設定)したいデータを入力し、 キーを押すとデータが設定されます。データをすべて修正(設定)したら、「f1」キーでデータの登録を行います。

Windows Me/98/95で使用するために、ディスクパラメータを削除する場合は、「DEL」キーを押します。登録していたディスクパラメータが削除されます。

### 4 再起動します。

以上で設定終了です。「SCSI HDパラメータ自動解析プログラム」を閉じ、そのままシステムを再起動してください。

## 困った時には (Windows 3.1、MS-DOS)

### ハードディスクが使用できない

**原因1** PC-9821シリーズで、ハードディスクを弊社製以外のインターフェイスで使用していた為です。

**対処** パソコン起動時にディスクパラメータの登録（ディスクパラメータの自動解析によるデータ設定）を行ってください。

（【**3** SCSI HDパラメータ自動解析プログラム】(188ページ)参照）

何らかの理由で自動解析が失敗した場合には、HDDP.COMを使用してください。

（【**2** ハードディスクパラメータの表示】(186ページ)参照）

**原因2** PC-9821シリーズで、MS-DOS上でCBSC II のマルチバンダー機能を利用してハードディスクを使用していたためです。

**対処** ディスクパラメータを標準設定に変更してください。（変更方法に関しては、【**3** SCSI HDパラメータ自動解析プログラム】(188ページ)参照）

### CBSC II 及び接続したSCSI機器が認識されない

**原因1** CBSCENBL.SYSに「/MEM=4」オプションがつけられている。

**対処** 【デバイスドライバについて】(178ページ)を参照して、CBSCENBL.SYSの「/MEM」オプションを「/MEM=0」に設定してください。

**原因2** モードスイッチが「16bitモード」になっていない。

**対処** 【パソコンとの接続】(163ページ)の手順 **1** を参照して、モードスイッチを「16bitモード」に設定してください。

困った時には (Windows 3.1、MS-DOS)

**デスクトップ環境でUSBキーボードを使用時、CBSC II を装着したまま起動すると、起動中に止まってしまう**

**対処** /MSGONオプションを削除してください。

**スキャナが認識されない**

**対処** 以下をお試しください。

- ① [コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]で[SCSIコントローラ]をダブルクリックします。
- ② [SCSIコントローラ]の下に表示される[CBSC II DuoSCSI Card XXXX]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。
- ③ [設定]タブをクリックし、[アダプタの設定]内に以下のオプションを付加してみてください。

「CardBusモード」の場合・・・「/SYNCOFF」や「/PIO」を付加

「16bitモード」の場合・・・「/SYNCOFF」を付加

# ふるく



用語解説

194ページ



ハードウェア仕様

195ページ

# 用語解説

## PCMCIA (ピーシーエムシーアイエイ)

クレジットカードサイズに半導体を高度実装し、非常に高い機能を超小型で実現する「PCカード」のための規格です。ハードウェア、ソフトウェアの両方とも規定されています。

## ASPI (アスピー)

SCSI機器を使用するためのソフトウェア規格です。

ホストボード側と周辺機器側の2種類あり、ハードディスクやCD-ROMを使用するためのドライバソフトは、ASPIドライバと呼ばれ、SCSIホストカード側はASPIマネージャと呼ばれています。

## LUN (エルユーエヌ)

SCSIはIDとLUN(Logical Unit Number)を使用し、相手を選択します。通常のSCSI(ワイドや拡張LUNなし)ではID0~ID7、LUN0~LUN7で、1つのIDに対しLUNが8つあります。

## INT 1Bh

SCSIボードが搭載されたNEC/EPSON機でSCSI機器をアクセスする際に使用するソフトウェア割り込みです。通常PC-9800シリーズ用のCD-ROMドライバやユーティリティはこのソフトウェア割り込みを使用して動作しています。

# ハードウェア仕様

型番	CBSC II	
モード	CardBusモード	16bitモード
SCSI PCカード	PCカード規格準拠	
SCSI ID	ID=7 固定	
使用するI/O	任意の連続した128バイト	任意の連続した16バイト
使用するIRQ	任意の割り込み ※MS-DOS (PC DOS)、Windows 3.1では使用しません	
使用するメモリウィンドウ	任意の連続した4Kバイト ※PC-9821シリーズのWindows 98/95環境のみ任意の連続した128Kバイト ※Windows NT 4.0では使用しません	
SCSI インターフェイス	Ultra SCSI	SCSI-2
電源電圧	+3.3V±5%	+5V±5%
消費電流	60mA(最大)	30mA(最大)
外形寸法	85.6×54.0×5.0 (mm)	
重量	30g	

## ●カード側コネクタ ピンアサイン表

1	TERMPWR	6	-I/O	11	-BSY	16	-DB6	21	GND
2	-ACK	7	-C/D	12	-ATN	17	GND	22	-DB2
3	-GND	8	-SEL	13	GND	18	-DB5	23	-DB1
4	-REQ	9	-MSG	14	-DBP	19	-DB4	24	-DB0
5	GND	10	-RST	15	-DB7	20	-DB3	25	GND

## サポートセンターへのお問い合わせ

### ■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名。
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

### ■オンライン

インターネット <http://www.iodata.co.jp/support/>

### ■郵便

住所 〒920-8513  
石川県金沢市桜田町2丁目84番地 アイ・オー・データ第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器  
サポートセンター「CBSC II」係 宛

### ■電話

電話番号 本社 076-260-3661  
東京 03-3254-1085  
受付時間 9:30～19:00  
月～金曜日（祝祭日を除く）

### ■FAX

FAX番号 本社 076-260-3360  
東京 03-3254-9055  
宛先 株式会社アイ・オー・データ機器  
サポートセンター「CBSC II」係 宛

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。  
予めご了承ください。

## サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

### ■オンライン

インターネット <http://www.iodata.jp/lib> → 「サポートライブラリ」

### ■サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地  
アイ・オー・データ第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器  
「CBSC II」 サービス窓口 宛

電話番号 076-260-3663

受付時間 9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

### ご注意

- オンラインによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
- このサービスへのご質問は、弊社サポートセンターやサービス窓口ではお受けできません。



## 保証について

### ◎ 保証期間

- ・保証期間は、お買い上げの日より5年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有料修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。（添付のハードウェアシリアルNo. シールを必ずお貼りください。）
- ・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。  
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

### ◎ 保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

- ・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
- ・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

## 修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認のうえ、販売店へご依頼いただくか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願いいたします。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。また、修理品のデータに関しましては保証いたしかねます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  - ◇保証書がない場合
  - ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  - ◇逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  - ◇落雷などの事故による破損の場合
  - ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。
- 修理品送付先

住所 〒920-8513

石川県金沢市桜田町2丁目84番地 アイ・オー・データ第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器  
「CBSC II」修理係 宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便または書留郵便小包でのご送付をお願いいたします。

- 修理品納期問い合わせについて

受付窓口 「CBSC II」 サービス窓口

電話番号 本社 076-260-3663

受付時間 9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、こちらまでお問い合わせください。

CBSC II 取扱説明書  
2001. Oct. 19 19804-03  
発行 株式会社アイ・オー・データ機器  
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 1998-2001 I-O DATA DEVICE, INC. All rights reserved.  
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので  
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにVerシールをお貼りください

Verシール